

# 平成27年度業務実績報告書

平成28年6月  
独立行政法人国立美術館



# 目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会	9
④ 国立美術館 5 館合同企画展	11
⑤ 巡回展	11
(2) 美術創造活動の活性化の推進	12
① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	12
② 新しい芸術表現への取組	13
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	16
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	16
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	18
(4) 国民の美的感性の育成	21
① 幅広い学習機会の提供	21
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	24
③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動	27
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	27
① 調査研究一覧	27
② 展覧会カタログの執筆	35
③ 研究紀要の執筆	38
④ 館ニュース等の執筆	40
⑤ 所蔵作品目録等の執筆	44
(6) 快適な観覧環境の提供	46
① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応	46
② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	47
③ 入場料金、開館時間等の弾力化	48
④ キャンパスメンバーズ制度の実施	50
⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	50
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	53
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	56
① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	56
② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	57
(3) 所蔵作品の修理・修復	57
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	59
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	63
① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	63
② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	82
(2) 国内外の美術館等との連携	85

① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	85
② 我が国の作家，美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	90
③ その他海外の美術館との連携・協力	91
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	91
(4) 所蔵作品の貸与等	92
① 作品の貸与	92
② 映画フィルムの等の貸与	93
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	93
① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	93
② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	94
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	95
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	95
① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究	95
② キュレーター研修	96
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	96
① 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）の正会員としての活動	96
② 日本映画情報システムの運営	96
③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充	96
④ 映画関係団体等との連携	96
⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	97

## II 業務運営の効率化

1 業務の効率化のための取組	98
(1) 各美術館の共通的な事務の一元化	98
(2) 使用資源の削減	98
(3) 美術館施設の利用推進	101
(4) 民間委託の推進	101
(5) 競争入札の推進	102
2 事業評価及び職員の研修等	102
3 管理情報の安全性向上	103
4 人件費の抑制，給与体系の見直し	103

## III 予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画

1 予算	105
2 収支計画	106
3 資金計画	107
4 貸借対照表	108
5 短期借入金	108
6 重要な財産の処分等	108
7 剰余金	108
8 人事に関する計画	109
9 施設整備に関する計画	111
10 関連公益法人	111

(別紙1) 公益調達の適正化（財計第2017号）等に即した実施状況  
(別紙2) 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

## I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

### 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

#### (1) 多様な鑑賞機会の提供

##### ① 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数	
東京国立近代美術館	本館【注1】	292	4	195,110	140,000
	工芸館【注2】	182	3	41,981	35,000
京都国立近代美術館	【注3】	266	5	115,233	106,500
国立西洋美術館	【注4】	255	7	268,838	310,000
国立国際美術館		125	1	41,084	64,000
計	1,120	20	662,246	655,500	

【注1】 皇居乾門開門に伴い臨時開館した（12月7日）ため、開催日数が当初予定の291日から変更となった。

【注2】 皇居乾門開門に伴い臨時開館した（12月7日）ため、開催日数が当初予定の181日から変更となった。

【注3】 コレクション展の会期変更に伴い臨時休館した（3月23日）ため、開催日数が当初予定の267日から変更となった。

【注4】 館内整備のため、4日間（10月6日～10月9日）全館休館し、16日間（3月1日～3月18日）所蔵作品展を閉室した。一方で、4日間（10月13日、11月2日、1月4日、3月28日）臨時開館したため、開催日数が当初予定の271日から変更となった。

#### 各館の特徴

##### ア 東京国立近代美術館

###### (本館)

コレクションの特徴を生かしつつ、新収蔵作品の活用や研究成果のいち早い公開を積極的に行っている。平成27年度は、戦後70年を記念し、所蔵品ギャラリー全12室を使用して特集「誰がためにたたかう？」を実施したほか、東京国立近代美術館で所蔵する藤田嗣治作品全26点（戦争画14点を含む）を初めて一挙公開した特集「藤田嗣治、全所蔵作品展示。」を開催した。

###### (工芸館)

夏季の「こども+おとな工芸館ピカ☆ボコーオノマトペで読みとく工芸の魅力」では、日本語に多種多様に存在するオノマトペ（擬態語・擬声語）を切り口に、子どもと大人が一緒に工芸の質感を味わうことのできる機会を提供した。また、「1920～2010年代 所蔵工芸品に見る 未来へつづく美生活展」では、華やかな装飾を排したモダンな生活へのあこがれや、丁寧な暮らしの中に豊かさを見出す現代の美意識を「美生活」という新たなキーワードとして表現し、1920年代から生活の美意識とともにある工芸の魅力を紹介した。会場の一部では著名な現代デザイナー2名とのコラボレーション展示を行い、鑑賞の新たなきっかけと工芸に対する親しみやすさを感じられるよう構成した。

##### イ 京都国立近代美術館

「キュレトリアル・スタディズ09：上野リチのテキスタイル・デザイン～ウィーン工房から京都へ」では、平成18・20年度に受贈したウィーン生まれのデザイナー上野リチの作品・資料から、彼女の主たる活動領域であったテキスタイル関係のものを選び、大阪新美術館建設準備室の協力を得て、ウィーン工房時代から京都時代に至るリチのテキスタイル・デザインを概観する展示を行った。また、「キュレトリアル・スタディズ10：写真の〈原点〉再考—ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から」では、世界初の写真集『自然の鉛筆』を軸に、所蔵する写真コレクションから選んだ作品・資料と、写真家・畠山直哉の写真作品を対置させ、写真の複数の〈原点〉について考察する展示を行った。

## ウ 国立西洋美術館

常設展では、国立西洋美術館の所蔵作品から約 170 点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、中世末期から 20 世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行った。また、版画素描展示室では、計 3 本の小企画展を開催し、素描・版画コレクションの多様な側面を紹介した。

そのほか平成 27 年度は、「没後 50 年 ル・コルビュジエ — 女性と海 大成建設コレクションより」において、国立西洋美術館本館の設計者ル・コルビュジエの没後 50 年を記念し、大成建設より寄託を受けているル・コルビュジエ作品の中から、彼にとって自然の象徴である「女性」と「海」を主題とした絵画、素描、コラージュ、写真資料を展示した。

## エ 国立国際美術館

平成 27 年度は、特別展で所蔵作品展のスペースを使用していたため、コレクション展は 10 月からの開催となったが、「竹岡雄二 台座から空間へ」開催中にはコレクション 2 において竹岡芸術がもつ特質から 5 つをテーマとして選び、所蔵作品を紹介するなど、引き続き特別展の展示内容と関連づける等の工夫を行った。またコレクション 1 では近年収蔵した未公開作品を、選りすぐりの名品と組み合わせながら展示することで、既存のコレクションに新たな光をあてた。なお、コレクション 1, 2 各展覧会では、平成 27 年度特別購入予算で購入した最新の所蔵作品を公開した。

## ② 企画展

企画展は、来館者のニーズに対応しつつ、以下の観点に留意して実施した。

イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。

ハ メディアアート、アニメ、建築、ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。

ホ その他

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値，（継続）は平成 28 年度に継続開催する展覧会

館名	展覧会名	開催 日数	入館者数	目標数	企画 観点	共催者
東京国立近代美術館 (本館)	①生誕 110 年 片岡球子展	37	51,034	75,000	ニ	日本経済新聞社
	②No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会	78	41,550	45,000	ロ	主催：独立行政法人国立美術館 共催：朝日新聞社，東京新聞，日本経済新聞社，毎日新聞社，読売新聞社，NHK
	③Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展，再演【注 1】	61	12,094	15,000	ロ，ニ	—
	④恩地孝四郎展	41	23,425	30,000	イ，ロ	和歌山県立近代美術館，東京新聞
	⑤安田靉彦展	9 (50)	7,367 (継続)	17,000 (99,000)	ニ	朝日新聞社，BS朝日
	計	226	135,470	182,000		

館名	展覧会名	開催 日数	入館者数	目標数	企画 観点	共催者
東京国立近代美術館（工芸館）	①中村ミナトのジュエリー： 四角・球・線・面	18 (51)	5,486 (11,708)	3,500 (8,500)	イ	—
	②大阪万博 1970 デザインプ ロジェクト	43 (55)	27,471 (30,325)	20,000 (25,000)	ニ	—
	③栗木達介展—現代陶芸の鬼 才【注2】	59	7,515	9,000	ニ	京都国立近代美術館
	④ようこそ日本へ：1920 - 30 年代のツーリズムとデザイ ン	44	19,304	12,000	ニ	—
	⑤芹沢銈介のいろは—金子量 重コレクション	24 (59)	5,771 (継続)	5,000 (11,000)	ニ	—
	<b>計</b>	<b>188</b>	<b>65,547</b>	<b>49,500</b>		
京都国立近代美術館	①現代美術のハードコアはじ つは世界の宝である展 ヤ ゲオ財団コレクションより	54 (55)	16,324 (16,543)	20,000 (20,000)	イ, ロ, ニ	東京国立近代美術館, ヤゲ オ財団 (台湾)
	②ポスターにみる ミュージ カル映画の世界【注3】	62	37,890	40,000	ロ	東京国立近代美術館フィル ムセンター
	③ユネスコ無形文化遺産登録 記念 北大路魯山人の美 和食の天才	51	52,887	60,000	ロ	NHK京都放送局, NHKプ ラネット近畿, 日本経済新 聞社, 京都新聞
	④現代陶芸の鬼才 栗木達介 展	28	4,453	8,000	ニ	東京国立近代美術館
	⑤琳派 400 年記念 「琳派イ メージ」展	40	41,067	30,000	ホ	毎日新聞社, 京都新聞, MBS
	⑥文化勲章受章記念 志村ふ くみ—母衣への回帰—	43	31,825	25,000	ホ	京都新聞
	<b>計</b>	<b>216</b>	<b>146,556</b>	<b>143,000</b>		
国立西洋美術館	①グエルチーノ展 よみがえ るバロックの画家	55 (81)	65,192 (89,890)	60,000 (88,000)	ニ	ボローニャ文化財・美術館 特別監督局, チェント市, TBS
	②ポルドー展 —美と陶酔の 都へ—	82	111,136	180,000	ロ	TBS, 読売新聞社, ポルド ー市
	③黄金伝説展 古代地中海世 界の秘宝【注4】	74	100,013	180,000	ロ	東京新聞, TBS
	④日伊国交樹立 150 周年記念 カラヴァッジョ展【注5】	28 (92)	81,835 (継続)	150,000 (500,000)	イ	NHK, NHKプロモーショ ン, 読売新聞社
	<b>計</b>	<b>239</b>	<b>358,176</b>	<b>570,000</b>		
国立国際美術館	①高松次郎 制作の軌跡	79	14,749	21,000	ホ	
	②他人の時間	53	22,259	14,000	イ	国際交流基金アジアセンタ ー, シンガポール美術館, クイーンズランド州立美術 館   現代美術館, 公益財団 法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

館名	展覧会名	開催 日数	入館者数	目標数	企画 観点	共催者
	③ヴォルフガング・ティルマ ンス Your Body is Yours	53	28,871	31,000	イ	—
	④クレオパトラとエジプトの 王妃展	68	98,349	116,000	イ	NHK大阪放送局, NHKブ ラネット近畿, 朝日新聞社
	⑤エック・ホモ 現代の人間 像を見よ	57	16,464	16,000	ホ	朝日新聞社
	⑥竹岡雄二 台座から空間へ	57	15,838	14,000	ホ	—
	<b>計</b>	<b>367</b>	<b>196,530</b>	<b>212,000</b>		
国立新美術館	①ルーヴル美術館展 日常を 描く—風俗画にみるヨーロ ッパ絵画の真髄【注6】	56 (89)	447,142 (662,491)	165,000 (263,000)	イ	ルーヴル美術館, 日本テレ ビ放送網, 読売新聞社
	②マグリット展	80 (86)	317,084 (338,478)	158,000 (170,000)	イ	ベルギー王立美術館, 読売 新聞社, TBS
	③ニッポンのマンガ*アニメ *ゲーム	60	92,658	102,000	ハ	—
	④アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と 韓国の作家たち	67	21,365	36,000	イ	韓国国立現代美術館, 国際 交流基金, 韓国国際交流財 団
	⑤ニキ・ド・サンファル展	77	88,243	78,000	イ	フランス国立美術館連合グ ラン・パレ (Rmn-GP), ニキ芸術財団, NHK, NHK プロモーション
	⑥未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展 文 化庁芸術家在外研修の成果	26	12,711	10,000	ハ	文化庁, 読売新聞社
	⑦はじまり, 美の饗宴展 す ばらしき大原美術館コレク ション	62 (66)	64,455 (継続)	68,000 (72,000)	ホ	公益財団法人大原美術館, NHKプロモーション
	⑧平成27年度[第19回]文 化庁メディア芸術祭	11	34,876	45,000	ハ	主催:文化庁メディア芸術 祭実行委員会(文化庁, 国 立新美術館)
	⑨MIYAKE ISSEY 展:三宅一 生の仕事	14 (78)	19,368 (継続)	14,000 (76,000)	イ,ロ, ハ	公益財団法人 三宅一生デ ザイン文化財団, 株式会社 三宅デザイン事務所, 株式 会社 イッセイ ミヤケ
	<b>計</b>	<b>453</b>	<b>1,097,902</b>	<b>676,000</b>		
<b>合計</b>	<b>1,689</b>	<b>2,000,181</b>	<b>1,832,500</b>			

【注1】皇居乾門開門に伴い臨時開館した(12月7日)ため、開催日数が当初予定の60日から変更となった。

【注2】皇居乾門開門に伴い臨時開館した(12月7日)ため、開催日数が当初予定の58日から変更となった。

【注3】コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、開催日数、入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。

【注4】連休の谷間や正月明けに臨時開館した(11月2日, 1月4日)ため開催日数が当初予定の72日から変更となった。

【注5】桜花期に臨時開館した(3月28日)ため、開催日数が当初予定の27日から変更となった。

【注6】年度内の目標入館者数が166,000人から変更になった。



## 各館の特徴

### ア 東京国立近代美術館

#### (本館)

「Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展, 再演」は、1972年に京都市美術館で開催された、世界的に見ても先駆的かつ画期的な展覧会ながら、インスタレーション形式の映像という作品の特徴、会期の短さ、批評の中心（東京）から離れた会場であったことによる記録の少なさなどから、これまでその全貌が明らかではなかった「映像表現 '72」展を、1960年代から70年代にかけての日本戦後美術が世界的な注目を浴びつつある今日に東京国立近代美術館に再び出現させる（「再演 (replay) する）ことで、その歴史的重要性の再評価のみならず、今日においても有効な、その現在の意味を捉えなおすことをもくろんだ展覧会であり、展覧会を実見した多くの海外美術関係者から高い評価を受けた。

国内では20年ぶりの、これまでで最大規模の回顧展となった「恩地孝四郎展」では、英米の4つの主要美術館のコレクションから厳選した版画及び水彩・版画62点を展示に加え、木版画250点、油彩画11点、水彩・素描26点、写真20点、装幀本79点、資料14点の総計400点によって、多方面に亘る恩地の画業の全貌に迫った。また、文化庁より「平成27年度文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）」の交付を受け、挨拶パネルの5カ国語表示（和・英・韓・中国語繁体字・同簡体字）、カタログ及び会場配布用小冊子のほぼ完全なバイリンガル化を行い、海外の鑑賞者・研究者にも恩地の画業を広く紹介した。

#### (工芸館)

「栗木達介展—現代陶芸の鬼才」は、長らく陶磁研究者や愛好家、個人収集家、美術関係者等からその開催を待望されていた陶芸家栗木達介の回顧展であり、生前の作家自身や個人所蔵家、関係機関の調査・協力も得て、栗木が取り組んだ制作の軌跡や特質に重点を置いた充実した展示と構成が可能となった。国内の美術館や陶磁研究者、陶芸家に加え、アメリカ等の国外から来館した観覧者等からも好評を得、本展の企画開催により多くの鑑賞者にその芸術を紹介することができたと同時に、栗木に対するわが国の陶芸の現代芸術家としての評価をより確かなものにするに寄与した。

「ようこそ日本へ：1920 - 30年代のツーリズムとデザイン」では、1920-30年代のツーリズム・ポスターに焦点を当て、鉄道や船舶など交通関係機関、ジャパン・ツーリスト・ビューロー、国際観光局などが制作した観光ポスター、パンフレット、ガイドブックなどをとり上げ、戦間期の観光キャンペーンにおけるデザイナーの役割を探った。観光に対する期待と関心が大きく高まりを見せている現在、さまざまな観光キャンペーンが展開されているが、そこに描き出された日本イメージとの違い、現在の観光ポスターとの比較という意味でも興味深い作品を紹介することができた。

### イ 京都国立近代美術館

「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」では、「器は料理の着物」という魯山人の言葉をテーマに器と料理の関係に注目し、「魯山人と古陶磁」「魯山人流もてなしの開花」「魯山人と和食」の3部構成で魯山人の陶芸・書・絵画・資料を含む142点によりその世界観に迫った。また、現代日本の写真家が京都の著名料亭の建築空間を撮り下ろした映像・写真による空間演出を採用し、魯山人の精神が息づく料亭という総合的な美の世界を紹介した。

「琳派400年記念 「琳派イメージ」展」は、琳派の創始者と目される本阿弥光悦が、元和元年に徳川家康から京都・鷹峯の地を拝領し、光悦村という芸術村を開いてから、ちょうど400年の節目に当たる2015年に、琳派の魅力に引き付けられた近代から現代にかけての作家達が生み出した、絵画、工芸、版画、ファッション、グラフィック等合わせて約90点の作品を「琳派モチーフ」、「金銀・装飾」、「広がる琳派イメージ」の3つの章に分け、琳派の広がりを紹介した。京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館、そして京都国

立近代美術館という、国、府、市の異なる行政組織に属する博物館、美術館が連携し、同時期に同じ「琳派」というテーマで展覧会を開催し、各館で作成する展覧会ポスターやチラシ以外に、4館共通のポスターやホームページを作り、4つの展示施設が一つのテーマ展を行っていることを示すことで、オール京都というイメージを鑑賞者に与えた。

#### ウ 国立西洋美術館

「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」は、17世紀イタリア美術を代表する画家グエルチーノの画業を、44点の油彩画を通じて紹介するものであった。2012年5月に、グエルチーノ作品が多数残されるイタリアの町チェントを地震が襲い、現在も作品の多くが展示不可能の状態にあるため、日本への貸出が可能となった。本展は震災復興のための企画でもある。グエルチーノは日本においてはほぼ無名の画家であるが、国立西洋美術館は彼の代表作のひとつ《ゴリアテの首を持つダヴィデ》（1650年頃）や、グエルチーノと関係の深いグイド・レーニの《ルクレティア》（1636-38年頃）を所蔵している。本展は再評価の進む画家を紹介すると同時に、所蔵作品の理解を深める良い機会となった。

「ボルドー展 一美と陶酔の都へー」は、ボルドー市の全面協力の下、先史時代から現代にいたるまでの数万年におよぶスケールで、ボルドーとその地域の美術と文化の展開を紐解くもので、街の繁栄を生み出したワイン産業との関わりに目を配りつつ、数々の貴重な美術作品や歴史資料の展示を通じて、古典的エレガンスと商業・海運の町ならではのコスモポリタニズムを併せ持つ都市の魅力を浮き彫りにすることを目指した。日本ではあまり知られていないボルドーの歴史、文化、芸術を総合的に理解するため、絵画や彫刻だけではなく、考古遺物から、書籍、装飾芸術品など幅広い展示品で構成した。1つの都市を取り上げこれほどの規模で紹介した展覧会は極めてまれであり、挑戦的な試みであった。

#### エ 国立国際美術館

「他人の時間」では、アジア太平洋地域の現代美術について長年研究を蓄積してきたクイーンズランド州立美術館 | 現代美術館、東南アジアの現代美術の収集を推し進めてきたシンガポール美術館、そして東京都現代美術館、国際交流基金アジアセンターとの協働により、日本の作家を含めたアジア地域の現代美術の状況を紹介。これまでになく複雑な問題を抱えた現在のアジア・オセアニア地域を均一なものとして捉えるものではなく、多元的な文化の関係性、歴史の様相、またこの地域に住まう人々の主体のあり方について、いくつかの具体的な文脈から考察し、鑑賞者と共有する場を提供した。

「エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ」では、二度の世界大戦を経て、従来の人間観が通用しなくなる事態へと至る中、正義や自由、平等や博愛といった理念にはもはや還元できない人間性の問いなおしを図るべく、戦後美術において洋の東西を問わず展開されてきた醒めた現実認識に基づく多様な人間描写に焦点を当てた。「人間とはいかなる存在である(べき)か」という、普遍的な、しかしそれゆえにまた曖昧でもある問いをより明確なものにするため、「日常の悲惨」「肉体のリアル」「不在の肖像」という三つの視点を設け、絵画や彫刻、版画、写真、映像、インスタレーションなど様々なジャンルの作品をこれらの枠組みに分類することで、問題へのアプローチを図った。なお、本展を構成する作品の大半は、国立国際美術館の所蔵作品であり、収蔵経緯の異なる作品群に一定の文脈を与え、これまで見過ごされてきた作品個別の価値、作品相互の関係についての再考も促した。

#### オ 国立新美術館

「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」は、日本のマンガ、アニメ、ゲームの世界に類を見ない多様な表現を、ジャンルの壁を越えて横断的に紹介した初の展覧会で、手塚治虫が亡くなった1989年以降の作品をとりあげ、震災やテロ事件の影響、テクノロジーの進化等を見据えながら8つのテーマで構成し、その時々々の日本社会の重層的な側面を同時代のマンガ、

アニメ，ゲームから読み取り，日本人の想像力と創造力を再発見する機会となることを目指した。130 タイトルという展示タイトル数も約 2,000 m<sup>2</sup>の展示面積を持つ国立新美術館ならではの，来館者にとってはどこかで自分の好きな作品に出会える一方，まだ見ていない作品にも出会える機会となった。このジャンルの展示に起こりがちな展示作品の偏りを可能な限り排除し，純粹にテーマに沿った作品選択を行ったことで，展覧会としての学術性を確保し，このジャンルに対する批評性の高まりにも寄与した。

国立新美術館のシリーズ企画である「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」は，国際的な広がりをもった内容とするために，本展からアジア諸国の美術館と共同で展覧会を開催する新たな形式を採用した。その第一回目にあたる本展には，地理的に日本にもっとも近い韓国の代表的な美術館，韓国国立現代美術館をパートナーに迎え，日韓両国の現代作家 12 名の作品を個展の集合体という形式で展示した。平成 27 年度は，日韓国交樹立 50 周年にあたり，文化を通じた国際交流という点でも，新たなプロジェクトの立ち上げに相応しい時機を得た。本展開催後韓国へ巡回する本展は，日本と韓国の学芸員との新たな協働の場を立ち上げただけでなく，日本人作家を世界に向けて発信，あるいは逆に海外の有望な作家を紹介した点で，多極化する現代アートの動向に真に対応できる事業となった。

### ③ 東京国立近代美術館フィルムセンターの映画上映会・展覧会

#### 【上映会】

タイトル	会場	上映回数	上映日数	入館者数	目標数	企画観点	共催者
①日本映画史横断⑥ 東映時代劇の世界 Part2	大ホール	84	42	13,862	12,500	ニ	
②EU フィルムデーズ 2015	大ホール	50	21	9,358	9,000	ホ	駐日欧州連合代表部 及び EU 加盟大使館・文化機関
③特集・逝ける映画人を偲んで 2013-2014	大ホール	120	60	17,983	18,500	ニ	
④第 37 回 PFF	大ホール	41	11	5,604	4,000	ロ，ニ	PFF パートナーズ， 公益財団法人ユニジャパン
⑤生誕 110 年 映画俳優 志村喬	大ホール	20	10	4,930	2,500	ニ	
⑥シネマの冒険 闇と音楽 2015	大ホール	12	6	1,570	1,700	イ	
⑦生誕 100 年 オーソン・ウェルズ——天才の発見【注 1】	大ホール	25	12	4,031	9,000	イ，ニ	東京国際映画祭，モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA)，株式会社日本国際映画著作権協会
⑧日韓国交正常化 50 周年 韓国映画 1934-1959 創造と開花	大ホール	62	31	5,878	4,500	イ，ロ，ニ	文化庁，駐日韓国大使館 韓国文化院，韓国映像資料院，福岡市総合図書館
⑨映画監督 三隅研次	大ホール	120	60	18,937	18,500	ニ	

タイトル	会場	上映回数	上映日数	入館者数	目標数	企画観点	共催者
⑩自選シリーズ 現代日本の映画監督4 根岸吉太郎	大ホール	24	12	4,560	3,500	ロ	
⑪アンコール特集：2014年度上映作品より [京橋小劇場 No.30]	小ホール	18	9	1,659	1,800	ホ	
⑫映画の教室 2015 [京橋小劇場 No.31]	小ホール	18	9	2,133	1,600	ホ	
⑬キューバ映画特集 革命映画から映画革命へ [京橋映画小劇場 No.32]	小ホール	28	14	2,867	1,800	ニ	
計		622	297	93,372	88,900		

【注1】当初上映を予定していた作品の多くについて、日本における上映権利保持者が不明であることが判明し、上映作品数を大幅に減らすこととなった。その結果、上映日数及び上映回数が当初予定の15日間45回から変更となった。

### 【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画観点	共催者
①シネマブックの秘かな愉しみ	93	5,181	6,000	ロ	
②生誕110年 映画俳優 志村喬	89	5,800	4,000	ニ	
③キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより	70	4,368	5,000	ロ、ニ	京都国立近代美術館
計	252	15,351	15,000		

### 特徴

「日韓国交正常化50周年 韓国映画1934-1959 創造と開花」では、現存する韓国映画最古の作品『青春の十字路』（1934年）から、朝鮮戦争後に復興したモダンな韓国社会を描き始めた1959年までを対象とし、韓国映画の創造期から開花期までという歴史的視点を持って作品を検証・鑑賞できる構成をとった。その時代の社会状況や歴史的背景も含めて視野を広げ、作品理解を深められるよう、専門家によるトークイベントを7回開催し、アジア圏では初の公演となる弁士・俳優による『青春の十字路』上映パフォーマンスも上演するなど、日韓双方の無声映画の文化比較やパフォーミング・アートにも知見を拓ける機会も提供した。

「映画監督 三隅研次」では、戦後の日本映画に新風を送りこんだ三隅監督の初の大規模回顧展として、活動の全容を示すべく劇場公開映画51本とテレビドラマ19本の60プログラムで構成した。多くの未収蔵作品については、デジタルシフトが極端に進んだ現在において非常に貴重なニュープリントの作成・購入をおこない、三隅監督の追及したフィルム特有の真正な映像表現とフィルム文化を唯一体験可能とする極めて貴重な上映会となった。

「シネマブックの秘かな愉しみ」は、フィルムセンターでも初めての、映画の書物をめぐる展覧会であった。映画史を知るための基本文献、明治・大正期の貴重書や無声映画時代の“映画文庫”，豪華な大型本・愛らしい豆本，こども向けの本や優れたデザインの書籍，映画という職業をめぐる本まで，映画史と寄り添って脈々と生み出され，さまざまな魅力を放つ日本の映画書を一堂に集めて展示し，併せて，映画書を収集する日本各地の映画図書館を

紹介した。多彩なゲストを迎えた連続講座も交えて、書物という切り口から映画という豊饒な知の体系に触れられる稀有な機会となった。

#### ④ 国立美術館 5 館合同企画展

国立美術館全体の所蔵作品を最大限に生かした 5 館合同企画による「No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」は、美術館そのものをテーマに据え、美術館の活動に関連した A から Z までの 36 のキーワードを設け、それに基づいて各美術館の所蔵作品である約 170 点を意外な取り合わせによって並べ、さらに美術館に関連する器具や資料も作品と並列して展示した。鑑賞者がいつもは気づきにくい美術館の活動を可視化させ、それを踏まえて作品を鑑賞することのできる空間構成とすることで、鑑賞者が作品を介して美術館を理解し、美術館を介して作品への理解を深めるような機会を作り出した。

展覧会名：「No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」

会 期：平成 27 年 6 月 16 日～9 月 13 日（78 日間）

会 場：東京国立近代美術館

出 点 数：215 点（器具・資料等も含む）

{	内訳：東京国立近代美術館	71 点（うち 工芸館 2 点）
	京都国立近代美術館	48 点
	国立西洋美術館	50 点
	国立国際美術館	34 点
	国立新美術館	9 点
	その他	3 点

入館者数：41,550 人

#### ⑤ 巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
東京国立 近代美術館 (本館)	国立美術館巡回展 洋画の大樹が根 付くまで	釧路市立美術館	33	2,612
		神戸市立小磯記念美術館	46	9,512
東京国立 近代美術館 (工芸館)	東京国立近代美術館工芸館名品展— 夏を装う—	和光ホール	12	2,831
	東京国立近代美術館工芸館名品展	射水市新湊博物館	58	1,859
		宮崎県立美術館	24	5,625
<b>計</b>			<b>173</b>	<b>22,439</b>

※以下の表の（ ）内は事業会期全体の数値

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立 近代美術館 (フィルムセンター)	①平成 27 年度優秀映画鑑賞推進事業	192	368 (延べ日数)	75,830
	②日本が声を上げる！ パート 4：日本の初期トーキー映画	1	15	5,700
	③蘇ったフィルムたち 東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集	5 (11)	32 (59)	1,984 (4,034)
	④NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2015	1	8	347
	⑤第 10 回中之島映像劇場 金井勝の世界	1	2	424
	⑥第 34 回ポルデノーネ無声映画祭 『忠次旅日記』デジタル復元版特別上映会	1	1	800
	⑦豊穣と調和：日本のカラー映画	1	9	1,496
	⑧第 61 回オーバーハウゼン国際短篇映画祭アーカイブ部門—フィルムセンター特集	1	1	60
	⑨MoMA ニューヨーク近代美術館 映画コレクション【注 1】	5 (10)	29 (55)	1,166 (2,729)
	⑩ポスターにみる ミュージカル映画の世界【注 2】	1	62	37,890
<b>計</b>		<b>207</b>	<b>463</b>	<b>87,674</b>

【注 1】 5 会場のうち、京都国立近代美術館を会場とする⑨「MoMA ニューヨーク近代美術館 映画コレクション」は、④「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2015」内の 1 企画であるため、会場数、開催日数及び入館者数はそれぞれの合計に含めない。

【注 2】 京都国立近代美術館のコレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため、会場数、開催日数及び入館者数はそれぞれの合計に含めない。

## (2) 美術創造活動の活性化の推進

### ① 公募団体等への展覧会会場の提供 (国立新美術館)

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%

入館者数：1,194,428 人

1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組を行った。

- ・ 作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施
- ・ 作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底
- ・ 審査、展示等に必要な備品の充実
- ・ 展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底

- ・公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施
- ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施
- ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実
- ・国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより、広報の支援を実施
- ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知

2 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを行った。また、館ホームページへの情報掲載、館内でのチラシの配布及びポスターの掲示等により、普及・広報の支援を実施した。

3 第三期（平成 29～平成 33 年度まで）の使用団体の見直しを図り、平成 29 年度に公募展示室を使用する 74 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。なお、見直しの結果使用団体に一部入れ替えが生じたため、第二期の 69 団体から使用団体数が増加した。

## ② 新しい芸術表現への取組

### 【東京国立近代美術館本館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展，再演	61	映像	12,094	15,000	—
ちょっと建築目線でみた美術，編年体（所蔵作品展小企画）	56	建築	—	—	—

- ・「Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展，再演」は、1972 年に京都市美術館で開催された、8mm や 16mm、ビデオなどの映像を用いた当時としては先端的な展覧会を、残された記録をもとに「再演」しようとする試みであり、平成 23 年度まで継続していた文部科学省科学研究費補助金による研究成果を反映し、展覧会として公開することができた。機器の再現やフィルムの複製が製造中止等により困難な状況の中で、いかに展示公開することが可能かの試みとして意義のある取組であった。また御健在の関係者へのインタビューを映像として記録に残すことができた。

### 【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
第 61 回オーバーハウゼン国際短篇映画祭「アーカイブ部門—フィルムセンター特集」	会期中 1 日	日本アニメーション映画	60	—	オーバーハウゼン国際短篇映画祭（ドイツ・オーバーハウゼン）
第一回バルセロナ・アニメ・フェスティバル	会期中 2 日	日本アニメーション映画	295	—	フィルモテカ・デ・カタルーニャ（スペイン・バルセロナ，FIAF 加盟機関）への貸与

新千歳空港国際アニメーション映画祭 2015	会期中 1日	日本アニメーション映画	50	—	新千歳空港国際アニメーション映画祭実行委員会への貸与
上映企画「自選シリーズ 現代日本の映画監督4 根岸吉太郎」：『近代能楽集 葵上』『近代能楽集 卒塔婆小町』	全会期 12日のうち2日間	デジタル映画	467	—	—

- ・「第61回オーバーハウゼン国際短篇映画祭「アーカイブ部門—フィルムセンター特集」」では、日本の初期アマチュア映画を特集する上映番組で、荻野茂二『AN EXPRESSION』（1935年）をDCPで、森紅『旋律』（1932年）を35mmプリントで上映した。
- ・「第一回バルセロナ・アニメ・フェスティバル」では、大藤信郎『のろまな爺』[デジタル復元版]（1924年）ほか、戦前日本アニメーション映画10本を上映した。
- ・上映企画「自選シリーズ 現代日本の映画監督4 根岸吉太郎」内で上映した『近代能楽集 葵上』『近代能楽集 卒塔婆小町』では、DVD販売用のボーンデジタルの作品を、音のチャンネル修正も含めて劇場上映に適したデジタルシネマパッケージ（DCP）を新たに作成し、東京でのDCP初上映を行った。DVD作品を収蔵・上映する際の新たな手法を開拓したと言える。

#### 【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより	54 (55)	現代美術	16,324 (16,543)	20,000	東京国立近代美術館、ヤゲオ財団（台湾）
ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才	51	日本画・工芸	52,887	60,000	NHK 京都放送局、NHK プラネット近畿、日本経済新聞社、京都新聞

- ・「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」は、作品が持つ美的な価値だけでなく、美術館が意図的に避けてきた経済的な価値にもあえて目を向け、美術と社会の関係性について新しい視座を提起した点が特徴的な取組であった。
- ・「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」は、〈和食（WASHOKU）〉のユネスコ無形文化遺産登録を記念して、書や篆刻、料理、そして陶芸など多彩なジャンルで活躍し、美食の道をきわめた存在として広く親しまれている異才の芸術家、北大路魯山人の展覧会であったが、今までの魯山人展とは異なり、陶芸作品の展示だけではなく、陶芸のほか、魯山人の描いた絵画や書など多様な作品も出ており、さらに、食を伝えるために、デジタル機器と映像処理により、鮎カウンターを忠実に再現し、そこに座るとあたかも鮎を食べる体験を臨場感をもって体験することができたり、料亭の空間の中に鑑賞者が佇むような体験ができたりという今までにはない取組を行った。

#### 【国立西洋美術館】

- ・日本を含む7カ国の共同推薦案件として、世界文化遺産に推薦を行っている「ル・コルビュジエの建築作品」の構成資産の1つである国立西洋美術館について、世界遺産登録審査の一環として、平成27年8月19日及び20日にユネスコ世界遺産委員会の諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）による現地調査が行われた。
- ・世界遺産登録推進活動の一環として、引き続き台東区等と連携し「世界遺産区民講座」（平成27年6月27日）を実施した。



【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
他人の時間	53	写真・映像・彫刻・絵画等	22,259	14,000	国際交流基金アジアセンター，シンガポール美術館，クイーンズランド州立美術館   現代美術館，公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

・館のコレクションを含めたアジア・オセアニア地域の若手を中心としたアーティスト総勢 25 名による作品を紹介する企画で（国立国際美術館での参加作家人数は 20 名），中でもシンガポールの作家ホー・トゥーニェンの音と映像を駆使した最新のインスタレーション作品を展示したことが新しい芸術表現への取組として特筆される。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム	60	マンガ，アニメーション，ゲーム	92,658	102,000	—
アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち	67	新しい芸術表現	21,365	36,000	韓国国立現代美術館，国際交流基金，韓国国際交流財団
ニキ・ド・サンファル展	77	射撃絵画，新しい芸術表現	88,243	78,000	フランス国立美術館連合グラン・パレ（Rmn-GP），ニキ芸術財団，NHK，NHK プロモーション
MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事	14	ファッション	19,368	14,000	公益財団法人三宅一生デザイン文化財団，株式会社 三宅デザイン事務所，株式会社 イッセイ ミヤケ
未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	26	新しい芸術表現	12,711	10,000	文化庁，読売新聞社
平成 27 年度 [第 19 回] 文化庁メディア芸術祭	11	ビデオ・アート，インタラクティブ・アート，アニメーション，マンガ，ゲーム等	34,876	45,000	主催：文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁，国立新美術館）

- ・「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」では、日本を代表する文化でありながら、これまで美術館では本格的に紹介されてこなかったマンガ、アニメ、ゲームを歴史的に検証した。
- ・「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」は、日韓の注目すべき作家たちの、ビデオ、インスタレーション、写真等、新しい芸術表現を取り上げた。
- ・「ニキ・ド・サンファル展」は、射撃絵画から舞台や映画、彫刻庭園まで多様な展開を遂げたフランス人作家の創造の軌跡を追った。
- ・「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」では、世界を牽引してきた日本人デザイナーの斬新な発想力を紹介した。
- ・例年開催しているように、「未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」では、新しい芸術の創出に取り組む現代美術家たちを、「平成 27 年度 [第 19 回] 文化庁メディア芸術祭」では、ビデオ・アートやインタラクティブ・アート、マンガ、アニメ、ゲームを紹介した。
- ・展覧会以外の試みとしては、共催した「TOKYO ANIMA!2015」において、若手映像作家の近作・新作を中心に 2 日間に渡り上映し、延べ 968 名の来場者があった。特別協力を行った「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2015」では、国内の学生によるアニメーション作品を 4 日間に渡り上映し、計 2,362 名が来場した。

### (3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

#### ① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

##### ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	目標数 (第2期平均)
本部【注】	6,873,125	927,350
東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む)	6,048,887	10,500,075
京都国立近代美術館	2,763,975	2,244,585
国立西洋美術館	8,390,589	6,313,881
国立国際美術館	2,603,128	2,266,576
国立新美術館	11,518,150	9,372,754
計	<b>38,197,854</b>	<b>31,625,221</b>

【注】平成 26 年度より法人ホームページのカウントをページビューの件数に改めたため、平成 25 年度の実績報告書と目標数が一致しない。

##### イ 各館の ICT 活用の特徴

###### (ア) 本部

法人ホームページにおいては、引き続き国立美術館 5 館の開催展覧会及び各種催事等トピックスの一覧を維持したが、掲載情報量の拡大から視認性に課題が生じており、平成 27 年度より法人ホームページのリニューアルについて具体的な改修の検討を行った。

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」の「指導者研修 Web 報告」ページについては、平成 27 年度も継続して記録を公開した。

###### (イ) 東京国立近代美術館

平成 19 年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム (CMS) を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新の迅速化に努めているが、サイト構成及びデザイン等において一層の改良を図るべく、ホームページ全体の刷新へ向けて全面改修を行い、平成 27 年度夏にリニューアル公開を果たした。

なお、リニューアルに伴い、利用者によりわかりやすいよう情報の階層を整理した結果、利用者が求める情報に辿りつくまでのクリック数 (Web サーバへのアクセス数) が減り、

複数回のクリックを必要としていた前システムよりも、結果的に Web サーバへのアクセス数が減少した。

フィルムセンターでは、平成 25 年度に開始したウェブ上での所蔵資料公開事業「NFC デジタル展示室」について、平成 27 年度中に 3 回の特集展示を行うとともに、新シリーズ「無声期日本映画のステル写真」を開始したことが特筆される。事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」は着実に登録者を増やしている。また、NFCD (ナショナル・フィルムセンター・データベース) についても、引き続き人物情報の統合を進めるとともに、所蔵コレクションの登録・運用を NFCD 上でスムーズに行えるようシステムを改修した。映画関連資料については、これまでデジタル・データへのスキャンや簡易撮影を通じてデータの蓄積を進めてきたが、平成 26 年度に引き続き文化庁より「平成 27 年度文化芸術振興費補助金 (美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業)」の交付を受けた「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」(略称:BDC プロジェクト)と連携し、ポスター5,000 点のデジタル化を進めるとともに、他の資料の今後のデジタル化について検討した。また日本映画・テレビ美術監督協会との協働により実施してきた「日本映画美術遺産プロジェクト」(平成 22~27 年度)を通じて、フィルムセンター所蔵「水谷浩コレクション」のメイン資料である映画美術資料のデジタル・データを取得した。

#### (ウ) 京都国立近代美術館

ホームページにおいて、各展覧会の基本情報や講演会、教育普及関連のイベントの案内・報告、美術館ニュースや研究論集の内容紹介、「友の会」の行事報告などを行った。特にコレクション・ギャラリー(所蔵作品展)については、展示替えごとに出品リストや解説を掲載するだけでなく、著作権に支障のない範囲で出品作品の画像を掲載し、情報の充実に努めた。また、平成 27 年度から SNS (Facebook) による情報発信も開始した。

#### (エ) 国立西洋美術館

ホームページや SNS (Facebook) を通じて展覧会や教育プログラム、所蔵作品情報等を日英 2 か国語で発信し、活動状況を国内外に向けて広く紹介した。国立西洋美術館はホームページ英語版に連絡窓口を設ける国内で数少ない美術館であるが、そのために集中する海外からの日本美術分野全般に関する問い合わせに対し、国を代表する機関として回答に努めた。

研究成果公開のための情報発信基盤について検討を続けてきたが、平成 27 年度に国立情報学研究所の共用リポジトリ・サービス(無償)を活用し、「国立西洋美術館出版物リポジトリ」の公開を少額費用で実現することができた。これにより研究紀要をホームページで公開する基盤が整い、また外部の論文データベースからの「発見」が可能になるなど、オープン・アクセス化推進につながった。

平成 26 年度に参加した国際共同事業「アート・ディスカバリー・グループ目録」について、平成 27 年度は日本語図書情報の追加登録を小規模ながら実施し、国際的な学術情報サービスに対する日本独自の貢献を試みた。

平成 26 年度同様、科学研究費補助金の交付を受けて所蔵作品の基本情報及び歴史情報(来歴等)のデータ入力・更新を実施した。東日本大震災以降、データのバックアップが課題とされているが、国立西洋美術館も所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、平成 26 年度に引き続きデータのバックアップ・コピー作成、遠隔地での保管を実施した。

#### (オ) 国立国際美術館

平成 27 年 7 月より SNS (Facebook, Twitter) の運用を開始した。また、同じく平成 27 年 7 月より YouTube アカウントも開設し、アーティストインタビューなどの動画コンテンツを配信した。「ヴォルフガング・ティルマンズ Your Body is Yours」においてはは

Ustream アカウントを開設し、アーティスト・トークの様態を配信した。また、平成 28 年度開催の企画展「森村泰昌 自画像の美術史 『私』と『わたし』が会うとき」に先立ち、「森村泰昌連続講座『新・美術寺子屋／自画像の話』」（平成 28 年 2 月 27 日、3 月 12 日開催）の様態についても配信した。

#### (カ) 国立新美術館

展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」において、引き続き日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催する展覧会情報の収集・公開に努めており、平成 27 年度は、3,400 件の展覧会情報を約 1,000 の美術館・美術団体・画廊の協力により収集・公開した。また、ホームページのリニューアルを行い、国立新美術館の活動をわかりやすく伝えるとともに、スマートフォンに対応するなど、現在のインターネット利用者の状況を踏まえたデザインとし、さらにインターネットからのサイバー攻撃を避けるため、攻撃の糸口となる脆弱性を極力無くすシステム構成とした。インターネット上の利用者に向けては、SNS (Facebook, Twitter) を用いた情報（話題）提供も併せて実施しており、平成 27 年度には（記事への好意や同意を示す）「いいね」の件数が 20,000 件を超えた。

来館者サービス向上のため平成 26 年度に試行運転を開始した無料無線インターネット接続サービス（フリーWi-Fi）は、平成 27 年度にの実運用を開始し、1 階ロビー及び 3 階の講堂、研修室、ライブラリーの各所にアクセスポイントを設置し、事前登録不要で自由に利用できるようにした。

## ② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

### ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標利用者数 (第2期平均)
東京国立近代美術館	本館	3,406	134,725	2,170	2,921
	工芸館	987	25,805	337	356
	フィルムセンター	1,242	44,999	3,692	3,273
京都国立近代美術館		1,287	26,636	—	—
国立西洋美術館		1,102	49,387	327	399
国立国際美術館		2,047	41,643	—	—
国立新美術館		5,933	142,002	26,129	44,365*
計		16,004	465,197	32,655	51,314*

【注】東京国立近代美術館は本館 4 階、京都国立近代美術館は 4 階、国立西洋美術館は 1 階、国立国際美術館は地下 1 階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設けているが、入館者が自由に閲覧できるようにしているため、当該コーナーについては、利用者数の把握はしていない。

※ 新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く。

### イ 特記事項

#### (ア) 東京国立近代美術館

本館では、60 周年事業の一環として平成 24 年より継続している 60 年史のデータ集成・編集作業及びミュージアム・アーカイブの整備について、法人文書ファイル管理簿等との整合性を図りつつ、平成 27 年度はデータの図書検索システムでの情報管理を本格化させた。また、文化庁より「平成 27 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館創造活動支援事業）」の交付を受け「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」を実現し、海外から 9 名の招へい者を得て、平成 27 年 11 月 27 日に公開

ワークショップを開催した。開催内容は『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言 II」報告書』と題する報告書を刊行し、広く一般に公開した。

工芸館では、購入及び資料交換・寄贈によって、平成 27 年度も前年度と同程度の件数を収集した。主たる購入資料は、芹沢銈介の関連書誌である（芹沢銈介については、平成 27 年度に企画展を開催）。また寄贈によって芹沢自身の唯一の研究著作である『琉球の形附』を収集することができたが、当該資料は戦前に部数限定で刊行されたものであり、貴重本として管理する予定である。

フィルムセンターでは、一定の網羅性を目指して、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めており、平成 27 年度は、書籍、雑誌、ポスター、ミニコミ系出版物等を購入した。また、所蔵資料の公開促進のため、貴重な映画資料の復刻出版に協力し、出版社に原本を提供した。中でも戦時中の「映画公社旧蔵資料」の復刻出版はフィルムセンターの監修により続けられ、平成 25～26 年度に続いて『映画公社旧蔵 戦時統制下映画資料集』（ゆまに書房刊）の第 3 期の刊行がなされている。また、図書情報の公開への準備として、長く懸案となっていた図書室内の映画雑誌のオンライン目録への登録に着手した。

#### (イ) 京都国立近代美術館

平成 28 年度開催予定の展覧会（「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」関連）の事前調査及び購入作品（ウィーン世紀末のグラフィックアート関連）の研究、並びに教育普及活動（「琳派 400 年記念 「琳派イメージ」展」関連）のため、書籍を購入した。また、平成 30 年度の蔵書の書誌情報の一般公開を目指し、平成 27 年度はデータベース化の準備段階として、書架の整理作業を行った。

#### (ウ) 国立西洋美術館

西洋美術に関する情報及び資料を継続的に収集し、調査研究活動に役立てた。研究資料センターにおいて外部利用者に公開する活動を行うとともに、「アート・ディスカバリー・グループ目録」を通じて国内外からの資料所在情報へのアクセス手段を確保した。

また、蔵書管理システムの契約満了に伴いシステムを更新した際、旧来の運用形態（オンプレミス型システム）から脱却し、サーバ管理を外部専門業者に委託し外部業者から提供されるサービスを利用する運用形態（クラウド型システム）への転換を図った。これによりシステム管理の運用負荷の軽減、計画停電等の影響を受けない安定的なシステム運用等が実現した。

このほか、文部科学大臣の委嘱を受けた明治大学の「司書講習」選択科目「専門図書館論」の受講生を受け入れるなど、図書館情報学分野の教育・人材育成に貢献している。

#### (エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。特に、企画展や所蔵作家関連の文献に加え、国際展に関する文献などの収集を積極的に行った。

#### (オ) 国立新美術館

日本の展覧会図録を中心に網羅的、遡及的収集に努め、国内約 400、国外約 100 の美術館・博物館と展覧会図録の相互寄贈関係を維持している。また、海外拠点 4 ヶ所に、日本で開催された展覧会の図録を送付する「JAC (Japan Art Catalog) プロジェクト」を引き続き実施した。このほか、平成 27 年度までに受け入れた複数の個人からの大口寄贈資料について整理作業を進め、さらに、所蔵資料のうち脆弱なものの一部について引き続きデジタル化を行った。なお、来館者にアトライブラリの利用を促すための掲示を、展示室や講演会開催時の講堂ロビーに設置する等の取組を継続して行っている。

## ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル化 件数	デジタル化 累計	累積公開 件数 (公開率)	目標 公開率	デジタル化 件数	デジタル化 累計	累積公開 件数 (公開率)	目標 公開率
東京国立 近代美術 館	本館	94	10,933	7,053 (54.5%)	33.0%	310	11,698	10,923 (84.4%)	97.3%
	工芸館	106	4,205	2,264 (61.5%)	5.5%	334	4,927	3,538 <sup>*1</sup> (96.1%)	99.5%
	フィルムセンター (映画関連資料)	—	—	—	—	1,487	164,163 <sup>*2</sup>	—	—
京都国立近代美術館		93	7,683	2,242 (18.5%)	11.4%	58	13,751	12,447 <sup>*1</sup> (102.7%)	85.8%
国立西洋美術館		151	6,353 <sup>*3</sup>	205 (3.6%)	4.4%	57	5,894	4,664 (81.0%)	94.7%
国立国際美術館		283	7,570	3,672 (48.5%)	19.0%	153	8,335	7,455 <sup>*1</sup> (98.5%)	97.6%
計		<b>727</b>	<b>36,744</b>	<b>15,436 (36.7%)</b>	<b>17.8%</b>	<b>2,399</b>	<b>208,768</b>	<b>39,027 (92.8%)</b>	<b>93.9%</b>

【注1】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」

(<http://search.artmuseums.go.jp/>)における画像及びテキストデータの公開件数である。

※1 東京国立近代美術館工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。

※2 東京国立近代美術館フィルムセンターについては、ローカルシステムである NFCD への映画関連資料のデータ登録件数を掲載している。

※3 国立西洋美術館では、1作品あたりに複数の画像データを登録している例があるため、画像データ件数がテキストデータ件数を上回っている。

【注2】上表のほか、フィルムセンターでは「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵映画フィルム検索システム」(<http://nfdc.momat.go.jp/>)において日本劇映画のテキストデータ 7,140 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」(<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>)において作品のテキストデータ 5,514 件及び画像データ 4,879 件を、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」(<http://db.nact.jp/anzai/>)においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件をそれぞれ公開している。

## エ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

平成 20 年度に、国立美術館 5 館全体において VPN (暗号化された通信網) を導入して以降、情報ネットワークの安定化・高速化を実現するとともに、VPN を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを継続して稼働させている。

また、平成 27 年度は「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」に新収蔵作品のテキスト・画像データを追加するとともに、著作権者に画像掲載の許諾を得る必要のある所蔵作品のうち、許諾を得た工芸 [ガラス、木工、竹工、人形、金工、その他工芸、工芸資料] の作品 569 点について画像を新規登録した。また、工芸についての著作権者情報の整備を引き続き行い、工芸 [グラフィックデザイン、工業デザイン] の画像掲載許諾申請手続を開始した。

平成 23 年度に着手した「東京国立近代美術館所蔵作品管理システム」と「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」のデータ登録更新のためのインターフェースの改良について、他の国立美術館と連携し、インターフェースの統一を試みることで、引き続

き各館ローカルシステムと「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」とのデータ連携を改善させた。

平成 23 年度から参加していた欧米主要美術図書館横断検索システム (artlibraries.net) ([http://artlibraries.net/index\\_en.php](http://artlibraries.net/index_en.php)) が平成 25 年 12 月に閉鎖したことに伴い、平成 26 年度には後続システム「アート・ディスカバリー・グループ目録」(<http://artdiscovery.net/>) に国立西洋美術館が加入したが、その他の日本語図書を中心とする国立美術館他館の加入の実現可能性について、具体的な検討を行った。

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、国立美術館 5 館の情報担当者による「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を組織し、各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行った。平成 27 年度は、関西 2 館の図書館システムの導入や収蔵作品の来歴等歴史的データの蓄積並びに公開情報資源に関わるゲートウェイシステムの開発について具体的な検討を進めた。

#### (4) 国民の美的感性の育成

##### ① 幅広い学習機会の提供 (講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)

館名	実施回数	参加者数	目標数	
東京国立近代美術館	本館	407	8,817	5,509
	工芸館	182	3,895	1,616
	フィルムセンター	236	15,979	9,733
京都国立近代美術館	80	3,362	3,724	
国立西洋美術館	315	19,678	10,261	
国立国際美術館	62	2,895	3,486	
国立新美術館	148	14,895	10,518	
計	1,430	69,521	44,847	

#### ア 各館の特徴

##### (ア) 東京国立近代美術館

###### (本館)

幅広い層への解説プログラム (所蔵品ガイド, ハイライトツアー, キュレータートーク, 音声ガイド, 子ども用セルフガイドやイベント等) や来館者サービス (ライブラリ, ショップ, レストラン, 休憩室, バリアフリー情報, 夜間開館, 無料観覧日, MOMAT パスポート等) を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を引き続き活用した。

また、ホームページリニューアルに合わせて、「教育普及室ブログ」

([http://www.momat.go.jp/learning\\_blog/](http://www.momat.go.jp/learning_blog/)) を開設し、月 4 回程度更新を行い、教育普及プログラムの成果等について広く公開している。

学校との連携においては、東京都中学校美術教育研究会との共催で、休館日を利用して中学校教員 70 名に対する 1 日研修を行った。午前中に講義や演習で鑑賞ファシリテーションについて学んだ後、午後には実際に中学生 150 名にトークラリー (東京国立近代美術館が開発した立ち寄り型ギャラリートーク) を行うという実践的な研修内容は、2 学期からすぐに発揮できる授業力がついたと受講者に好評であった。

児童向けの取組としては、4 歳～8 歳を目安とする子どもたちが大人と一緒に使用して所蔵作品展を楽しむための鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」「見つけてビンゴ!」の配布を開始した。また、「KIDS★MOMAT」の中のひとつである小学生向けプログラム「夏休み! こども美術館」では、鑑賞・制作活動にバックヤードツアーなどを組み合わせた「ミッション・イン・ミュージアム」を実施した。子どもたちが所蔵品ギャラリーのほか、企画展ギャ

ラリーやアトライブラリ，館長室などを訪問することで，これまで行ってきた鑑賞・制作活動に加え，美術館そのものに対する興味関心を深めることができた。

#### (工芸館)

ギャラリートークやタッチ&トークなど，様々な対象者を想定した多彩な教育普及事業を展開した。「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」では，東京藝術大学等との連携により，大阪万博に実際に出展されていたフランソワ・バシェの音響彫刻を用いてコンサートやワークショップ，シンポジウムなど多様なプログラムを実施し，資料数の多い展示をよりリアルに感じてもらう工夫を講じた。「芹沢銈介のいろは一金子量重コレクション」では，展覧会の広報普及と染織研究の推進を企図して NPO 法人との連携により講演会と鑑賞の実践的プログラムを実施した。

児童向けプログラムとしては，夏季のワークショップにおいて小学 4 年生から中学生を対象に初の試みである「写真教室」を実施した。これは，レンズをとおして物の見方を刷新させることを企図したものであるが，写真と撮影対象とを何度も比較し，プログラム終了後にも保護者と一緒に熱心に話し合いながら作品を鑑賞する姿が見られた。

#### (フィルムセンター)

大ホールの 6 企画で計 67 回，展示室の 3 企画では計 11 回のトーク・イベント（上映では講演会，舞台挨拶を含む）を行った。加えて，教育普及を目的とする上映イベントでは，小中学生を対象とする「こども映画館」と，ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント（本年は「ホームムービーの日」 in 京橋 アマチュア小型映画のこれまでとこれから）を開催）等の恒例行事を開催した。

国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校が，フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」，大学等の学生がフィルムセンターで観覧したことを証明する「鑑賞証明カード」の配付は 4 年目を迎え，大学等連携事業では計 10 回（10 校）の講義を実施した。

14 年目を迎えた「こども映画館」では，映画上映に施設見学や弁士・伴奏付きの無声映画上映などを組み合わせるスタイルを踏襲しつつ，子どもたちが日常のテレビや DVD などでは接する機会を持ちにくい映画遺産に触れる機会を提供するとともに，写真画像や手作りの動画等も用いてわかりやすい解説を行うよう心がけた。

相模原分館では，相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定により，平成 26 年度に引き続き相模原市内の小・中学生等を対象に，無料で映画鑑賞と保存施設の案内を実施した。映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を解説したところ，多くの参加者から好評を得，映画フィルムの保存の重要性についても広報・普及することができた。

#### (イ) 京都国立近代美術館

企画展ごとに講演会を実施した。「ポスターにみる ミュージカル映画の世界」では，展覧会企画者によるギャラリートークに加え，MoMAK Films の開催に際し，出品作品に関連した映画の特集上映を実施した。「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」では，講演会，料理人によるトークセッションなど，関連イベントを多数実施した。「琳派 400 年記念 「琳派イメージ」展」では，京都ミュージアムズ・フォーの連携企画として開催されたフォーラム「琳派を飾る 一展覧会から見えるもの一」に展覧会担当研究員が登壇した。また，今年も展覧会に即した内容のワークショップを企画した。「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」では，陶芸家によるまないた皿制作ワークショップを開催した。「琳派 400 年記念 「琳派イメージ」展」では，展示作品から選んだモチーフで箱をデザインするワークショップを実施し，琳派のデザイン性を身近に感じる機会を設けた。「文化勲章受章記念 志村ふくみ—母衣への回帰—」では，キッズプログ



ラムとして着物の色と模様からイメージを膨らませる鑑賞ツアーを行い、小学生に作品鑑賞の面白さを伝える機会とした。

学校との連携では、平成 26 年度に引き続き、京都市教育委員会、京都市図画工作科教育研究会（図工研）との共催で、小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上のための「京都市図画工作科指導講座」を開催した。例年どおり、鑑賞教育の指導方法において参加者それぞれが自主的に可能性を探る内容となるよう構成した。また、図工研所属の現役教員たちの提案を受け、より実践的かつ主体的に関わることができるよう、対話による鑑賞のファシリテーションを実践するワークを取り入れる等の改善を図った。

平成 27 年度とりわけ重点を置いたのが、「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」に関連して、小学校と連携して実施した事業である。平成 27 年度に新たに配置した教育普及事業専任研究員が中心となって企画した本事業の特色は、京都ゆかりの芸術家である魯山人について理解を深めることだけにとどまらず、自ら調理した食材を地元の陶芸家から提供された器に盛り付けることで、和食におけるもてなしの精神を追体験する点にあった。また教科の枠を越えて実施したことで、児童の日常の経験や、家庭科、社会、算数といった図工科以外の学びの成果を総合的に引き出すことができた。このことから、美術館を活用した主体的な学びを支援するという京都国立近代美術館の学習支援活動において、学校との連携によって取組の幅が広がる可能性が示されたとともに、作品鑑賞活動とは別のアプローチでの学習支援活動の有効性も示唆された。

#### (ウ) 国立西洋美術館

秋の本館閉室及び年度末工事による全館休館の時期を除き、常設展を活用して充実したプログラムを実施することができた。「スクール・ギャラリートーク」は、実施期間が例年より短かったにもかかわらず、従来受け入れが難しかった大人数の団体についてはグループを分けて受け入れるなど、利用者の希望に沿って柔軟に対応したことで、参加者数は平成 26 年度を上回る結果となった。

定番となった立ち寄り制プログラム「ファン・デー」「美術館でクリスマス」では、日本人に加えて外国人の参加者も見られるようになってきた。観光客の多い上野では、予約制プログラムだけでなく、観光客が自由に参加できる短時間のプログラムも重要であることを再確認した。

「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」の講演会は、すべての回で好評を博し、日本ではあまり知られていない画家やその作品の広報・普及に貢献した。

また、「どうぶじゅつ」は毎回定員の 15 名を満した。初めて参加する親子も多かったが、リピーターが多かったことも特筆される。春は「セイビ\*パレット」と題して色彩に焦点をあて、秋は「いろいろ\*ミロ」と題して具象から抽象へいたる表現の変化に焦点をあてたプログラムをそれぞれ実施した。参加者からは「専門的な知識がなくても親子で一緒に美術館を楽しめることが分かった」といった感想が寄せられ好評であった。

#### (エ) 国立国際美術館

「高松次郎 制作の軌跡」では、講師を招いて講演会を行った。「他人の時間」では、「他人の時間」東京展の出品作家とフルート奏者が共演したレクチャー・パフォーマンスや、6 月にマレーシア・ペナン島で開催された展覧会の報告会を兼ねたトーク・イベントを行った。「クレオパトラとエジプトの王妃展」では、監修にあたった講師を招き、記念講演会「クレオパトラとエジプトの王妃」を行った。「竹岡雄二 台座から空間へ」及び「エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ」では、出品作家による講演会及びトークショーを実施した。また、展示作品を題材とした演劇の上演及びトークセッションを行った。その他、京都市立芸術大学芸術資源研究センターと共催し、「過去の現在の未来 アーティスト、学芸員、研究者が考

える現代美術の保存と修復」という題名でアーティスト、学芸員、研究者という3つの異なる立場から、現代美術の保存と修復の意義課題について考察したシンポジウムを行った。

児童を対象としたものについては、継続して定期的実施している小中学生を対象とした鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」に加えて、ワークショップ形式のイベント「なつやすみびじゅつあー」（「みて ふれて とつてみる」）を開催し、子どもたちが作品を身近により深く鑑賞する手がかりを提供した。また、「リッスン ー耳で知るー」では、外部から講師を招き、5歳から高校生以上まで幅広い年齢層が参加できるイベントとして音の出るもの、出ないものを活用した音に関するワークショップを、「日常とりあえず観察」では「他人の時間」出品作家を講師に招き、日常の再発見をテーマにワークショップを行った。

そのほか、学校団体等による団体鑑賞や、中学生の職場体験実習を受入れを実施し、特に後者については資料整理、インフォメーション業務、看視業務等、美術館の業務を幅広く経験する機会を提供した。

#### (オ) 国立新美術館

講演会や作品解説会など、展覧会の内容を広く普及するためのイベントに継続的に取り組んだほか、館長とゲストによるトークイベント「カフェアオキ」を平成27年度も開催し、多くの参加者を集めた。

また、6つの企画展会場において子ども向けの鑑賞ガイドを無料で配布、さらに「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」と「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」では鑑賞ガイドを美術館ホームページでも公開し、情報発信のより一層の充実を図った。

開館以来の特徴的な取組である「アーティスト・ワークショップ」においては、平成27年度も多彩な分野からアーティストやデザイナーを講師に迎えて開催し、毎回好評を得た。特に、「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」の国際巡回に合わせてミャンマーで開催されたワークショップは、教育普及事業の新たな試みとなり、国際的な文化交流の側面からも大きな成果となった。また、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」が巡回した韓国国立現代美術館における日本人作家のアーティスト・トークは、多くの韓国の鑑賞者の注目を集めた。

このほか、「メディアと芸術のあいだーヤシャ・ライハートの60年代の『展覧会』を読み解く」など、外部機関との連携によるシンポジウムを開催、展覧会や美術に関してより深く考証する機会の創出に努めた。

平成24年度より取り組んでいる未就学児を対象にしたワークショップも引き続き企画・実施した。平成27年度はアーティストの開発好明氏を講師に迎え、初めてパブリックエリアである1階ロビーを会場として開催したが、美術館を訪れた大勢の人々が行き交う開放的な空間でのワークショップは、参加者の満足度を高めるだけでなく、子どもを対象とした教育普及活動の幅広い周知にもつながる結果となった。

## ② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

### ア ボランティアによる教育普及事業

館名		ボランティア登録者数	ボランティア参加者数	教育普及事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	34	555	5,467
	工芸館	28	258	2,327
京都国立近代美術館		38	—	—
国立西洋美術館		43	740	12,197
国立国際美術館		8	2	68
国立新美術館		92	121	4,884
計		243	1,676	24,943

## イ 各館の特徴

### (ア) 東京国立近代美術館

本館では、ボランティア制度を見直し、実施要項を改訂した。改訂の要点は、これまで無制限だった活動期間を最長 10 年に定めたことと、活動費の値上げである。また、本館では 5 年ぶりに新規 MOMAT ガイドスタッフ（5 期生）を募集し、11 名の研修生に養成研修を行った。フォローアップ研修は、「グッゲンハイム美術館のギャラリートーク」と題して、工芸館ガイドスタッフ・国立西洋美術館ボランティアとの合同研修を行い、ギャラリートークスキルの向上を図った。

また、平成 26 年度に引き続き夏の子ども向けプログラム「KIDS★MOMAT」や未就学児向けプログラム「おやこでトーク」などのスタッフをガイドスタッフが担当した。

工芸館では、団体受入れの増加に伴い、ボランティアによる教育普及事業の必要性が年々高まっており、平成 27 年度は 7 期メンバーを募集して養成研修を実施し、8 名を登録した。また活動中のボランティアスタッフ全員に対してもガイド状況の確認と講評を実施し、研究員や作家等によるギャラリートークや講演とは異なった、より平易な、参加者の見る力を引き出すことを目的としたプログラムの実践についてディスカッションを行った。

### (イ) 京都国立近代美術館

引き続き、京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力した。

### (ウ) 国立西洋美術館

平成 26 年度から始まった、ボランティアスタッフが独自に企画・実施する「立ち寄りプログラム」を 2 回実施した。8 月はロダンの彫刻作品をデザインしたうちわ作りのワークショップ、冬は「クリスマス・プログラム」の一環としてクリスマスのオーナメント作りを行った。企画から材料準備、当日の運営まで全てボランティアスタッフが主体的に取り組んだ。両プログラムとも、幅広い年代の参加者がそれぞれに工夫して作品を作り、楽しんでいた。

ボランティアスタッフにとっても、通常の活動以外のことに関わり、様々な年齢層の来館者と触れあう貴重な機会となった。

### (エ) 国立国際美術館

資料室の整理、教育普及プログラムのサポートなど美術館運営の補助業務に従事するボランティアスタッフを大学もしくは短期大学に在籍する学生から広く募り、直接美術館活動に関わる機会を提供した。

### (オ) 国立新美術館

学生ボランティアである「サポート・スタッフ」として、92 名の大学生・大学院生が登録した。美術や美術史だけでなく、幅広い分野の専攻の学生が、講演会やシンポジウム、ワークショップ、コンサートの運営補助などの活動に参加した。美術館の活動に対する関心と意欲を持つ学生たちのサポートは、イベント実施において欠かせない存在となっている。

## ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

### (ア) 東京国立近代美術館

- ・本館において、三菱商事株式会社との協働により、障がい者のための鑑賞プログラムとして、閉館後所蔵作品展の障がい者特別内覧会を実施した（計 1 件 1 回、参加者 58 人）。

- ・「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」の関連事業として、大阪万博に実際に出展されていたフランソワ・バシェの音響彫刻を用いたコンサートやワークショップ、シンポジウムなどの多様なプログラムを実施した（計 1 件 4 回，参加者 204 人）。
- ・NPO 日本染織文化振興会と連携し，講演会「芹沢銈介の造形」を実施した（計 1 件 1 回，参加者 80 人）。

#### (イ) 京都国立近代美術館

- ・京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を開催した（計 1 件 2 回，参加者 283 人）。
- ・ミュージアム・アクセスビューと連携し，視覚障害のある方と対話をしながらアートを体感する鑑賞ツアーを開催した（計 1 件 2 回，参加者 44 人）。
- ・公益財団法人 DNP 文化振興財団と連携し，京都 ddd ギャラリーで開催される「20 世紀琳派 田中一光」展の講演会を開催した（計 1 件，2 回，参加人数 201 人）。
- ・そのほか，京都市内 4 館連携協力協議会「京都ミュージアムズ・フォー」の連携事業として，フォーラム「琳派を飾る一展覧会から見えるもの一」（講師：小倉実子主任研究員）を実施した。また，京都岡崎魅力づくり推進協議会に協力し，「【岡崎】学芸員さんといく夜の京都国立近代美術館，展覧会の舞台裏へ～地下室から機械室，バックヤードまで～」を開催した（計 2 件，2 回，参加人数 134 人）。

#### (ウ) 国立西洋美術館

- ・「ファン・デー2015」前庭コンサート及び「美術館でクリスマス」クリスマスキャロル・コンサートを開催した（計 2 件 8 回，参加者 985 人）。
- ・三菱商事株式会社との協働により，障がい者のための鑑賞プログラムとして「ボルドー展 一美と陶酔の都へ」の障がい者特別内覧会を実施した（計 1 件 1 回，参加者 66 人）。

#### (エ) 国立国際美術館

- ・公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団と協力し，劇団悪魔のしるしを招き「わが父，ジャコメッティ」を上演した（計 1 件 3 回，参加者 206 人）。

#### (オ) 国立新美術館

- ・企業協賛金を活用して，以下の事業を実施した。
  - ◇館主催のロビーコンサート「日本を代表する国際的ジャズピアニスト 佐藤允彦 ソロ・コンサート マグリット，マンガ\*アニメ\*ゲーム，そしてスタンダードを弾く」「オータム・ジャズコンサート」「国立新美術館サマー・ジャズコンサート」，「国立新美術館音楽の楽しみ『弦楽四重奏の魅力』」を開催した（計 3 件 3 回，参加者 1,085 人）。
  - ◇託児サービスを提供した（34 回）。
  - ◇JAC（Japan Art Catalog）プロジェクトとして海外の日本美術の研究拠点 4 ヲ所へ国内で開催された展覧会図録を寄贈した。
  - ◇教育普及事業としてワークショップ，講演会及びシンポジウムを開催，鑑賞ガイドを作成した。
- ・政策研究大学院大学学生向けガイダンスを実施した（計 1 件 2 回，86 人）。

#### (カ) その他（各館共通）

東京の美術館・博物館等 78 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2015」及び関西の美術館・博物館等 64 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・

関西 2015」に参加し、所蔵作品展観覧料の無料化又は割引や、企画展観覧料の割引などを実施した。

### ③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

東京国立近代美術館本館では、「Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展，再演」において、1972年当時の展覧会で関連イベントとして行われた実験映画の上映会「FILM NOW」で紹介された作品を、「FILM NOW，再演」として、本展でも上映した。

京都国立近代美術館では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催による映画上映「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」を4回にわたり実施した。4月の上映「外国無声映画コレクション特集」では、上映に合わせて即興のピアノ伴奏を行った。7月と8月の上映「食卓のある映画」では、「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」に合わせたテーマを設け上映作品をピックアップした。10月の上映「ニュース映画を中心に見る戦時期日本の実像と虚像」では、北小路隆志氏（京都造形芸術大学 准教授）による作品解説を行った。

国立国際美術館では、第10回、第11回「中之島映像劇場」を開催した。第10回では日本の前衛映画でも特別な存在感を示す金井勝の初期作品と監督デビュー以前に撮影で参加した独立プロ作品を上映した。第11回ではラボ・ワークに積極的な創造性を見いだす日本の映画作家の作品を特集上映し、デジタル映像が増えた今日において、フィルムで制作すること、見ることの意味を見直してもらうための上映を行った。

これら京都国立近代美術館及び国立国際美術館での共催事業は、関西におけるフィルムセンター所蔵作品の定期的な上映拠点の形成に資するものである。

国立新美術館では、「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」において、JAniCA、及び京都精華大学と連携して同大が持つ「京都精華大学テレビCMデータベース」から、特に昭和20～30年代のアニメーションCM18本を厳選して上映会を行った。テレビ黎明期に放映された貴重な創成期のアニメーション表現を鑑賞することで、ニッポンのアニメの持つ魅力の一面を紹介した。また、アニメーションの分野では若手の人材育成が進んでおり、文化庁の若手アニメーター育成プログラムとして行われた「アニメミライ」（平成23～27年度）の参加作品上映会をおこない、様々なアニメーション表現を鑑賞できる機会とした。

## (5) 調査研究成果の美術館活動への反映

### ① 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館  
(本館)

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	片岡球子展	「生誕110年 片岡球子展」を企画構成、開催、図録を発行	北海道立近代美術館、愛知県美術館
2	5館合同展	「No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」を企画構成、開催、図録を発行	京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館
3	映像展	「Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展，再演」を企画構成、開催、図録を発行	—
4	恩地孝四郎展	「恩地孝四郎展」を企画構成、開催、図録を発行	和歌山県立近代美術館
5	安田鞞彦展	「安田鞞彦展」を企画構成、開催、図録を発行	—
6	「MOMATコレクション」開催のための調査・研究	「MOMATコレクション」を開催	—

7	藤田嗣治の戦争画に関する研究	「MOMATコレクション 特集 藤田嗣治, 全所蔵作品展示。」を企画構成, 開催, 図録を発行	—
8	美術作品と建築の同時代性に関する研究	「MOMATコレクション 特集 ちょっと建築目線で見た美術, 編年体」企画構成, 開催	—
9	1970年代の写真における「事物」の研究	「コレクションを中心とした小企画 「事物」—1970年代の写真と美術を考えるキーワード」を開催, 小冊子を発行	—
10	1960-70年代美術におけるメルロ＝ポンティの影響に関する研究	「コレクションを中心とした小企画 てぶくろ ろくぶて」を開催, 小冊子を発行	—
11	野外彫刻の保全・修復に関する研究	多田美波《Chiaroscuro》(1979年)の洗浄・修復を実施	多田美波研究所
12	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較研究	作品の調査撮影とデータ比較を実施	西川茂(写真家)
13	金属彫刻展示の安全性向上に関する研究	地震対策を踏まえた大型金属彫刻の安全な展示方法について協議	栃木県立美術館
14	美術館の教育普及事業(ワークショップ, 鑑賞ガイド等)	ワークショップの実施, セルフガイドの制作	—
15	学校教育と連携する鑑賞教育	教員研修の実施	東京都中学校美術教育研究会
16	国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus, 文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を, 「想—IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	国立美術館「想—IMAGINE」の公開	国立情報学研究所, 国立国会図書館
17	国立情報学研究所との共同による海外主要美術図書館横断検索システム(artlibraries.net)と国立美術館図書館OPACとの連携可能インターフェース	artlibraries.netへの参加による美術書誌情報の発信	artlibraries.net, 国立情報学研究所, カールスルーエ工科大学
18	作品の来歴, 展覧会歴, 文献歴など歴史的情報をもつ所蔵作品データの拡充を図り, 併せて国立美術館所蔵作品総合目録での公開を目指す	国立美術館所蔵図書資料等の書誌情報の世界発信	—
19	「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業 2015」(略称: JALプロジェクト)	国立美術館所蔵作品情報の精緻化と世界標準化	—
20	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発(科研費 基盤B 研究代表者: 一條彰子, 平成24年~平成27年)	所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発	国立西洋美術館, 東京国立博物館
21	1960~70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築(科研費 基盤C 研究代表者: 伊村靖子, 平成27年~平成29年)	寄贈資料のアーカイブ化, 国際シンポジウムの開催	情報科学芸術大学院大学

## (工芸館)

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	大阪万博のデザイン	「大阪万博1970 デザインプロジェクト」を企画構成開催，図録を発行	—
2	栗木達介	「栗木達介展—現代陶芸の鬼才」を企画構成，開催，図録を発行	京都国立近代美術館
3	芹沢銈介の造形	「芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション」企画構成，図録を発行	—
4	近代工芸と茶の湯	「近代工芸と茶の湯」を企画構成，開催	—
5	近代工芸の歴史と展開	「東京国立近代美術館工芸館名品展」を企画構成，開催	射水市新湊博物館，宮崎県立美術館
6	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	教員研修の実施	東京都中学校美術教育研究会
7	児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	連携授業の実施，教員研修の実施	東京都版画工作研究会
8	染織作品の研究	作品の調査とデータ整備	日本工芸会，多摩美術大学
9	20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国のデザイン／工芸の交流（科研費基盤C 研究代表者：木田拓也，平成26年～平成28年）	「ようこそ日本へ：1920 - 30年代のツーリズムとデザイン」の企画構成，開催，図録を発行など	—

## (フィルムセンター)

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAP) 会員，その他同種機関，現像所等からの情報に基づき，新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	『千人針』『サムライ学校』のデジタル復元，寄贈受入，購入，不燃化・複製化	ゴスフィルモフォンズ，フィルムアルヒーフ・オーストリア，川崎市市民ミュージアム，川喜多記念映画文化財団，IMAGICA，IMAGICA ウェスト
2	文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき，新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	『日本南極探検』のデジタル復元	白瀬南極探検隊記念館，IMAGICA，IMAGICA ウェスト
3	可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録，アナログ及びデジタル技術を活用した復元，及び映写	映画フィルムの寄贈受入，購入，不燃化・複製化，及び上映業務を伴う事業	福岡市総合図書館，IMAGICA，IMAGICA ウェスト，東京光音，ナックイメージテクノロジー，コミュニティシネマセンター
4	映画におけるデジタル保存と活用	デジタル映画の保存・活用，フィルム映画のデジタル保存，国内外の調査，人材育成の諸分野における調査報告に向けた準備	FIAP会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，IT関連研究教育機関，映画製作会社，映画関連団体，放送局，映像機器メーカー，現像所，IT関連会社等
5	不明となっている所蔵作品の権利帰属等メタデータ	映画フィルムの寄贈受入，購入	映画製作会社等諸団体
6	映画の撮影及び現像時における技術データ	映画フィルム等の購入，複製化	日本撮影監督協会，IMAGICA，IMAGICA ウェスト，東京現像所，東映ラボ・テック

7	映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	資料アクセスの容易化	—
8	東映時代劇	「日本映画史横断⑥ 東映時代劇の世界 Part 2」企画上映	—
9	ヨーロッパ諸国の映画	「EUフィルムデーズ 2015」企画上映	駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関
10	近年逝去した映画人	「特集・逝ける映画人を偲んで 2013-2014」企画上映	—
11	日本の自主映画	「第37回 PFF」企画上映	PFF パートナーズ（ぴあ株式会社、株式会社ホリプロ、日活株式会社）、公益財団法人ユニジャパン
12	無声映画	「シネマの冒険 闇と音楽 2015」企画上映	—
13	映画監督オーソン・ウェルズ	「生誕100年 オーソン・ウェルズ——天才の発見」企画上映	東京国際映画祭、モーシオン・ピクチャー・アソシエーション（MPA）、株式会社日本国際映画著作権協会 特別協力：ミュンヘン映画博物館
14	韓国映画史	「日韓国交正常化50周年 韓国映画 1934-1959 創造と開花」企画上映	文化庁、駐日韓国大使館、韓国文化院、韓国映像資料院、福岡市総合図書館
15	映画監督三隅研次	「映画監督 三隅研次」企画上映	—
16	現代日本の映画監督	「自選シリーズ 現代日本の映画監督4 根岸吉太郎」企画上映	—
17	キューバ映画	「キューバ映画特集」企画上映	—
18	映画をめぐる本と出版の歴史について	「シネマブックの秘かな愉しみ」企画展示	—
19	俳優志村喬	「映画俳優志村喬」企画展示	—
20	キューバの映画ポスター	「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」企画展示	京都国立近代美術館
21	撮影監督宮川一夫アーカイブ・プロジェクト （科研費 基盤C 研究代表者：富田美香、平成25年度～平成27年度（平成27年9月に立命館大学から転入））	「映画監督 三隅研次」企画上映	—

## イ 京都国立近代美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	現代美術の個人コレクション、コレクター、アートマーケットの現状について～ヤゲオ財団コレクションを例に	「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」の開催	ヤゲオ財団、東京国立近代美術館、名古屋市美術館、広島市現代美術館
2	戦後アメリカにおけるミュージカル映画のポスターにおけるヴィジュアル・リテラシについて	「ポスターにみる ミュージカル映画の世界」の開催	東京国立近代美術館フィルムセンター



3	北大路魯山人と和食	「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」の開催	足立美術館, 三井記念美術館
4	栗木達介と現代陶芸に関する研究	「現代陶芸の鬼才 栗木達介展」の開催	東京国立近代美術館工芸館
5	琳派イメージ	「琳派400年記念 「琳派イメージ」展」の開催	
6	志村ふくみと民藝に関する研究	「文化勲章受章記念 志村ふくみ一母衣への回帰」の開催	世田谷美術館, 沖縄県立美術館・博物館
7	『マヴォ』とフロリアン・プムヘスル	2015年に開催したシンポジウムの内容を、『CROSS SECTIONS Vol. 8』（平成28年度発行予定）に掲載予定	
8	フェリーツェ・“リチ”・上野=リックス (Felice “Lizzi” Ueno-Rix) のテキスタイル・デザインとウィーン工房	小企画「キュレトリアル・スタディーズ09: 上野リチのテキスタイル・デザイン〜ウィーン工房から京都へ」の開催	大阪新美術館建設準備室
9	児童生徒を対象とした鑑賞教育	展覧会に関連したワークショップの開催	
10	革命期キューバにおける映画産業とそのポスター制作について	「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」の開催	東京国立近代美術館フィルムセンター
11	印象派の女性画家メアリー・カサットに関する総合的研究	「メアリー・カサット展」の開催	横浜美術館
12	トルボット著『自然の鉛筆』と写真術の発明に関する研究	小企画「キュレトリアル・スタディーズ10: 写真の〈原点〉再考——ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から」の開催	
13	ベルリン工芸博物館開館時の展示方法一考—源泉としてのジオラマとグロピウス一族 (科研費 基盤C 研究代表者: 池田祐子, 平成25年~平成27年)	美術館(博物館)における工芸・デザイン作品の展示方法の再考	
14	近代美術工芸における「図案」と「図案家」をめぐる基礎的研究 (科研費 若手B 研究代表者: 中尾優衣, 平成25年~平成28年)	研究論集『CROSS SECTIONS Vol. 7』にて研究成果の一部を発表	
15	オーラルヒストリーによる1970年前後の前衛美術とその隣接領域 (科研費 基盤C 研究代表者: 加治屋健司(京都市立芸術大学) 研究分担者: 牧口千夏, 平成25年~平成27年)	所蔵作品作家についての情報収集	京都市立芸術大学
16	創造の為のアーカイブの実践的研究—言語・身体・イメージから— (科研費 基盤B 研究代表者: 高橋悟(京都市立芸術大学) 研究分担者: 牧口千夏, 平成26年~平成28年)	コレクションの再配置に関する考察をコレクション展及び所蔵作品による企画展において実践	京都市立芸術大学
17	日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究 (科研費 基盤A 研究代表者: 山崎剛(金沢美術工芸大学) 研究分担者: 松原龍一, 平成25年~平成27年)	明治以降, 欧米を参考になされてきた日本の美術の分類についての再検証と新しい分類の考察	金沢美術工芸大学

ウ 国立西洋美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	ボローニャ文化財・美術館特別監督局、チェント市立美術館
2	ボルドー展 美と陶酔の都へ	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	ボルドー美術館、ボルドー装飾芸術・デザイン美術館、アキテーヌ博物館、CAPCボルドー現代美術館、ボルドー市立図書館、ボルドー市立公文書館、ワイン文明博物館、福岡市博物館
3	黄金伝説展 古代地中海世界の秘宝	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	宮城県美術館、愛知県美術館
4	日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展	展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行	
5	旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	
6	中世末期から20世紀初頭の西洋美術	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	
7	所蔵版画作品	作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等	
8	美術館教育	教育普及プログラムを実施。鑑賞教育教材制作、インターンシップ、ボランティア指導、解説等	
9	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	教育普及プログラムの実施、文献及び図面調査	
10	聖なるもの、俗なるもの メッケネムとドイツ初期銅版画	展覧会及び講演会等の開催準備、図録の刊行準備	ミュンヘン国立素描版画館
11	クラーナハ展—500年後の誘惑	展覧会及び講演会等の開催準備、図録の刊行準備	ウィーン美術史美術館、国立国際美術館
12	シャセリオー展 ロマン主義から象徴主義へ（仮称）	展覧会及び講演会等の開催準備、図録の刊行準備	ルーヴル美術館
13	スケーエン：デンマークの芸術家村	展覧会及び講演会等の開催準備、図録の刊行準備	スケーエン美術館
14	国立西洋美術館所蔵作品データベース（科研費 研究成果公開促進費（データベース）研究代表者：川口雅子、単年度申請）	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築、整備	
15	17世紀オランダ美術の東洋表象研究（科研費 基盤A 研究代表者：幸福輝、平成24年～28年）	作品及び文献調査、データベースの構築	
16	エライザ法を用いた膠着材同定の実現のための検討（科研費 若手B 研究代表者：高嶋美穂、平成24年～27年）	所蔵作品の保存のための基礎資料	
17	古代ローマ工芸美術の基礎的研究～テッラ・シギラタについて～（科研費 基盤C 研究代表者：向井朋生、平成25年～27年）	作品及び文献調査、刊行物等	

18	前衛と古典主義：20世紀イタリア美術における美術館と複製媒体の諸機能に関する研究（科研費 若手B 研究 代表者：阿部真弓，平成25年～27年）	作品及び文献調査，刊行物等	
19	10年後の被災都市におけるミュージアムの教育プログラム—ニューオリ ンズを事例に（科研費 基盤C 研究 代表者：横山佐紀，平成27年～30年）	教育普及活動に関する文献調査，今後の活動 に関する基礎資料	

## エ 国立国際美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	「エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ」を企画構成，開催，図録を発行	
2	現代美術の動向	所蔵作品展の企画構成，作品の収集活動	
3	高松次郎	「高松次郎 制作の軌跡」を企画構成，開催，カタログを発行	東京国立近代美術館
4	ヴォルフガング・ティルマンズ	「ヴォルフガング・ティルマンズ Your Body is Yours」を企画構成，開催，カタログを発行	
5	竹岡雄二	「竹岡雄二 台座から空間へ」を企画構成，開催，図録を発行	埼玉県立近代美術館，遠山記念館
6	プレイ	平成28年度に実施予定の「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」の調査及び調査結果を「美術館ニュース」にて継続的に公表	
7	森村泰昌	平成28年度に実施予定の「森村泰昌：自画像の美術史 —『私』と『わたし』が出会うとき」を企画構成，開催，図録発行，作品の収集	
8	美術館教育	『ジュニア・セルフガイド』，『アクティヴイティ・シート』の発行，ワークショップ，鑑賞ツアー，各種スクールプログラムの実施	
9	福岡道雄	「福岡道雄」を企画構成，開催，図録の発行	和歌山県立近代美術館
10	ライブツィヒ派，とりわけネオ・ラオホ	「ネオ・ラオホ」展（予定）の企画構成，開催，図録の発行	Museum der bildende Künste Leipzig, EIGEN+ART
11	国立国際美術館所蔵作品	来歴，展覧会歴データベースの作成	
12	平成27年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業「タイムベースト・メディアを用いた美術作品の修復／保存に関するモデル事業」	古橋悌二《LOVERS-永遠の恋人たち》（1994年）の修復保存の作業，シンポジウム開催，報告書の発行協力	京都市立芸術大学，せんだいメディアテーク，ダムタイプオフィス
13	アジア・オセアニアの現代美術並びに美術館運営	「他人の時間」を企画構成，開催，図録発行	国際交流基金，シンガポール美術館，東京都現代美術館，クイーンズランド州立美術館   現代美術館

オ 国立新美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	16世紀から19世紀半ばまでのヨーロッパ風俗画の調査研究	「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」を開催，図録を発行	ルーヴル美術館，京都市美術館
2	ルネ・マグリットの芸術とその展開についての調査研究	「マグリット展」を開催，図録を発行	ベルギー王立美術館，マグリット財団，京都市美術館
3	日本のマンガ，アニメ，ゲーム	「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」を開催，図録を発行	兵庫県立美術館，CG-ARTS協会
4	日韓の現代美術作家に関する調査研究	「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」を開催，図録を発行	韓国国立現代美術館，国際交流基金
5	ニキ・ド・サンファル研究	「ニキ・ド・サンファル展」を開催，図録を発行	フランス国立美術連合グラン・パレ (Rmn-GP)，ニキ芸術財団
6	近代日本における西洋美術の受容史と美術館の成立	「はじまり，美の饗宴 すばらしき大原美術館コレクション」を開催，図録を発行	公益財団法人大原美術館
7	三宅一生	「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」を企画構成，開催，図録を発行	公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団，株式会社 三宅デザイン事務所，株式会社イッセイ ミヤケ
8	日本の現代美術の動向	「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」を開催，図録を発行	—
9	海外の現代美術の動向	「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」を開催，図録を発行	—
10	ルノワール	「オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展」を開催予定	オルセー美術館，オランジュリー美術館
11	ヴェネツィア絵画	「アカデミア美術館所蔵 ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠たち」を開催予定	アカデミア美術館
12	サルヴァドール・ダリ	「ダリ展」を開催予定	ガラ＝サルバドール・ダリ財団，サルバドール・ダリ美術館，国立ソフィア王妃芸術センター
13	草間彌生	「草間彌生展」（仮称）を開催予定	—
14	アルフォンス・ミュシャ（《スラヴ叙事詩》を中心に）	「ミュシャ展」を開催予定	プラハ市立美術館
15	東南アジアの現代美術の動向	「東南アジア美術展」（仮称）を開催予定	森美術館，国際交流基金
16	ドイツ表現主義	「ベルリン展」（仮称）を開催予定	—
17	ウィーン美術史（18世紀～20世紀）	「ウィーン展」（仮称）企画構成，開催予定	ウィーン美術館
18	日本のファッションとデザイン	ICOM-COSTUMEへの参加	ICOM-COSTUME

19	美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	「ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」鑑賞ガイド／「マグリット展」鑑賞ガイド／「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」鑑賞ガイド（日本語版・英語版）／「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」鑑賞ガイド／「ニキ・ド・サンファル展」鑑賞ガイド／「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」鑑賞ガイド 以上6種7冊の鑑賞ガイドの作成	
20	日本の近・現代美術資料	ヤシャ・ライハート氏招聘国際シンポジウムの開催／大阪新美術館建設準備室・文化庁との共催シンポジウムの開催／日本の近・現代美術資料の収集、デジタル化を含む保存処置の実施	
21	戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」での展覧会情報収集と提供	
22	美術情報の収集・提供システム	独立行政法人国立美術館美術情報ゲートウェイ構築の検討	
23	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	東京国立近代美術館等との所蔵作品デジタル撮影実験	

## ② 展覧会カタログの執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み、共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については、ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

### ア 東京国立近代美術館 (本館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	総論，章解説，作品解説，主要参考文献	中村麗子 (主任研究員)	生誕110年 片岡球子展
2	「お墓でなぜ悪い？「これからの美術館事典」のユーザーズガイドに代えて」，項目解説	榊田倫広 (研究員) 「項目解説」共同執筆者：新藤淳(国立西洋美術館研究員)	No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会
3	「Re: play, すなわち, play について」，「Re: Re: play 1972/2015」，作品解説	三輪健仁 (主任研究員)	Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展，再演
4	「抽象への方途—恩地孝四郎の版画」，章解説，作品解説	松本透 (副館長)	恩地孝四郎展
5	作品解説，年譜，参考文献	大谷省吾 (主任研究員)	安田靉彦展
6	総論，章解説，作品解説，年譜	鶴見香織 (主任研究員)	安田靉彦展
7	コレクションを中心とした小企画「事物：1970年代の日本の写真と美術を考えるキーワード」小冊子	増田玲 (主任研究員)	コレクションを中心とした小企画「事物：1970年代の日本の写真と美術を考えるキーワード」

8	MOMAT コレクション特集「藤田嗣治, 全所蔵作品展示。」作品解説	蔵屋美香 (美術課長)	MOMAT コレクション特集「藤田嗣治, 全所蔵作品展示。」
9	コレクションを中心とした小企画「てぶくろ   ろくぶて」冊子	蔵屋美香 (美術課長)	コレクションを中心とした小企画「てぶくろ   ろくぶて」

(工芸館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「栗木達介：1980年～1996年の陶芸」, 「栗木達介略年譜」	諸山正則 (主任研究員)	栗木達介展—現代陶芸の鬼才
2	「ようこそ日本へ：日本の『自画像』としての観光ポスター」, 章解説, 作品解説, 主要参考文献	木田拓也 (主任研究員)	ようこそ日本へ：1920 - 30年代のツーリズムとデザイン
3	「芹沢銈介を見る一模様, もの, 旅」, 章解説, 作品解説	今井陽子 (主任研究員)	芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション
4	芹沢銈介略年譜	成田暢 (客員研究員)	芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション
5	参考文献	岡崎由美 (事務補佐員)	芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション
6	参考文献	武荒史都子 (事務補佐員)	芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション
7	参考文献	西岡梢 (研究補佐員)	芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション
8	ピカ☆ボコ：ADULT [おとなセルフガイド]	今井陽子 (主任研究員)	所蔵作品展「こども+おとな工芸館 ピカ☆ボコ—オノマトペで読みとく工芸の魅力」
9	ピカ☆ボコ：KIDS [こどもセルフガイド]	今井陽子 (主任研究員)	所蔵作品展「こども+おとな工芸館 ピカ☆ボコ—オノマトペで読みとく工芸の魅力」
10	所蔵作品展「未来へつづく美生活展」解説シート	北村仁美 (主任研究員)	所蔵作品展「1920～2010年代所蔵工芸品に見る 未来へつづく美生活展」
11	所蔵作品展「未来へつづく美生活展」解説シート	高橋佑香子 (研究補佐員)	所蔵作品展「1920～2010年代所蔵工芸品に見る 未来へつづく美生活展」

(フィルムセンター)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「獲得した光, 失った光—革命キューバ映画の誕生をめぐるスケッチ」	岡田秀則 (主任研究員)	キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより
2	インタビュー「革命キューバの映画ポスター, その歴史と現在」	岡田秀則 (主任研究員)	キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより
3	「手作りのプロパガンダ ICAIC シルクスクリーン工房を訪ねて」	岡田秀則 (主任研究員)	キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより

イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	作品解説, 資料紹介	牧口千夏 (主任研究員)	ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才

2	「和食の天才 北大路魯山人」	松原龍一 (学芸課長)	ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才
3	「現代陶芸の鬼才栗木達介の軌跡」	松原龍一 (学芸課長)	現代陶芸の鬼才 栗木達介展
4	「琳派イメージ展について」, 作家略歴	小倉実子 (主任研究員)	琳派 400 年記念 「琳派イメージ」展
5	「琳派イメージ —近代日本工芸との関係」	松原龍一 (学芸課長)	琳派 400 年記念 「琳派イメージ」展
6	略年譜	平井啓修 (研究員)	文化勲章受章記念 志村ふくみ—母衣への回帰—
7	「志村ふくみの軌跡」	松原龍一 (学芸課長)	文化勲章受章記念 志村ふくみ—母衣への回帰—

## ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「序」, 「19 世紀のボルドー—ロマン主義から象徴主義へ」, 章解説	陳岡めぐみ (主任研究員)	ボルドー展 —美と陶酔の都へ—
2	「黄金の遺産：起源, 神話, 技」, 章解説	飯塚隆 (研究員)	黄金伝説展 古代地中海世界の秘宝
3	「ローマにおけるカラヴァジズムの成立と展開」	川瀬佑介 (研究員)	日伊国交樹立 150 周年記念 カラヴァージョ展

## エ 国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	「高松次郎の全体像：ドローイングと装幀・挿画の仕事を変えて、年代順に」	中西博之 (主任研究員)	高松次郎 制作の軌跡
2	「他人の時間のために」	橋本梓 (主任研究員)	他人の時間
3	「ヴォルフガング・ティルマンズの作品における重層性」	植松由佳 (主任研究員)	ヴォルフガング・ティルマンズ Your Body is Yours
4	作家・作品解説	池田あゆみ (研究補佐員)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
5	作家・作品解説	小野寺結 (キュレトリアル・インターン)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
6	作家・作品解説	楠本愛 (研究補佐員)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
7	作家・作品解説	高見澤なごみ (キュレトリアル・インターン)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
8	「現代の人間表現について アルベルト・ジャコメッティの芸術と小谷元彦の芸術との距離」, 作家・作品解説	中井康之 (学芸課長)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
9	「予兆と反転——現代の人間像は、見えない」, 作家・作品解説	福元崇志 (任期付研究員)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ

10	作家・作品解説	古俣皓隆 (キュレトリアル・イン ターーン)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
11	作家・作品解説	尹志慧 (研究補佐員)	エッケ・ホモ 現代の人間像を見よ
12	竹岡雄二の芸術	中西博之 (主任研究員)	竹岡雄二 台座から空間へ

## オ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	展覧会名
1	コラム「デジタル作画によるマンガ表現の変化」, [年表]「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム*テクノロジー*社会*文化の60年史」, 作品解説	小山祐美子 (研究補佐員)	ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム
2	「百瀬文 『駐屯地』をめぐって」, 「横溝静 自己と他者—イメージの根源に向かって」	長屋光枝 (主任研究員)	アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち
3	「手塚愛子 層という異界へ, あるいは回復のための練習」	日比野民蓉 (研究補佐員)	アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち
4	「共同序文」, 「富井大裕 世界への漸近線」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち
5	「オブジェクトとイメージの隣接性」, 「小林耕平 トレーディング/トレーニング」, 「南川史門 絵画と抽象, トランプの貴婦人と三角木馬」	米田尚輝 (研究員)	アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋—日本と韓国の作家たち
6	コラム「拡散する「ニキ・ワールド」——複数制作の作品にこめられたメッセージ」, 年表, 文献	長谷川珠緒 (研究補佐員)	ニキ・ド・サンファル展
7	「ニキ・ド・サンファルの暴力性と絵画芸術」, コラム「ニキ・ド・サンファルと日本の1980年代」, 章解説, 作品解説	山田由佳子 (研究員)	ニキ・ド・サンファル展
8	「表現と素材 第18回 DOMANI 明日展によせて」	真住貴子 (主任研究員)	未来を担う美術家たち 18th DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外 研修の成果
9	作品解説	岩崎美千子 (研究補佐員)	はじまり, 美の饗宴展 すばらしき大原 美術館コレクション
10	章解説, 作品解説	瀧上華 (アソシエイトフェ ロー)	はじまり, 美の饗宴展 すばらしき大原 美術館コレクション
11	章解説, 作品解説	長屋光枝 (主任研究員)	はじまり, 美の饗宴展 すばらしき大原 美術館コレクション
12	作品解説	南雄介 (副館長兼学芸課長)	はじまり, 美の饗宴展 すばらしき大原 美術館コレクション
13	「三宅一生の仕事」	本橋弥生 (主任研究員)	MIYAKE ISSEY 展: 三宅一生の仕事

### ③ 研究紀要の執筆

#### ア 東京国立近代美術館 (本館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「1970年の分水嶺—日本における概念的な芸術の系譜(2)」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第20号	H28.3.31



2	「国立美術館の所蔵作家とは誰なのか？－独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムからの把握の試み」	水谷長志 (主任研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第20号	H28.3.31
---	---	-----------------	---------------------	----------

(フィルムセンター)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「『千人針』(1937年)の復元－アナログ・デジタル技術を活用した二色式カラー映画の色再現」	三浦和己 (特定研究員) 大傍正規 (研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第20号	H28.3.31
2	「“皇太子滞欧映画”と尾上松之助－NFC所蔵フィルムにみる大正から昭和にかけての皇室をめぐるメディア戦略」	紙屋牧子 (客員研究員)	『東京国立近代美術館研究紀要』第20号	H28.3.31

イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「雑誌にみる近代京都の漆芸－『日本漆工会議誌』を中心に－」	中尾優衣 (研究員)	『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS Vol.7』	H27.9.30
2	「ユリウス・マイアー＝グレーフェとヘルマン・ムテジウス 雑誌『Dekorative Kunst(装飾芸術)』創刊時の書簡について」	池田祐子 (主任研究員)	『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS Vol.7』	H27.9.30
3	「資料紹介 土田麦僊『渡欧日記』」	小倉実子 (主任研究員)	『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS Vol.7』	H27.9.30
4	「講演録：藤本由紀夫「ヨシダミノルとプラスチックの時代」	平井章一 (主任研究員)	『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS Vol.7』	H27.9.30
5	「『日本近代洋画と浮世絵－鏡としてのジャポニズム』について」	池田祐子 (主任研究員)	『京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS Vol.7』	H27.9.30

ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「21世紀の美術館と文化財の想像力－イタリアの3つの美術館の事例をめぐって(2)」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『国立西洋美術館研究紀要』No.20	H28.3.31
2	「オーストラリアの美術館における教育活動」	寺島洋子 (主任研究員) 横山佐紀 (主任研究員)	『国立西洋美術館研究紀要』No.20	H28.3.31

エ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「エドワード・ホッパーの『光』と『影』そして... (上)」	青木保 (館長)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第2号	H27.12.15

2	「教育的転回からグループ・マテリアルへ」, 「国際シンポジウム「アーティストとのかかわりは私たちに何をもたらすのかー“経験する”現場からの検証」 報告書」	井上絵美子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
3	「1960年代日本美術における「デザイン」の意義についてー「色彩と空間」展(1966年)がもたらした議論を中心に」	伊村靖子 (アソシエイト・フェロー)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
4	「ミルピエ振付『ダフニスとクロエ』ーバレエ・リュスの遺産を感じて」	岩崎美千子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
5	「アーティスト・ワークショップ「はじめてのアート 絵描きさんいっしょに、描く、つくる！」」	木内祐子 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
6	「第二次大戦下のアメリカにおける素朴派とシュルレアリスムの接点ーモリス・ハーシュフィールドをめぐる」	長名大地 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
7	「カンディンスキーの抽象絵画における観者とイメージの関係について」	長屋光枝 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
8	「小堀安子, 継承される木画技術ー作家・作品紹介を中心に」	長谷川珠緒 (研究補佐員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
9	「東京時代の河原温」	南雄介 (副館長兼学芸課長)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15
10	「ディオール (Dior) 2015ー16年秋冬プレタポルテ・コレクションショーを観て」	本橋弥生 (主任研究員)	『NACT Review 国立新美術館研究紀要』 第2号	H27.12.15

#### ④ 館ニュース等の執筆

##### ア 東京国立近代美術館

(本館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しいコレクション ポール・セザンヌ《大きな花束》」	藏屋美香 (美術課長)	『現代の眼』611号	H27.4.1
2	「作品研究 土田麦僊《島の女》再考ー[その2] 重なりと併置」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』611号	H27.4.1
3	「作品研究 山田光春旧蔵瑛九作品および資料について」	大谷省吾 (主任研究員)	『現代の眼』612号	H27.6.1
4	「《台本》は果して「上演」できるのか？」	藏屋美香 (美術課長)	『現代の眼』612号	H27.6.1
5	「新しいコレクション 森村泰昌《烈火の季節/なにものかへのレクイエム (MISHIMA)》」	保坂健二朗 (主任研究員)	『現代の眼』612号	H27.6.1
6	「教育普及 コレクションと鑑賞教育」	一條彰子 (主任研究員)	『現代の眼』613号	H27.8.1
7	「新しいコレクション 村上隆《ポリリズム》」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『現代の眼』613号	H.27.8.1

8	「新しいコレクション 菱田春草《松に月》」	鶴見香織 (主任研究員)	『現代の眼』614号	H27.10.1
9	「JALプロジェクト「海外日本美術資料専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」二〇一四から二〇一五へー報告と展望」	水谷長志 (主任研究員)	『現代の眼』614号	H27.10.1
10	「作品研究 海老原喜之助の「ある作品」のタイトルについて：柳亮氏旧蔵資料を手掛かりに」	保坂健二郎 (主任研究員)	『現代の眼』615号	H27.12.1
11	「新しいコレクション 清野賀子《「The Sign of Life」より ブロック塀 千葉》」	増田玲 (主任研究員)	『現代の眼』615号	H27.12.1
12	「新しいコレクション ロバート・スミッソン《ノン・サイト(デス・パレー南, 127号線上のリッグスとシルヴァー湖の間で採取された石灰岩)》」	三輪健仁 (主任研究員)	『現代の眼』616号	H28.2.1

(工芸館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新しいコレクション 面屋庄甫《根っここの唄(大根)》」	今井陽子 (主任研究員)	『現代の眼』611号	H27.4.1
2	「新しいコレクション 寺井直次《驚蕨絵箱》」	諸山正則 (主任研究員)	『現代の眼』612号	H27.6.1
3	「新しいコレクション マルセル・ブロイヤール《クラブ・チェア B3(ワシリー)》」	北村仁美 (主任研究員)	『現代の眼』613号	H27.8.1
4	「素材の分析による創造：所蔵作品展「こども+おとな工芸館 ピカ☆ポコ オノマトペで読みとく工芸の魅力」展」	成田暢 (客員研究員)	『現代の眼』613号	H.27.8.1
5	「On.view 松井康成《練上嘯裂文大壺の世界》：所蔵作品展「こども+おとな工芸館 ピカ☆ポコオノマトペで読みとく工芸の魅力」展」	西岡梢 (工芸課研究補佐員)	『現代の眼』613号	H27.8.1
6	「新しいコレクション 十二代三輪休雪(龍作)《愛の為に》」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『現代の眼』614号	H27.10.1
7	「新しいコレクション ハンス・コパー《ポット》」	内藤裕子 (客員研究員)	『現代の眼』615号	H27.12.1
8	「新しいコレクション 石黒宗麿《釉描陶家曼陀羅鉢》」	木田拓也 (主任研究員)	『現代の眼』616号	H28.2.1
9	「作品研究 織を読みとく—《縞に丸紋どぼんこ染淡鼠地拵着物》」	高橋佑香子 (工芸課研究補佐員)	『現代の眼』616号	H28.2.1

(フィルムセンター)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「デジタル・パンディモニアムの入口——『NFC ニューズレター』20周年の機に考えること——」	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』第120号	H27.4.1

2	「シネマブックの秘かな愉しみ すべての映画書はつながっている——展覧会「シネマブックの秘かな愉しみ」のために」	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』 第 120 号	H27.4.1
3	「BDC プロジェクトの開始」	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』 第 121 号	H27.6.1
4	「連載 フィルム・アーカイブの諸問題 第 88 回 映画のデジタル保存についての現状調査の必要性」	大関勝久 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』 第 121 号	H27.6.1
5	「追悼の回顧 「特集・逝ける映画人を偲んで」とフィルムセンターの歴史」	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』 第 122 号	H27.8.1
6	生誕 110 年 映画俳優 志村喬 年長者の歳月——演技者志村喬の全体像をめぐって	岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』 第 122 号	H27.8.1
7	「もう一つのナショナル・フィルムグラフィアー——日本公開外国映画作品目録の紹介と比較——」	濱口幸一 (客員研究員)	『NFC ニューズレター』 第 122 号	H27.8.1
8	「連載 フィルムアーカイブの諸問題 第 89 回/第 71 回 FIAF シドニー・キャンベラ会議報告 デジタル時代のアクセスと法制度」	松山ひとみ (特定研究員)	『NFC ニューズレター』 第 122 号	H27.8.1
9	「内なる“私”への隷属 「生誕 100 年 オーソン・ウェルズ——天才の発見」を考える」	岡島尚志 (主幹)	『NFC ニューズレター』 第 123 号	H27.10.1
10	「シネマの冒険 闇と音楽 2015 日本におけるサイレント映画の受容環境 (上) 映画説明者による「上演」の要素」	佐崎順昭 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』 第 123 号	H27.10.1
11	「オーソン・ウェルズ監督作品フィルムグラフィアー」	篠儀直子 (客員研究員)	『NFC ニューズレター』 第 123 号	H27.10.1
12	「映画監督 三隅研次 三隅組 撮影スタッフは語る。藤井秀男/宮島正弘」	聞き手・構成： 富田美香 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』 第 124 号	H27.12.1
13	キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより サラ・ベガ氏 インタビュー 革命キューバの映画ポスター、その歴史と現在	聞き手・構成： 岡田秀則 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』 第 124 号	H27.12.1
14	「シネマの冒険 闇と音楽 2015 日本におけるサイレント映画の受容環境 (下) 伴奏音楽の変遷と『映画伴奏事典』」	佐崎順昭 (特定研究員)	『NFC ニューズレター』 第 124 号	H27.12.1
15	「根岸吉太郎監督インタビュー 映画・映像は、ものすごく人を豊かにすると思うんです。」	聞き手： 富田美香 (主任研究員) 聞き手・構成： 佐々木淳 (客員研究員)	『NFC ニューズレター』 第 125 号	H28.2.1

16	「映画監督 三隅研次 「必殺」シリーズ 石原興監督は語る。三隅さんは、そこにあるものを磨き光らす監督さんだったですね。／石原興」	聞き手・構成： 富田美香 (主任研究員)	『NFC ニューズレター』 第 125 号	H28.2.1
----	--	----------------------------	-----------------------	---------

#### イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「新収蔵品紹介—安井曾太郎《孔雀と女》」	平井啓修 (研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』 476号	H27.5.28
2	「トークセッション「京料理と魯山人」」	牧口千夏 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』 479号	H27.10.30
3	「琳派イメージ展について」	小倉実子 (主任研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』 481号	H28.3.28
4	「新収蔵品紹介—鈴木治《馬》など」	中尾優衣 (研究員)	『京都国立近代美術館ニュース視る』 481号	H28.3.28

#### ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「ボルドー展 —美と陶酔の都へ—」	陳岡めぐみ (主任研究員)	『ZEPHYROS』第 63 号	H27.5.20
2	「常設展 2015 年春の新規展示作品について」	川瀬佑介 (研究員)	『ZEPHYROS』第 63 号	H27.5.20
3	「本館建物 Q&A」	福田京 (専門職員)	『ZEPHYROS』第 63 号	H27.5.20
4	「企画展「黄金伝説展 古代地中海世界の秘宝」」	飯塚隆 (研究員)	『ZEPHYROS』第 64 号	H27.8.20
5	「小企画展「没後 50 年 ル・コルビュジエ — 女性と海 大成建設コレクションより」」	村上博哉 (副館長)	『ZEPHYROS』第 64 号	H27.8.20
6	「絵画の裏側」	袴田紘代 (研究員)	『ZEPHYROS』第 64 号	H27.8.20
7	「展覧会ができるまで」	新藤淳 (研究員)	『ZEPHYROS』第 65 号	H27.11.20
8	「常設展より《キリスト降誕》」	中田明日佳 (研究員)	『ZEPHYROS』第 65 号	H27.11.20
9	「グルリット事件と松方コレクション」	川口雅子 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第 65 号	H27.11.20
10	「企画展「日伊国交樹立 150 周年記念 カラヴァッジョ展」」	川瀬佑介 (研究員)	『ZEPHYROS』第 66 号	H28.2.20
11	「小企画展「描かれた夢解釈 — 醒めて見るゆめ／眠って見るうつ」」	新藤淳 (研究員)	『ZEPHYROS』第 66 号	H28.2.20
12	「ファミリープログラム 家庭と美術館における学びの連携」	寺島洋子 (主任研究員)	『ZEPHYROS』第 66 号	H28.2.20

エ 国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
1	「随想, 現代美術 (一)」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』207号	H27.4.1
2	「一九六九年《HOSPITAL エイブ リルフルール ハブニングス》」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』207号	H27.4.1
3	「随想 現代美術(二)—現実の現れ」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』208号	H27.6.1
4	「界面としての「プレイ新聞」」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』208号	H27.6.1
5	「「ヴォルフガング・ティルマンズ Your Body is Yours」展余話〜スタジオ オ訪問記」	植松由佳 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』209号	H27.8.1
6	「随想 現代美術 (三) —物としての 絵画」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』209号	H27.8.1
7	「《現代美術の流れ》」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』209号	H27.8.1
8	「随想 現代美術 (四) —網膜の支配 から逃れて」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』210号	H27.10.1
9	「《CROSS MEETIN'》の旅」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』210号	H27.10.1
10	「随想 現代美術 (五) —リアリズム の変質」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』211号	H27.12.1
11	「臨界点としての 《7 DIMENSIONS》」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』211号	H27.12.1
12	「随想 現代美術 (六) —美術概念の 拡大」	山梨俊夫 (館長)	『国立国際美術館ニュース』212号	H28.2.1
13	「ゲルハルト・リヒター 《STRIP (926-6)》」	福元崇志 (任期付研究員)	『国立国際美術館ニュース』212号	H28.2.1
14	「《白十字宣言》」	橋本梓 (主任研究員)	『国立国際美術館ニュース』212号	H28.2.1

オ 国立新美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名	発行年月日
	該当なし			

⑤所蔵作品目録等の執筆

ア 東京国立近代美術館  
(本館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	書籍名	発行年月日
1	作品解説	藏屋美香 (美術課長)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
2	作品解説	鈴木勝雄 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29

3	作品解説	鶴見香織 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
4	作品解説	増田玲 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
5	作品解説	大谷省吾 (主任研究員)	『名品選 東京国立近代美術館のコレク ションより』	H28.3.31
6	作品解説	藏屋美香 (美術課長)	『名品選 東京国立近代美術館のコレク ションより』	H28.3.31
7	作品解説	鈴木勝雄 (主任研究員)	『名品選 東京国立近代美術館のコレク ションより』	H28.3.31
8	作品解説	鶴見香織 (主任研究員)	『名品選 東京国立近代美術館のコレク ションより』	H28.3.31
9	作品解説	保坂健二郎 (主任研究員)	『名品選 東京国立近代美術館のコレク ションより』	H28.3.31
10	作品解説	榊田倫広 (研究員)	『名品選 東京国立近代美術館のコレク ションより』	H28.3.31

(工芸館)

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	書籍名	発行年月日
1	作品解説	今井陽子 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
2	作品解説	唐澤昌宏 (工芸課長)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
3	作品解説	北村仁美 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29

イ 京都国立近代美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	書籍名	発行年月日
1	作品解説	池田祐子 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
2	作品解説	小倉実子 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
3	作品解説	中尾優衣 (研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
4	作品解説	平井章一 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
5	作品解説	平井啓修 (研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
6	作品解説	松原龍一 (学芸課長)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29

ウ 国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	書籍名	発行年月日
1	作品解説	川瀬佑介 (研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29

2	作品解説	陳岡めぐみ (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
3	作品解説	袴田紘代 (研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
4	作品解説	村上博哉 (副館長)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
5	作品解説	渡邊晋輔 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29

## エ 国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	書籍名	発行年月日
1	作品解説	植松由佳 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
2	作品解説	中井康之 (学芸課長)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
3	作品解説	中西博之 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
4	作品解説	橋本梓 (主任研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
5	作品解説	福元崇志 (任期付研究員)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29
6	作品解説	山梨俊夫 (館長)	『国立美術館 新しいコレクション 2010-2015』	H28.2.29

## (6) 快適な観覧環境の提供

### ① 高齢者，身体障害者，外国人等への対応

〈平成 27 年度の新規実施事項〉

- ・館内の緊急放送をバイリンガル化（日本語・英語対応）（東京国立近代美術館（本館））
- ・地下鉄の対象の乗車券を提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加（東京国立近代美術館（本館・工芸館），国立西洋美術館）
- ・美術館ホームページのリニューアル（東京国立近代美術館，国立新美術館）
- ・平成 26 年度に試験運用を開始した無料 Wi-Fi の実運用開始及び利用スペースの拡大（国立新美術館）

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・多目的（身体障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレータ），スロープ（手摺り）の設置
- ・車椅子，ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・所蔵作品展（常設展），企画展（一部を除く）において作品リスト（日・英）の配布
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）用の設備を設置



- ・キャプションに英語表記を併記
- ・英語版ホームページの公開

#### 〈各館ごとの継続実施事項〉

- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引（東京国立近代美術館，国立西洋美術館）
- ・所蔵作品展「MOMATコレクション」英語版音声ガイドを導入（東京国立近代美術館（本館））
- ・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置（京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館）
- ・授乳室（1階）の設置（京都国立近代美術館）
- ・授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し，幼児向け絵本を常設（国立国際美術館）
- ・授乳室（地下1階）の設置，点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内他）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機10台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施，文字を大きくし，見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布，並びに最寄駅方面への分かりやすい案内表示板2枚設置（国立新美術館）

## ② 展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

#### 〈平成 27 年度の新規実施事項〉

- ・デジタルサイネージの設置（京都国立近代美術館）
- ・免震装置付有機 EL 照明による展示ケースの設置（京都国立近代美術館）
- ・「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」及び「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」の鑑賞ガイドブック並びに施設ガイド『てくてくマップ』をホームページにおいて公開（国立新美術館）

#### 〈各館共通の継続実施事項〉

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

#### 〈各館ごとの継続実施事項〉

- ・館内サインの拡大・多言語化，所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加，ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置，所蔵作品展における英語版音声ガイドの貸出（東京国立近代美術館（本館））
- ・作品名称にふりがなを入れた会場キャプションの設置と出品リストの配布（東京国立近代美術館（工芸館））
- ・常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において，児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布（東京国立近代美術館フィルムセンター）
- ・美術館ニュース『見る』の配布，共催展における児童生徒向けガイドの配布（京都国立近代美術館）
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布，本館の建築探検マップ（日・英・仏・韓・中国語版）や館広報（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載，常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod Touch・Android 携帯端末専用アプリ「Touch the Museum」の無料配信の検討（平成 28 年度実施予定）。

このほか、企画展の解説パネルを、見やすいよう拡大文字の冊子に加工し展示室内に配置（国立西洋美術館）

- ・作品紹介キャプションにおける見やすさの追求（国立国際美術館）
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」、「マグリット展」、「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」、「ニキ・ド・サンファル展」、「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」における鑑賞ガイドの配付及び子ども向け施設ガイド『てくてくマップ』の改訂と配布（国立新美術館）

### ③ 入場料金、開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日、国立新美術館を除く）の所蔵作品展（常設展）の観覧料を無料にした。また、引き続き夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。さらに、所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び18歳未満の観覧料の無料化についての周知に努めた。

その他、平成27年度の各館の取組は以下のとおりである。

#### ア 東京国立近代美術館

- ・国際博物館の日のイベントとして、5月17日に所蔵作品展の無料観覧を実施（本館・工芸館）
- ・第一日曜日の所蔵作品展の無料観覧を実施（本館・工芸館）
- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及びPASMO等）による観覧券の窓口販売（本館・工芸館）
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子どもを連れた家族に所蔵作品展の割引を実施
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施（本館・工芸館）
- ・「東京マラソン2016」イベントガイド持参者についての、所蔵作品展・特別展の観覧料（個人一般）割引を実施（本館・工芸館）
- ・JAF 会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施（本館・工芸館）
- ・年始は1月2日から開館し（本館所蔵作品展は無料観覧を実施）、図録やオリジナルグッズをプレゼント（本館・工芸館）
- ・共催展においてペア観覧券等による観覧料割引を実施（本館）
- ・「Re: play 1972/2015—「映像表現 '72」展、再演」において、使用済入場券の提示で2回目は特別料金で観覧可能とするリピーター割引を実施（本館）
- ・桜花期における休館日について、臨時開館を実施（工芸館：4月6日）
- ・共催展「安田靉彦展」と東京国立博物館開催の「黒田清輝展」において、半券提示による相互割引を実施（本館）

#### イ 京都国立近代美術館

- ・国際博物館の日のイベントとして、5月17日にグッズを進呈
- ・企画展を開催しない土曜日について、所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・「関西文化の日」にちなみ、所蔵作品展の無料観覧を実施（11月14日、15日）
- ・京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市美術館、細見美術館と連携し、相互割引を実施
- ・JAF 会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、京都新聞 トマト倶楽部、神戸新聞 ミントクラブ、神姫バス ニコパクラブ、山陽新聞 さん太クラブ、中国新聞 ちゅーピーくらぶ、阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施

#### ウ 国立西洋美術館

- ・国際博物館の日のイベントとして、5月18日及び5月19日の常設展の無料観覧を実施
- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売
- ・春の企画展開催日から秋の企画展閉会日まで開館時間を30分延長し、年間を通じて開館時間を30分延長し、午後5時30分まで開館
- ・第二・第四土曜日の常設展の無料観覧を実施
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎月第三土曜、日曜に優待券の提示による常設展の無料観覧を実施
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施
- ・教育普及プログラム「ファン・デー」の開催に伴い、常設展の無料観覧を実施（6月13日、14日）
- ・上野公園での「創エネ・あかりパーク 2015」に参加し、臨時開館を実施（11月2日）
- ・桜花期における休館日について、臨時開館を実施（3月28日）
- ・上野地区内の文化施設相互の連携を深め、商業施設を含めた同地区内の回遊性を高めるため、上野観光連盟の協力のもと JR 東日本東北縦貫線（上野東京ライン）開業記念として、国立西洋美術館、東京国立博物館、国立科学博物館の常設展が観覧できる「上野東京ライン開業記念 上野国立3館共通入場券（UENO WELCOME PASSPORT）」を発行（平成27年3月14日～5月31日。総販売部数6,217冊（うち国立西洋美術館販売部数1,908冊））
- ・上野国立3館共通入場券の販売及び利用状況等を分析し、参加館をさらに増やし、使用期間をより長くするなどさらに利便性を高めた「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」を発行（平成28年1月2日～5月31日）。常設展観覧対応に加え、企画展割引も適用（本入場券は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、上野「文化の杜」を国際文化交流の拠点として整備するため、上野地区内の文化施設の相互連携により、商業施設も含めた観光客の誘致と回遊性の向上を図ることを開発の目的としている）。

#### エ 国立国際美術館

- ・国際博物館の日のイベントとして、5月17日にグッズを進呈
- ・毎月第一土曜日に、所蔵作品展の無料観覧を実施
- ・開館期間中の金曜日に、午後7時まで延長開館を実施
- ・関西文化の日に、所蔵作品展の無料観覧を実施（11月14日、15日）
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会、阪急阪神カード、京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルと連携し、ホテル利用者のうち、希望者に入場割引券を配布し、展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施
- ・国立国際美術館開催の展覧会の半券持参等により、提携ホテルで特典が受けられるよう近隣ホテルとの連携を強化
- ・近隣提携ホテルでの国立国際美術館観覧券付き宿泊プランの実施
- ・近隣の映画館と提携し、美術館関連映画作品と国立国際美術館の展覧会（「高松次郎 制作の軌跡」）の半券提示により双方での観覧料割引を実施
- ・「大英博物館展」との早割セット券（2枚2,000円）の販売、「王妃割引」、大阪市立科学館との相互割引、NHK ネットクラブクーポン割引、フリーカード割引、ナイトミュージアム DVD 封入チラシ割引、ジュニアガイド割引、あさひゆめほっとクーポン割引、関西秋 Walker2015 クーポン割引を実施（「クレオパトラとエジプトの王妃展」）

#### オ 国立新美術館

- ・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売
- ・共催展において、高校生無料観覧日の設定を推進（「はじまり、美の饗宴展 すばらしき大原美術館コレクション」（1月22日～1月24日、計3日間）、「ニキ・ド・サンファル展」（10月10日～10月12日、計3日間））
- ・「平成27年度〔第19回〕文化庁メディア芸術祭」の無料観覧を実施
- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引を実施
- ・共催展において、ペア観覧券等による観覧料割引を実施
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施（特に自主企画展において、65歳以上の割引料金として大学生団体料金を適用し、高齢者の観覧料を低廉化）
- ・共催展において、政府による美術品補償制度の還元策として、高校生の無料観覧を実施（「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」（3月18日～4月6日、計18日間）、「マグリット展」（3月25日～4月13日、計18日間））
- ・休館日に臨時開館を実施（5月7日、5月26日、9月24日）
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」及び「マグリット展」開催時、「六本木アートナイト」（平成27年4月25日（土）～26日（日））の開催に伴い、4月25日（土）の開館時間を午後10時まで延長
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため、自主企画展において同大学の学生の観覧料の無料化及び学生証の提示による入場料の弾力化を実施
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」及び「マグリット展」において、毎週金曜日の夜間開館に加え、会場内の混雑緩和を図るため、会期中の土曜日及び日曜日である5月23日（土）、24日（日）、30日（土）、31日（日）に夜間開館を実施し、開館時間を午後8時まで延長
- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」において、三菱一号館美術館開催の「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」と観覧料の相互割引を実施
- ・「マグリット展」において、国立西洋美術館開催の「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」、国立科学博物館開催の「大アマゾン展」及び三菱一号館美術館開催の「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」と観覧料の相互割引を実施

#### ④ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、引き続き特設サイト（パソコン版、モバイル版）において各館の展覧会情報を提供するとともに、サイトを周知するためのポスター及びチラシを加入校に配布するなど利用促進に努めた。また、キャンパスメンバーズ案内や学生向けポスターデザインを刷新した。平成27年度の実績としては、メンバー校は82校、利用者数は全館合計で77,532名であった。

#### ⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。また、レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。その他、平成27年度の各館の取組は以下のとおりである。

#### ア 東京国立近代美術館

〈ミュージアムショップ〉

- ・本館では、「サマーフェス」イベントでワンコインセールを実施

- ・工芸館では、所蔵作品展「1920～2010年代 所蔵工芸品に見る 未来へつづく美生活展」において、会場の一部をコレボレーションした2名の外部デザイナーのブランド「play mountain」「ミナ ペルホネン」の商品をミュージアムショップで販売。また、「芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション」では、芹沢銈介デザインによる絵はがきセット2種（株式会社印象社）を販売

〈レストラン〉

- ・「No Museum, No Life?—これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」, 「MOMAT コレクション 特集：藤田嗣治, 全所蔵作品展示。」等の企画展・所蔵作品展にちなんだ特別メニューを提供し、総合割引企画を実施。また、カード会社と連携し、所蔵作品展観覧券とレストラン食事券を合わせた企画や、講堂貸出の音楽会とコラボレーション企画を実施
- ・スポットで「MOMAT サマーフェス」や「美術館の春まつり」など館内イベントに合わせた手軽なメニューの提供、会員制度入会キャンペーンとのコラボレーションによる特別ランチ券の提供、テラス営業の開始、安価で利用しやすい営業時間帯の増設等、新たな取組を複数実施

#### イ 京都国立近代美術館

〈ミュージアムショップ〉

- ・「琳派400年記念 「琳派イメージ」展」において、カフェド505との協働により展覧会オリジナルスイーツを企画・製造し、会期中に限定販売を実施
- ・「文化勲章受章記念 志村ふくみ—母衣への回帰—」において、オリジナルポストカードと一筆箋を制作、販売

〈レストラン〉

- ・企画展に合わせた期間限定テーマメニューを実施。特に「琳派400年記念 「琳派イメージ」展」において展覧会に合わせたオリジナルのお菓子を企画・販売
- ・周辺ライトアップイベントへの協力やワークショップ（苔玉作り）を実施
- ・食材については京都の市場から仕入れを行い、積極的な地産地消を実施

#### ウ 国立西洋美術館

〈ミュージアムショップ〉

- ・各企画展に関連した書籍コーナーの充実

〈レストラン〉

- ・館内のレストランにおいて企画展ごとに関連したメニューを開発、提供
- ・美術館の前庭《地獄の門》（1880-90年頃/1917年（原型）、1930-33年（铸造））周辺において企画展に合わせた期間限定オープンカフェを共催者、企業の協力のもと開催。「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」に合わせたCAFFÈ GUERCINOでは、イタリアワイン、エスプレッソなどの飲み物やカルツォーネ等の軽食を提供、「ボルドー展 —美と陶酔の都へ—」に合わせたcafé Bordeauxでは、ボルドーワインの他、展覧会に合わせたオリジナルカクテルをはじめ、アイスクリームやソルベ等を提供
- ・上野公園内の文化施設等を中心としたイベント「上野文化の杜アーツフェスタ・2016春」において、「日伊国交樹立150周年記念 カラヴァッジョ展」に合わせたCAFFÈ CARAVAGGIOを開催し、カラヴァッジョ由来の地マルタ島から初輸入のワインやマルタ島の食材等を使用したサンドやスープなどの軽食を提供

エ 国立国際美術館

〈ミュージアムショップ〉

- ・来館者のニーズに合わせ、所蔵作品の絵葉書、レターセットや、美術館のロゴ入りマグカップ、Tシャツ、キーホルダー等、オリジナルグッズの充実のほか、企画展に合わせて、出展作家に関連した書籍、DVD等を販売

〈レストラン〉

- ・「クレオパトラとエジプトの王妃展」に合わせて特別メニューを企画し、同展観覧券提示により割引料金で提供

オ 国立新美術館

〈ミュージアムショップ〉

- ・来館者サービスの充実のため、平成26年2月より、地下1階に加えて1階にもミュージアムショップを設置。1階のショップでは企画展ごとに特設コーナーを設けるなど、開催中の展覧会に即応した商品展開を行い、地下1階のショップでは関連書籍の紹介や季節に合わせた催事に力を入れている。

- ・美術館の建築やロゴのデザインを採用したオリジナルグッズの製作を継続的に実施

〈レストラン〉

- ・展覧会にちなんだ特別メニューの企画・提供

## 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

### (1) 美術作品の収集

館名		購入点数	購入金額(円)	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数
東京国立近代美術館	本館	214	367,787,800	118	12,946	222
	工芸館	14	203,840,592	218	3,682	79
京都国立近代美術館		381	638,621,220	196	12,118	846
国立西洋美術館		64	982,492,026	145	5,758	318
国立国際美術館		228	1,119,411,688	144	7,566	102
計		<b>901</b>	<b>3,312,153,326</b>	<b>821</b>	<b>42,070</b>	<b>1,567</b>

### ● 映画フィルム

館名		購入本数	購入金額(円)	寄贈本数	年度末所蔵本数	年度末寄託本数
東京国立近代美術館	フィルムセンター	<b>239</b>	<b>262,949,546</b>	<b>1,951</b>	<b>78,132</b>	<b>8,018</b>

### ア 平成27年度の収集方針

館名	平成27年度の収集方針
東京国立近代美術館	本館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1970年代以降の日本と海外の作品の収集</li> <li>・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集</li> <li>・1900-1940年代の日本画作品の収集</li> </ul>
	工芸館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本工芸の近代化を示す作品の補充</li> <li>・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集</li> <li>・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集</li> </ul>
京都国立近代美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集</li> <li>・優れた写真作品の収集</li> <li>・前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集</li> <li>・京都を中心とする関西ないし西日本の地域性に立脚した所蔵作品の充実</li> </ul>
国立西洋美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15～20世紀ヨーロッパ絵画の収集</li> <li>・ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心としたヨーロッパ版画のコレクションの充実</li> <li>・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集の継続</li> </ul>
国立国際美術館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続</li> <li>・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続</li> </ul>

館名	平成27年度の収集方針
東京国立近代美術館	フィルムセンター <p>映画を、芸術作品、文化遺産、歴史資料として網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集等優先順位を設けながら、以下の点に留意して収集。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」と連動し、フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材、デジタル映画から複製された保存用素材、上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。</li> <li>・映画の撮影及び現像の際に利用されたデジタル・データの保存に向けて、適切な素材となるフィルムの収集を行う。</li> <li>・日本と関わりのある外国映画の収集を行うとともに、外国との合作による作品、海外でロケをした作品等の充実を図る。</li> <li>・初期トーキー、初期カラーの試みを反映した作品の収集と復元を行う。</li> <li>・70mmフィルム等大型映画の適切な保存・復元に向けて着手する。</li> </ul>

## イ 平成 27 年度の特記事項

### (ア) 東京国立近代美術館

#### (本館)

##### 〈購入〉

特別購入予算によるものとして、国内にあった世界的な写真家、ロバート・フランクの作品 145 点を収蔵し、海外流出を防いだ。また、早世した洋画家、松本竣介の代表作 2 点を含む 11 点をまとめて収蔵した。通常予算では、これまで欠けていた 1960-70 年代の重要作家、赤瀬川原平の作品一式 16 点を収蔵した。また、今後拡充すべきアジア圏の作品として、マレーシアの若手アーティストであるシュシ・スライマンの作品 7 点（寄贈 2 点を含む）を収蔵した。

##### 〈受贈〉

個人所蔵家より、横山大観、速水御舟、菱田春草等の日本画 16 点を受贈した。また 2005 年に早世し、近年世界的に評価の高い石田徹也の作品 2 点の寄贈を受けた。

#### (工芸館)

##### 〈購入〉

通常予算により、明治時代の金工界を代表する香川勝広の《銀製置物 蓑亀之彫刻》(1908 年) や、民藝の浜田庄司が英国で制作した草創期の大鉢作品、人間国宝の喜多川俵二の染織作品、現代作家の久世建二の陶磁作品や田中信行の漆工作品など、多様な収蔵ができた。また、特別購入予算により、平成 26 年度に引き続きマルセル・ブロイヤーの重要なパイプ家具 3 点や、オットー・リンディッヒの陶磁水差、グンタ・シュテルツルの染織壁掛け等のパウハウスの関連作品を購入したことで、国外の工芸及びデザイン・コレクションの充実が図れた。

##### 〈受贈〉

伝統工芸の岡部嶺男や中島宏の陶磁、根本曠子の漆工、日展の藤平伸や青木龍山、栗木達介の陶磁、宇賀神米蔵の金工、オブジェの鈴木治や山田光らの陶磁など、戦後の工芸を代表する各分野の作品を受贈した。また、大正から昭和前半期の金工界を代表する海野清の貴重な作品 11 点、近代の重要な染織作家 芹沢銈介の着物やのれん等の工芸作品、素描やガラス絵、型染本や画帖、デザイン作品等を含む膨大なコレクションを一括して受け入れた。

#### (フィルムセンター)

##### 〈購入〉

上映企画に合わせ、『旗本退屈男捕物控 毒殺魔殿』（松田定次監督、1950 年）等東映製作の時代劇映画 17 作品 30 本、『総会屋錦城 勝負師とその娘』（島耕二監督、1959 年）等志村喬主演作品 2 作品 5 本の収集を行った。また、日活株式会社より、『金門島にかける橋』（松尾昭典監督、1962 年）等、海外との合作作品及び海外ロケ作品 11 作品 12 本のフィルムを購入した。

映画関連資料については、新刊の映画関連図書の購入を行っているほか、古書店との連携を密にして情報を収集し、未収蔵の古書や映画資料の購入を進めている。27 年度は展覧会の開催を見越してキューバの映画ポスター 4 点も購入した。

##### 〈受贈〉

平成 26 年度に比べ、映画フィルムの寄贈受入本数は 1,951 本と減少したが、受入件数は 46 件と増加した。平成 27 年度の特徴はまず、埼玉県県民生活部より日本テレビ用映画のプリント等 1,301 本、板橋区政策経営部より日本文化・記録映画、ニュース映画の原版類 209 本と、行政機関からの大量寄贈を受け入れたことである。また、アスミック・エースから寄贈を受けた『舞姫 Die Tänzerin』（篠田正浩監督、1989 年）等 71 本を初め、『スワノセ・第四世界 Su-wa-no-se, the fourth world』（上野圭一監督、1976 年）、『風の国』（戸井十月監督、1990 年）、『ここに生きる』（望月優子監督、1962 年）、『狂熱の果て』（山



際永三監督、1961年)等、ユニークな日本インディペンデント映画の原版類を受贈することができた。

映画関連資料については、日本放送協会放送技術局制作技術センターより撮影機材14式のほか、画書の翻訳家として知られる宮本高晴氏より外国図書128点、栗津ケン氏よりデザイナー栗津潔の制作した映画ポスターなど33点、株式会社IMAGICAより万能投影機1点の寄贈を受けた。また、俳優志村喬旧蔵の書簡類など、日本映画を担った映画人の資料を受け入れた。

#### (イ) 京都国立近代美術館

##### 〈購入〉

特別購入予算により、《黒絵長壺》(1951-1952年)を含む33点の鈴木治作品、302件355点に及ぶウィーン世紀末のグラフィックコレクション、番浦省吾《秋之夜蒔絵棚》(1930年)、《海と山と空蒔絵衝立》(1931年)を収集した。これは、コレクションの重要性と海外流失の恐れがあったところを緊急に対応し流出を防いだという意味で大きな成果であった。また、長らく行方知らずで、80年ぶりに世に出てきた福田平八郎の《緋鯉》(1930年)を収蔵することができた。このほか、平成25年度に開催した特別展「映画をめぐる美術——マルセル・ブロータースから始める」の出品作家であるマルセル・ブロータースの貴重なスライド作品を収集した。

##### 〈受贈〉

これまで収蔵していなかった人間国宝の古賀フミの佐賀錦の作品を受贈した。これは、今後伝統工芸や染織の企画展示やコレクションギャラリーで活用できる重要な収集であった。

#### (ウ) 国立西洋美術館

##### 〈購入〉

特別購入予算による、17世紀初頭のカラヴァッジョ派を代表するバルトロメオ・マンフレディ、イタリア17世紀静物画の最重要作家エヴァリスト・バスケニス、18世紀新古典主義の女性画家アンゲリカ・カウフマンの作品の購入により、オールド・マスター絵画コレクションの厚みが増すことになった。また、近代絵画では、レオン・ボナ、ジャン=ポール・ローランス、ラファエル・コランの作品群の一括購入により、これまで手薄であった19世紀フランス・アカデミスム絵画の領域を補うことができた。

##### 〈受贈〉

西洋中世彩飾写本のコレクターから、13~16世紀の一枚物の写本葉コレクション140点の一括寄贈を受けた。西洋中世のモニュメンタルな絵画や彫刻作品を収蔵することは今日では非常に困難であるため、写本挿画というメディアを通じて中世美術の特色と魅力を伝えることのできる当コレクションの収蔵の意義は大きい。

#### (エ) 国立国際美術館

##### 〈購入〉

特筆すべきは、特別購入予算によるニコラ・ド・スタール《アグリジェントの丘》(1954年)、ゲルハルト・リヒター《STRIP (926-6)》(2012年)、ファウスト・メロッティ《若木》(1965年)の購入である。いずれも戦後美術史上極めて重要な作家であり、同時代美術への影響に鑑みても今回の作品収集は大きな成果であった。また、フィオナ・タン《インヴェントリー》(2012年)、アンリ・サラ《アンサー・ミー》(2008年)といった映像の購入によって、近年収集に努めてきた映像分野の作品をさらに充実させることができた。

##### 〈受贈〉

戦後日本における女性作家の中でも高い評価を得ている辰野登恵子の洋画、計5点を受贈した。平成26年、作家急逝後に遺族より寄贈の申し出があり、入念な調査に基づいて全面

業の中でも代表作を選択して受け入れた。また、日本とフランス両国で活躍した木村忠太の洋画 5 点と関連する素描 20 点を受贈した。他に、郭徳俊が 1960 年代に描いた水彩・素描作品 56 点を受贈するなど、特に国内の前衛美術に関するコレクションの充実が図られた。

## (2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

### ① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

#### ア 東京国立近代美術館

本館では、現在、新・旧二つの収蔵庫ともに収蔵率は約140%となっている。従来どおり、館外の倉庫3ヶ所に作品の一部を預けること、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展展示により作品を庫外に出すことで最低限のやりくりを成り立たせているが、これをもってしてもすでに新規収蔵作品の適切な保管場所を確保することができなくなっており、そのため大型作品の収蔵がきわめて困難となっている。毎年のように棚の設置や整理等を行ってきたが、抜本的な対策なしには解決は難しい状況である。

工芸館の収蔵庫 4 室の狭隘化は進行し、限界に達していると思われる。陶磁収蔵庫では、アール・デコの家具の木枠ケースや大型作品によって相当の床面を占有しているが、その上に作品を積み重ねている状態である。近年収蔵の棚に収まらない大きさの作品が棚間通路の床面を埋めつくしつつある状態である。染織と金工の収蔵庫も同様である。漆芸の収蔵庫は、入口 1 階の小スペースを展覧会準備用、2 階展示中の作品空箱保管用としてかろうじて確保しているが、大型新収蔵作品により満杯の状態が続いている。作品の一時保管及び資料や図録（保管・販売）の保管庫として活用している荷解き室は、保存資料及び販売用の一部の図録を外部倉庫に移したことにより一時的に若干の改善がみられたが、いっばいの状態に変わりはない。なおグラフィック・デザインはフィルムセンター内収蔵庫に保管しているが、平成 27 年度に分類変更で雑誌表装や装丁、図案集、ポスター等 283 点の新収蔵が加わり、狭隘化への対応を検討している。

フィルムセンターでは、映画フィルムについては、現在相模原分館映画保存棟Ⅰにおいて所蔵フィルム及び寄託フィルムを、映画保存棟Ⅱにおいて所蔵フィルムの保管を行っているが、今後予想される寄託フィルム数の増加を見越し、平成 27 年度は映画保存棟Ⅰの一室に格納していた映画フィルムを、すべて映画保存棟Ⅱに移動させた。平成 26 年度 7 月より稼働可能となった映画保存棟Ⅲにおいて、重要文化財指定フィルム 4 本を保管しているが、今後本棟へ保管すべきフィルムを選別するため、平成 27 年度より全巻検査の業者委託を開始した。

映画関連資料については、現在ノンフィルム資料のうち紙素材の資料は 4 階図書室と地下 3 階収蔵庫にて保管されているが、収蔵能力が限界に達しつつあるため、複本となった雑誌やプレスなどは相模原分館の新収蔵庫への部分的移転を行っている。また映画人・映画会社の旧蔵品である未整理の新規寄贈資料も、同様に相模原分館への搬入を行っている。

#### イ 京都国立近代美術館

収蔵庫は収蔵率約 200%となっている。収納できない作品については、民間業者の倉庫を借り、一時的に保管している。

#### ウ 国立西洋美術館

新館第二収蔵庫の一部壁面に変化が見られたため、科学的調査を行い、今後の対応を検討している。また、多くの寄託作品を収蔵したため、収蔵庫への保管前に劣化要因を極力除去するための保存処置を徹底した。さらに、常時実施している館全域での文化財害虫のモニタリング以外に、文化財虫菌害専門業者による専門的な調査を実施し、侵入経路等を明確化したうえで、施設専門職員の協力を得て、侵入経路となるドア下にブラシを取り付けるなど虫害防止対策を施した。

## エ 国立国際美術館

既に収納率が実質 100%以上となっているが、積み重ねることができる作品をまとめて収納する、ラックの隙間を可能な限り小さくする等、適切な保存環境を維持するよう努めた。引き続き、新たな収納ケースの整備、作品梱包の工夫、汚損した額縁の廃棄等を行い、適切な保存環境の整備について検討する。

### ② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

東京国立近代美術館本館では、平成 27 年 10 月 22 日に、火災発生を想定し避難訓練を行った。工芸館では、平成 28 年 3 月 17 日に、地震を想定した避難訓練を実施した。フィルムセンターでは、平成 27 年 9 月 3 日に、地下 3 階収蔵庫での作業者のため、収蔵庫での作業を前提とした消防訓練を行った。また、平成 28 年 3 月 23 日に、フィルムセンターの管理・運營業務の委託業務に関して、消防訓練を行った。フィルムセンター相模原分館では、平成 27 年 5 月 26 日と平成 27 年 12 月 2 日に、消防訓練を行った。京都国立近代美術館では、平成 28 年 1 月 22 日に自衛消防訓練を実施した。国立西洋美術館では、保存修復室内外の整理整頓を進め、災害時の経路確保や作品の安全な安置場所を常に確保するよう努めた。また、経年劣化による不具合が見られたエレベータについて、機器やワイヤー等の交換工事を行い、事故の予防を図った。加えて、経年劣化の見られる避難誘導表示灯について、LED 化を行った。国立国際美術館では、平成 27 年 6 月 4 日に大阪市立科学館と合同で、ミュージアムショップやレストランの職員、看視スタッフも交え、地震発生時の津波を想定した津波避難訓練を実施した。国立新美術館では、平成 27 年 9 月 8 日に初期消火訓練、避難誘導訓練等を、平成 28 年 3 月 22 日に、初期消火訓練、避難誘導訓練、帰宅困難者対応訓練を行った。

### (3) 所蔵作品の修理・修復

#### ア 東京国立近代美術館

絵画 24 点、素描 42 点、彫刻 1 点、写真 13 点、資料・その他 4 点、工芸 2 点、デザイン 2 点、映画フィルムデジタル復元 19 本、ノイズリダクション等 23 本、不燃化作業 15 本  
(本館)

特別修復予算により、2013 年に収蔵した山田光春旧蔵瑛九関係作品及び資料 17 点の修復をまとめて行った。この成果は平成 28 年度の所蔵作品展「瑛九 1935-1937—闇の中で『リアル』をさがす」で公開予定である。

#### (工芸館)

文化庁管理替えの作品は相応の養生・修復を必要としているが、展示・貸与等の活用頻度の高い作品を主に継続的に修復を行っている。染織の芹沢銈介の作品で素材的なダメージが危惧された麻地の着物 1 点について、平成 26 年度から継続して、カビや生地の擦れや変色、洗い等の修復を実施した。平成 26 年度特別修復予算によって金工の鈴木長吉作《十二の鷹》(1893 年)の 12 羽のうち 2 羽につき現状保存修復を実施したが、平成 27 年度は残り 10 羽とそれらが止まる漆塗り架の修復を実施した。鷹作品はいずれも折れや錆があり、また架にも損傷が各所にあり経年による漆塗膜の劣化も激しかったが、その現状保存修復を行った。マルセル・ブロイヤーの《クラブ・チェア B3 (ワシリー)》(1927 年)、《サイドチェア B5》(1926-1927 年)の 2 点については、全体的なクリーニングと金属部分の錆止めを行った。

#### (フィルムセンター)

映画フィルムのデジタル復元については、日本における長篇文化・記録映画の嚆矢となった『日本南極探検』(田泉保直撮影、1912 年)における可燃性染調色フィルムからの復元、二原色によるカラー方式を用いた現存する最古の作品『千人針』(三枝源次郎監督、1937

年)における、同方式及び色彩再現に関する綿密な調査研究に基づく復元が特筆される。また、明治期の剣術指南の模様を撮影した『サムライ学校』（フランス、パテ・フレール社製作、1910年）については、製作会社パテ社による彩色技術「ステンシルカラー」をデジタル上で再現し、修復データから35mmフィルム及びデジタルシネマ用DCPを作成した。寺山修司による実験映画で、フィルムとビデオを合成させた初期作品の一つ『父』（1977年）については、唯一残存する過度に褪色した16mmプリントから、ハイビジョンレベルでの色補正を行った。新たな音ネガの作成に際しては、必ずノイズリダクションによる音声のデジタル修復を施している。また、寄贈された可燃性フィルムについては、随時上映等の運用を見据えながら、不燃化作業を行っている。所蔵映画フィルムからの不燃化・複製化では、『日本南極探検』（田泉保直撮影、1912年）及び『千人針』（三枝源次郎監督、1937年）のデジタル復元が特筆される。

映画関連資料については、劣化・損傷の恐れがあるシナリオ等冊子に対して中性紙の保存ケースを制作して長期保存を図っている。また公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターを中心に和紙を用いた簡易修復、酸性紙が劣化したプレス資料に対する脱酸化作業、接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなど紙資料の保存のための措置を講じている。

#### イ 京都国立近代美術館

絵画 8点、素描 9点、資料・その他 29点

受贈後、まくりのままになっており、保存状態の悪化が心配されていた千種掃雲の作品群及び岡本神草の素描群を特別修復予算によって修理、表具し、展示できる状態にした。後者は、2年後に予定している岡本神草展での使用が可能となった。同じく特別修復予算では、状態が悪くなっていた甲斐庄楠音《畜生塚》（1915年頃）と須田国太郎の作品群を解体・修理・再表具することにより、今後良い状態で展示できるようになった。通常の修復予算では、他館への貸出を前にマティス《鏡の前の青いドレス》（1937年）、モンドリアン《コンポジション》（1929年）等の洋画作品の額のアクリル板を、低反射のものに交換し、鑑賞環境の向上を図った。

#### ウ 国立西洋美術館

絵画 17点、素描 22点、版画 22点、彫刻 4点、工芸 151点

特別修復予算により、貸出予定作品や新規購入作品を中心に所蔵作品や額縁の修復を進める一方、屋外設置の大型彫刻《地獄の門》（1880-90年頃/1917年（原型）、1930-33年（铸造））の洗浄・修復をおこなうとともに、昨年に引き続き、展示不可能な状態で収蔵されていたピストルフィの一連の大型彫刻の調査・洗浄・修復を実施した。版画・素描においても、継続的に既存作品の保存修復作業を行うと同時に、新集作品の保存作業を実施している。

また、平成24年度に寄贈を受けた橋本コレクションのうち、処置を要する指輪151点の修復を行い、緊急を要する作業は終了した。

なお、特定有期雇用職員として、新たに保存修復の専任研究員1名を配置した。

#### エ 国立国際美術館

絵画 4点、素描 8点、版画 1点、彫刻 10点、写真 6点

紙を支持体にした作品（素描や写真など）の状態の確認と修復、そしてそれらの専用の額の整備を多数行った。また、小林孝亘《House Dog》（1995年）等、大きな絵画作品の清掃並びに裏板の取付け等を特別修復予算で行った。

#### オ 国立新美術館

書籍 1 点、資料・その他 900 点

山岸信郎氏旧蔵資料に含まれる粘着アルバム約 20 点に関し、寄贈前に水濡れ被害に遭ったと考えられる損傷（写真の画像の消失、カビ、乳剤の流出等）が認められた。これらのアルバムには 60 年代～70 年代美術に関する重要な記録写真が含まれるため、劣化を食い止めるだけ現状保存するべく、現状の記録写真を撮影した後に、アルバムに貼付されていた写真の他、DM、チラシ等のエフェメラ類を剥離し、中性紙フォルダに封入し、中性紙箱に収納する処置を行った（中性紙箱にはガス吸着紙を設置し、定期的に交換する）。

また、1960 年代～70 年代の写真資料のうち、ネガフィルム、ポジフィルムとして残された資料は、ビネガー・シンドロームの危機に陥っている場合が少なくない。それらの資料の劣化（酸化）を止めるため、防爆冷蔵庫を導入した。

#### （4）美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は、以下のとおりである。

##### ア 東京国立近代美術館

（本館）

###### （ア）所蔵作品等に関する調査研究

所蔵作品展では、平成 24 年度のリニューアル以来、テーマ性の高い特集形式の展示を実施しており、この際各研究員の研究成果の展示への素早い反映を心がけている。平成 27 年度においては、「コレクションによる小企画：事物—1970 年代日本の写真と美術を考えるキーワード」で、これまで指摘されてこなかった 70 年代の写真動向と美術における「もの派」の関係を調査し、展示を行った。また、「MOMAT コレクション 特集：藤田嗣治、全所蔵作品展示。」では、戦争画 14 点を含む全 26 点と装丁書籍の大規模展示を企画し、特にこれまで研究されてこなかった戦争画における西洋絵画の影響を検証した。「MOMAT コレクション 特集：ちょっと建築目線でみた美術、編年体」では、コレクションに含まれない建築の戦後史について調査を行い、これと美術の流れを比較する展示を計画した。

###### （イ）保管・修理に関する調査研究

新方式のデジタルカメラを用い、外部の写真家とともに、絵画作品のデジタル画像撮影について実験を行った。その結果、肉眼では見えない色の塗り重ねが目視できるレベルの高精細画像を簡便に得ることに成功した。

###### （ウ）所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

研究員による所蔵品ガイドを 4 回、「てぶくろ | ろくぶて」「事物 1970 年代の日本の写真と美術を考えるキーワード」においてギャラリー・トークを各 2 回実施するなどした。また、「MOMAT コレクション 特集：藤田嗣治、全所蔵作品展示。」ではカタログを発行した。

（工芸館）

###### （ア）所蔵作品等に関する調査研究

所蔵作品展として 4 つの企画を開催し、同時開催の人間国宝・巨匠コーナーの展示に際しても作品の調査・研究を行った。また、所蔵作品巡回名品展を射水市新湊博物館と宮崎県立美術館で開催するにあたり、開催館の各学芸員と協働し作品調査・研究を行った。一括寄贈により新収蔵した芹沢銈介作品については、着物や屏風、額装の型絵染や素描、ガラス絵作品、カレンダー等の多岐にわたる形状のものが多数あり、企画展「芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション」開催に際して保管・修復に関する調査研究を行った。そのほか、作品貸与や熟覧等に際して、各専門家らとともに調査・研究を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

平成 25 年度から引き続き、作家及びその関係者や、漆工・人形等の目白漆芸研究所と染織の浅井エージェンシーの文化財修復専門家との連携を継続し、計画的に現状保存修復の調査・研究を行った。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

現状保存修復の実施は活用頻度の高いもの、あるいは緊急度の高いものから計画的に行った。完了した作品については展示や貸与等に有効に活用した。

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品等に関する調査研究

映画フィルムについては、上映事業、共催上映事業及び特別映写観覧や貸与に際して、使用されるプリントの検査を行うとともに、映写の必要に応じた補修、ないしは所蔵フィルムからの不燃化・複製化によるニュープリントの作成を行った。

映画関連資料については、常設展のトークイベントの開催と並行して、無声映画時代の活動写真弁士に関する音源資料の調査を行った。また、「NFC デジタル展示室」における第二次大戦前の日本の映画館写真の公開に伴って全国の映画館の歴史に関する調査、初期日活の映画スチルの公開に伴って該当作品に関する調査をそれぞれ行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

映画フィルムについては、『千人針』のデジタル復元において、二色式カラーの特徴を踏まえた色再現について調査研究を行った。『旗本退屈男捕物控 前編 七人の花嫁』（松田定次監督、1950 年）については、元素材となる 35 mm マスターポジが過度に劣化しており、一部をデジタルベータカムからフィルム・レコーディングによって作成したネガで補完することにより、全篇のデュープネガ及びプリント作成を実現させた。また、平成 16 年度にデジタル復元を行った『新・平家物語』（溝口健二監督、1955 年）について、保存用メディア及びファイル・フォーマットを変換することにより、デジタルシネマ用 DCP、保存用 LTO テープ等を作成した。

ノンフィルム資料については、カタログニングの深化に努め、寄贈者別に配置されていたプレス資料の現物レベルでの統合作業を継続している。

また、文化庁より「平成 26 年度文化芸術振興費補助金（美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業）」の交付を受けて開始した「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（略称：BDC プロジェクト）について、平成 27 年度も継続して同補助金の交付を受け、調査研究を実施した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

所蔵映画資料については常設展のギャラリートークや、「NFC デジタル展示室」に、映画関連資料の修理においては一部のシナリオ、プレス資料等、劣化した文献資料の修復に反映された。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品等に関する調査研究

平成 27 年度新たに収蔵した作品や寄託作品を含む所蔵作品・資料の調査研究は各担当で進めており、その成果は、コレクション展や企画展、美術館ニュース『視る』、研究紀要『CROSS SECTIONS』で公開している。

その中でも特に、展覧会の主題である上野リチ、写真、北大路魯山人、「琳派イメージ」を持つ工芸、日本画、洋画、版画作品の調査研究に取り組み、同時に平成 28 年度に向けて、パンリアル、戦後の抽象作品、前衛書、具体美術協会に関連する作品、当代樂吉左衛門等の調査研究に取り組んだ。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

館内には保存・修復の担当がおらず、機材等もないため、例年どおり、保存修復専門家と協働して修復すべき作品を調査し、そこで得た結果に基づき作品の修復を進めた。また、その際に提出された報告書のストックや、企画競争審査委員会で保存修復や作品研究に携わってきた委員から受けた意見の取りまとめを行うことで、今後の研究に資するものとした。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

所蔵する写真作品や、平成 18 年に大量受贈した上野リチのテキスタイル・デザインについての調査研究成果を、それぞれキュレトリアル・スタディズとしてコレクション展で発表し、写真作品の調査研究成果についてはシンポジウムも開催した。また、企画展では、特にユネスコ無形文化遺産登録された「和食」や琳派と関連のある作品を調査研究した成果として、「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」と「琳派 400 年記念 「琳派イメージ」展」において所蔵作品を多く展示・紹介した。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品等に関する調査研究

所蔵作品に関する調査研究として、平成 27 年度は以下のとおり取り組んだ。

- ・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究
- ・古代から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ・所蔵版画作品に関する調査研究
- ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究
- ・「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究

(イ) 保存・修復に関する調査研究

修復処置過程での紫外線、赤外線、X 線等の調査を実施し、絵画作品の状態及び制作過程を検証する調査を実施した。作品によっては周辺部の絵具層を分析し、その材質を明らかにした。こうした過程で、15 世紀から 19 世紀までのさまざまな作品の技法や保存状態を確認し、これまでの処置の歴史を再確認しながら貸し出しのための安全保存処置を実施した。作品におけるカビの生存調査を行い、適切な保存処理を検討した。貸出作品のクレートや額裏に温湿度を記録できるデータロガーを設置し、作品輸送時の温湿度変化を調査した。この結果をもとにクレートの仕様を検討・改良を継続している。

また、外部専門業者に依頼し、全館の文化財害虫調査を実施し、その結果を踏まえ、今後の害虫侵入防止策をとった。

さらに、作品ごとの状態調書の作成を進めつつ、作品ごとに、なされてきた処置、貸し出し履歴や過去の貸し出し時の温湿度記録などがすぐに把握できるよう、データベース化作業を継続中である。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

様々な技法の処置・調査によって作品の安全な貸出を実現すると同時に、こうした調査結果を展覧会の図録等に随時反映している。また、調査・処置後の作品は常設展示で随時公開し、よりよい鑑賞環境の提供及び安定した状態の作品展示へと還元している。併せて、館報や紀要による対外的な情報発信を積極的に進めている。

## エ 国立国際美術館

### (ア) 所蔵作品等に関する調査研究

「高松次郎 制作の軌跡」及び「ヴォルフガング・ティルマンズ Your Body is Yours」の開催に向けて、長年に亘り継続していた高松次郎、ヴォルフガング・ティルマンズの作品に関する調査研究が集大成を迎え、所蔵する高松次郎作品、ヴォルフガング・ティルマンズ作品の調査研究を重点的に行う一方、その他の所蔵作品についても引き続き調査研究を行った。

### (イ) 保管・修理に関する調査研究

保管・修理に関する調査研究に関して、以下の調査を行った。

- ・タイム・ベースド・メディア作品の収集・保存・修復に関する調査

日時：平成 27 年 10 月 13 日～10 月 16 日

場所：Center for Art and Media (ZKM) in Karlsruhe (植松主任研究員のみ)  
TATE Modern, TATE 収蔵庫

また、以下のシンポジウムで主任研究員が発表した。

- ・文化庁平成 27 年度メディア芸術連携促進事業 タイムベースド・メディアを用いた美術作品の修復／保存に関するモデル事業 「過去の現在の未来 アーティスト、学芸員、研究者が考える現代美術の保存と修復」シンポジウム

日時：平成 27 年 12 月 5 日

場所：国立国際美術館

タイトル：「国立国際美術館におけるタイム・ベースド・メディアの保存修復 ケーススタディ 高谷史郎《optical flat / fiber optic type》」

### (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

タイム・ベースド・メディアの保存修復に関する調査の成果をもとに、作家及び専門家の協力を得て、所蔵作品である高谷史郎《optical flat / fiber optic type》(2000 年)の修復を実施した。修復後は平成 27 年 10 月開催の「コレクション 1」にて展示公開した。また、その他の所蔵作品についても『国立国際美術館ニュース』紙上において、定期的に解説を行っている。

## オ 国立新美術館

### (ア) 所蔵作品等に関する調査研究

稲憲一郎氏寄贈「精神生理学研究所」関係資料、山岸信郎氏旧蔵資料、柳亮氏旧蔵資料に関して、アーカイブズ学の編成・記述方法によって整理・公開すべく、その方法に関する研究を進めた。

### (イ) 保管・修理に関する調査研究

1960 年代～70 年代の作品が残っていないタイプの表現(パフォーマンス, イベント, インスタレーション等)は、記録写真・映像が一次資料に近似する価値を持つ。当館所蔵の山岸信郎氏旧蔵資料、稲憲一郎氏寄贈「精神生理学研究所」関係資料、秋山画廊旧蔵資料にはそうした記録写真が多く含まれるため、研究基盤として活用可能になるよう大型寄付金等によって順次デジタル化を進めた。

### (ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

平成 26 年度にヤシャ・ライハート氏から寄贈を受けた「蛍光菊」展写真資料(1968 年撮影)に関して進めた研究をもとに、平成 27 年 10 月 23 日、シンポジウム「メディアと芸術のあいだ——ヤシャ・ライハートの 60 年代の「展覧会」を読み解く」を開催した。



### 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

#### (1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

##### ① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信

##### ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計 31 冊），研究紀要（計 4 冊），館ニュース（計 6 種，32 冊発行）等の刊行物により，研究成果を発信した。

館名		展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他
東京国立近代美術館	本館	6	1	6	1	3	2
	工芸館	5			0	3	0
	フィルムセンター	1			6	0	9
京都国立近代美術館		5	1	6	0	5	3
国立西洋美術館		3	1	4	0	3	2
国立国際美術館		6	0	6	0	3	2
国立新美術館		5	1	4	—	7	1
計		31	4	32	1	33	11

【注】「パンフレット・ガイド等」には，小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

##### イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

##### (ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表] (本館)

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「前衛画家と戦争—福沢一郎と北脇昇を中心に」	大原美術館美術講座「シリーズ戦争と美術 I」	大谷省吾 (主任研究員)	H27.7.26	大原美術館	115
2	「いいえ，岡本太郎ってみなさんが思っているような人じゃないですよ」	「戦後日本美術の出發 1945-1955 展」	大谷省吾 (主任研究員)	H27.10.31	群馬県立近代美術館	35
3	“Who Wants Yesterdays Paper?: Koki Tanaka and Japanese Post War Art”	Artist of the Year 2015: Koki Tanaka	藏屋美香 (美術課長)	H27.4.29	Deutsche Bank Kunsthalle, Berlin	30
4	「ル・ラボ vol.2: ジャン=リュック・ヴィルムート (アーティスト) × 藤井光 (映画監督・美術家)」司会		藏屋美香 (美術課長)	H27.5.14	東京日仏会館	70
5	「遠近法からみる美術：江戸から明治へ」		藏屋美香 (美術課長)	H27.5.23	関西大学東京センター	80
6	韓国国交正常化 50 周年記念 特別トークショー「韓日中堅作家，現代美術を語る」(会田誠×チヨン・ジュノ，ムン・ギヨンウオン) 司会		藏屋美香 (美術課長)	H27.5.23	韓国文化院	100
7	“There is a Light That Never Goes Out: Children in Yoshitomo Nara’s Works”	Yoshitomo Nara: Life is only One	藏屋美香 (美術課長)	H27.5.23	Asia Society Hong Kong	30

8	「陰影法からみる美術：江戸から明治へ」		藏屋美香 (美術課長)	H27.6.6	関西大学東京センター	80
9	「ヴェネチア・ビエンナーレに参加して：経験を世界に伝えるということ」	京都工芸繊維大学アートマネージャー養成講座	藏屋美香 (美術課長)	H27.6.16	京都工芸繊維大学	60
10	“Day 2: Imagining Asian Art in Global Asias” 「Panel 2: Imagining Japan in Contested Sites of Contemporary Art” ディスカッション	シンポジウム「日本およびアジア地域におけるグローバル・アートとディアスポラ・アート」	藏屋美香 (美術課長)	H27.6.27	東京大学駒場キャンパス	150
11	「Recent Activities in MOMAT Collection」	日米キュレーターミーティング	藏屋美香 (美術課長)	H27.7.20	国際交流基金	15
12	第3回「東京国立近代美術館から学ぶ藤田嗣治と戦争画のABC～画家たちが描いた戦争」	シリーズ「美術館とコレクション」	藏屋美香 (美術課長)	H27.10.9	青山ブックセンター本店	20
13	「美術館の現状、および「好きなことやってるんだから」論の起源」	社会の芸術フォーラム 第3回「搾取：生活者としてのアーティスト／アーティストとしての生活者」	藏屋美香 (美術課長)	H27.10.17	東京大学本郷キャンパス	150
14	“Gambare, Nippon: Experiences of the Japan pavilion at Venice Biennale in 100 years”	Symposium: Histories of Japanese Art and their Global Contexts: New Directions	藏屋美香 (美術課長)	H27.10.24	Institute of East Asian Art History, Heidelberg University	60
15	“A 45-year Discussion: MOMAT’s Collection Exhibition and Pacific War Paintings”	CiMAM 2015 Annual Conference	藏屋美香 (美術課長)	H27.11.7	国立新美術館	250
16	“Korea Art Prize, International Jury”	Korea Art Prize	藏屋美香 (美術課長)	H28.1.28, 29	国立現代美術館 (ソウル)	非公開
17	シンポジウム「MOMAT×MOT×MOMAS—コレクション展示の可能性」		鈴木勝雄 (主任研究員)	H27.5.10	埼玉県立近代美術館	50
18	「ルポルタージュ絵画の再定義」	国際日本文化研究センター 共同研究「戦後日本文化再考」	鈴木勝雄 (主任研究員)	H27.6.13	国際日本文化研究センター	40
19	「国立美術館巡回展 洋画の大樹が根付くまで」講演会		鈴木勝雄 (主任研究員)	H27.7.19	釧路市立美術館	35
20	シンポジウム「印刷物の過去・現在・未来」	東京アートブックフェア 2015	鈴木勝雄 (主任研究員)	H27.9.20	京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 外苑キャンパス	50
21	対談「沖縄における美術のこれまでとこれから」		鈴木勝雄 (主任研究員)	H28.3.11	沖縄県立博物館・美術館	50
22	「三山縦走 人と作品と魅力と」	「日展三山—東山魁夷、杉山寧、高山辰雄—」展講演会	鶴見香織 (主任研究員)	H27.5.3	香川県立東山魁夷せとうち美術館	100
23	「ジャクソン・ポロック Good Art」	ブリヂストン美術館	中林和雄 (企画課長)	H27.4.25	ブリヂストン美術館	100

24	「生還する山田正亮」	NPO 法人 ARTTRACE	中林和雄 (企画課長)	H27.12.18	ARTTRACE ギャ ラリー	50
25	「展覧会への入口講座 Vol.14 ここが面白い！ 片岡球子の人と作品」	千代田区地域振興部	中村麗子 (主任研究員)	H27.4.9	千代田区立日比谷 図書文化館	85
26	「これからの美術館事典 ナイト」		榊田倫広 (研究員) 共同発表者：新藤淳 (国立西洋美術館研 究員)	H27.6.27	6次元	25
27	「日本の美術館のミッシ ョンへ批評家と学芸員と 考える美術館の現状と未 来」		榊田倫広 (研究員) 共同発表者：新藤淳 (国立西洋美術館研 究員)	H27.9.5	青山ブックセンタ ー本店	50
28	「山口啓介の図像世界」		松本透 (副館長)	H28.2.11	豊田市美術館	70
29	「MLA 連携の起源と展 開ー連携の要としての公 立図書館の可能性」	全国公共図書館協議 会	水谷長志 (主任研究員)	H27.7.3	都立中央図書館	120
30	「MLA 連携：それは、 美術情報システムの基礎 でありゴールである」	美術館インフォマテ ィクス専門家シンポ ジウム	水谷長志 (主任研究員)	H27.11.13	韓国国立近現代美 術館ソウル館	200
31	基調報告「JAL2015「海 外日本美術資料専門家 (司書)の招へい・研修・ 交流事業」	公開ワークショップ 「日本美術の資料に 関わる情報発信力の 向上のための提言 II」	水谷長志 (主任研究員)	H27.11.27	東京国立近代美術 館講堂	70
32	「映像アートと、アート 系映画の違いって何？」	連続講座「映画以内、 映画以後、映画辺境」	三輪健仁 (主任研究員)	H27.11.22	アップリンク・フ ァクトリー	40
33	「今井祝雄 白のイベン ト×映像・1966-2016」 展関連トークイベント		三輪健仁 (主任研究員)	H28.3.5	Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku	25

[雑誌等論文掲載] (本館)

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	発行者	発行年月日
1	「前衛美術の流れ」 「図版解説」 (『日本美術全集 第18巻 戦前・戦中 戦争と 美術』) (共著)	大谷省吾 (主任研究員)	小学館	H27.4.29
2	「コメモレションの行方」 (『岩波講座アジ ア・太平洋戦争 戦後篇 (記憶と認識の中のア ジア・太平洋戦争)』) (共著)	鈴木勝雄 (主任研究員)	岩波書店	H27.7.31
3	「葛藤する空間「黙認の場」からの問い」 (『山 城知佳子ブックレット』) (共著)	鈴木勝雄 (主任研究員)	ユミコチバアソシエイツ	H28.3.31
4	『もっと知りたい 片岡球子 生涯と作品』 (共著)	中村麗子 (主任研究員)	東京美術	H27.4.1
5	「世紀転換期のベルリン美術の国際化とメン ツェル、リーパーマンのリアリズム」, 図版目 録 (尾関幸 (編) 『ベルリンー砂上のメトロポ ール (西洋近代の都市と芸術 5)』) (共著)	都築千重子 (主任研究員)	竹林舎	H27.6.1
6	『公開ワークショップ「日本美術の資料に関わ る情報発信力向上のための提言 II」 報告書』 (編・著)	水谷長志 (主任研究員)	JAL2015 実行委員会	H28.3.31

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「竹内栖鳳筆 獅子図屏風」	中村麗子 (主任研究員)	『國華』1442号 (國華社)	H27.12.20

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「ミュージアム・マネジメントの実践研究—美術館／美術工芸博物館の教育活動」	一條彰子 (主任研究員)	『ミュージアム・マネジメント学事典』(日本ミュージアム・マネジメント学会事典編集委員会/学文社)	H27.6.7
2	「荒井経」	大谷省吾 (主任研究員)	「第6回東山魁夷記念日経日本画大賞展」図録(上野の森美術館)	H27.5.28
3	「美術作品のカタログの周辺—パリの二つの機関の例から」	中林和雄 (企画課長)	『博物館研究』(日本博物館協会)	H27.9.25
4	「なぜヤゲオ展を企画したのか：反省しつつ批判に応答する」	保坂健二郎 (主任研究員)	『視る』477号(京都国立近代美術館)	H27.4.1
5	「丹羽良徳の哀しい笑顔とキッチュ」	保坂健二郎 (主任研究員)	『歴史上歴史的に歴史的な共産主義の歴史』(Art-Phil)	H27.9.18
6	“Towards a Vital Architecture”	保坂健二郎 (主任研究員)	<i>Peter Märkli – Drawings, Quart Verlag</i>	H27.11
7	「印刷絵画」再考のための言説整理」	梶田倫広 (研究員)	『引込線 2015』(引込線実行委員会)	H27.11.15
8	「JAL2014「海外日本美術資料専門家(司書)招へい・研修・交流事業」の顛末一端」	水谷長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』(アート・ドキュメンテーション学会)	H27.4.25
9	「JAL2015 公開ワークショップ報告 今年のJALは7・8・9! 3人3グループ9人のJALが果敢にチャレンジした「日本美術の資料に関する情報発信力の向上のための提言 II」 附:短報「美術館インフォーマティクス専門家シンポジウム」(韓国国立近現代美術館ソウル館, 2015.11.13)」	水谷長志 (主任研究員)	『アート・ドキュメンテーション通信』(アート・ドキュメンテーション学会)	H28.1.25
10	「外から見る日本の美術情報資料の現在—在外日本美術資料専門家(JAL)からの提言」	水谷長志 (主任研究員)	『平成26年度全国美術館会議第29回学芸員研修会報告書』	H28.3.31

その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, Webサイト等)の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「近代美術の眼 岡崎和郎《位相の手袋》」	藏屋美香 (美術課長)	『読売新聞』都内版	H27.10.9
2	「近代美術の眼 田中忠雄《基地のキリスト》」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H27.6.12
3	「近代美術の眼 野口彌太郎《踏絵》」	鈴木勝雄 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H27.7.10
4	「近代美術の眼 上村松園《母子》」	都築千重子 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H27.4.10
5	「近代美術の眼 アンリ・ルソー《第22回アンデパンダン展に参加するよう芸術家達を導く自由の女神》」	都築千重子 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H27.10.2
6	「近代美術の眼 今村紫紅《西湖雷峰塔》,《西湖》」	鶴見香織 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H27.5.22
7	「画風の核心をスケッチから探る 生誕110年 片岡球子展」	中村麗子 (主任研究員)	『新美術新聞』No.1372(美術年鑑社)	H27.4.1

8	「アート・トーキング 片岡球子『飼育』1954年 専門家からひと言」	中村麗子 (主任研究員)	『日本経済新聞』	H27.5.14
9	特集：ベスト・エキシビション 2015「球子作品の実物に触れるということ（「生誕110年 片岡球子展」）」	中村麗子 (主任研究員)	『美術年鑑』平成28年版（美術年鑑社）	H28.1.1
10	連載「視線」	保坂健二郎 (主任研究員)	『朝日新聞』	H27.4.19, 6.7, 7.19, 9.13, 10.18, 12.6, H28.1.24
11	連載「美術」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すばる』（集英社）	H27.4, 6, 8, 10, 12, H28.2
12	連載「良口雑言」	保坂健二郎 (主任研究員)	『疾駆』（YKG Publishing）	H27.4.28, 8.6
13	「コンテンツとしての建築展，メディアとしての美術館」（長谷川祐子氏との対談）	保坂健二郎 (主任研究員)	『建築雑誌』2015年7月号（日本建築学会）	H27.7.1
14	「英語のはなむけ」	保坂健二郎 (主任研究員)	『NHK ラジオ基礎英語1』（NHK 出版）	H27.9.14
15	「複合的な視点で見る，美の生命性」（書評   金沢百枝『ロマネスク美術革命』）	保坂健二郎 (主任研究員)	『波』2015年9月号（新潮社）	H27.9
16	「建築にとってアーカイヴは必須である」	保坂健二郎 (主任研究員)	『aica Japan News Letter ウェブ版』5号（美術評論家連盟）	H27.9
17	「藤岡祐機」	保坂健二郎 (主任研究員)	『すごいぞ，これは！』（埼玉県立近代美術館）	H27.9.19
18	「展評   伊勢周平」	保坂健二郎 (主任研究員)	『美術手帖』2015年10月号（美術出版社）	H27.10
19	「「ロジカル・エモーション」展はどのように生まれたか？」	保坂健二郎 (主任研究員)	『をちこち』2015年10月号（国際交流基金）	H27.10
20	「雑感以上批評未満3」	保坂健二郎 (主任研究員)	『シェル美術賞展 2015』展図録（昭和シェル石油株式会社）	H27.12
21	「近代美術の眼 清宮質文《さまよう蝶》」	保坂健二郎 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.2.12
22	「似て非なるモノの想像力」	榊田倫広 (研究員)	『美術手帖』（美術出版社）	H27.9
23	「近代美術の眼 三岸好太郎《雲の上を飛ぶ蝶》」	榊田倫広 (研究員)	『読売新聞』都内版	H27.11.13
24	「対談 本作りの理想郷 DVDブック『世界一美しい本を作る男 シュタイデルとの旅』（新潮社）をめぐって」（鈴木一誌との対談）	増田玲 (主任研究員)	『週刊読書人』（読書人）	H27.11.6
25	「特集 追悼 2015年旅だった写真界の巨匠たち：中平卓馬 一貫して，近代社会のシステムに抗おうとしていた」	増田玲 (主任研究員)	『アサヒカメラ』2016年1月号（朝日新聞出版）	H28.1.20
26	「周到な仕掛けを施す：書評ベルント・シュテューグラー『写真の映像』」	増田玲 (主任研究員)	『週刊読書人』（読書人）	H28.2.26
27	「近代美術の眼 渡辺克巳《ゲイボーイ，新宿》」	増田玲 (主任研究員)	『読売新聞』都内版	H28.3.11
28	「過去を現在形で提示 未発表作を含む探求：書評 東松照明『新編太陽の鉛筆』」	増田玲 (主任研究員)	『アサヒカメラ』2016年3月号（朝日新聞出版）	H28.3.20
29	「恩地孝四郎—境界なき抽象」	松本透 (副館長)	『版画芸術』2015年冬（阿部出版）	H27.12.1
30	「恩地孝四郎展 形はひびき，色はうたう」	松本透 (副館長)	『新美術新聞』No.1398（美術年鑑社）	H28.2.1
31	「東京国立近代美術館の能 絵画と工芸と映画フィルムと」	水谷長志 (主任研究員)	『国立能楽堂』（国立能楽堂）	H27.7.3

32	「ウワサの信憑」	三輪健仁 (主任研究員)	『core of bells 「怪物さんと退屈くんの12ヵ月」全記録』 (CHAOZ CHAOS)	H27.11.25
----	----------	-----------------	--	-----------

[学会等発表] (工芸館)

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	講演会「青磁ー古陶鑑賞から創作への歩み」	「青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代までー」展	唐澤昌宏 (工芸課長)	H27.5.16	兵庫陶芸美術館	87
2	講演会「岡部嶺男の陶芸」	「岡部嶺男の陶芸ー瀬戸の伝統そして創造へー」展	唐澤昌宏 (工芸課長)	H27.5.23	瀬戸市美術館	90
3	講演会「青磁ー受け継がれた技と美 近・現代陶芸作品を中心にー」	「青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代までー」展	唐澤昌宏 (工芸課長)	H27.7.4	静岡市美術館	109
4	記念鼎談「青磁に魅せられて」	「青磁のいまー受け継がれた技と美 南宋から現代までー」展	唐澤昌宏 (工芸課長)	H27.10.10	山口県立萩美術館・浦上記念館	79
5	研究発表「日本伝統工芸展に見る備前焼」	東洋陶磁学会 第43回大会	唐澤昌宏 (工芸課長)	H27.11.8	岡山県立美術館	117
6	研究発表「石黒宗麿の赤絵と黒絵」	「最初の間人国宝 石黒宗麿のすべて」展記念シンポジウム	唐澤昌宏 (工芸課長)	H28.1.10	渋谷区立松濤美術館	45
7	講演「現代陶芸としての薪窯による備前焼」	備前焼 土窯プロジェクト シンポジウム 「記憶とアート」 in アメリカ	唐澤昌宏 (工芸課長)	H28.3.19	岡山県立美術館	100
8	「万博にみられる日本陶磁の正統：ジャポニスム時代の古陶磁のプレゼンテーション」	ジャポニスム学会第5回岡山公開シンポジウム「KOGEI とジャポニスム：産業と芸術で見直す近代」	木田拓也 (主任研究員)	H27.11.28	帝京大学霞ヶ関キャンパス	100
9	「昭和戦前期の日韓交流：越境する日本人展をふりかえって」	韓国交際交流財団 2015 日本の博物館 学芸員ワークショップ,	木田拓也 (主任研究員)	H27.10.5	韓国国際交流財団	20
10	「桃山復興と魯山人」	「魯山人の宇宙」展 講演会	木田拓也 (主任研究員)	H27.10.3	高岡市美術館	30
11	「亀倉雄策の東京オリンピックと大阪万博」	「生誕 100 年亀倉雄策」展講演会	木田拓也 (主任研究員)	H27.8.8	新潟県立万代島美術館	30

[雑誌等論文掲載] (工芸館)

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	図版解説 (『日本美術全集 第18巻 戦争と美術 戦前・戦中』)	木田拓也 (主任研究員)	小学館	H27.4

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「「堆磁」に込められた想い—神農巖の作陶」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『陶説』750号 (日本陶磁協会)	H27.9.1

その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, Web サイト等) の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	アートダイアリー 013「所蔵作品展 こどもとおとな工芸館 ピカ☆ボコ ～オノマトペで読みとく工芸の魅力～」	今井陽子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	H27.8.3
2	「三つのキーワードで観る芹沢作品」	今井陽子 (主任研究員)	『美しいモノ』2016年 春号	H28.2.20
3	アートダイアリー 020「芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション」	今井陽子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	H28.3.1
4	「陶芸公募展レポート 第3回陶美展」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『炎芸術』112 (阿部出版)	H27.5.1
5	「小石原に生きる存在証明—福島善三の作陶」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『福島善三 陶芸展』図録 (福島善三)	H27.6
6	「鈴木五郎の理路—「五郎流」の作陶」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『鈴木五郎 土に生きる 土に遊ぶ』展図録 (メナード美術館)	H27.7
7	「こだわりを形にする—今井政之さんの作陶」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『土と炎の彩化 文化功労者今井政之展』図録 (高島屋美術部)	H27.10
8	“La sculpture ceramique au Japon”	唐澤昌宏 (工芸課長)	「CERAMIX」展図録 (Snoeck France)	H27.10
9	「道具への想い—藤田謙の金属造形」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『藤田謙展』図録 (ギャルリ・ブス)	H27.11
10	「こだわりを形にする—今井政之さんの作陶」(「土と炎の彩化 文化功労者 今井政之展」)(2015年展覧会ベスト)	唐澤昌宏 (工芸課長)	『美術年鑑』(美術年鑑社)	H28.1
11	「市野雅彦: 新たな丹波焼への挑戦」	唐澤昌宏 (工芸課長)	『市野雅彦・陶展 UTUWA うつろのかたち』展図録 (paramita museum)	H28.2
12	“What is Japanese Kōgei (Craft)?”	唐澤昌宏 (工芸課長)	「KŌGEI Contemporary Japanese Art」図録 (Onishi Gallery)	H28.3
13	「亀倉雄策における「日本的なもの」——東京オリンピックのデザインワークから見えてくるもの」	木田拓也 (主任研究員)	『生誕100年亀倉雄策展』図録 (新潟県立万代島美術館)	H27.7.11
14	「第8回 SGRA チャイナフォーラム 清華東亜文化講座」(国際会議出席報告)	木田拓也 (主任研究員)	『鹿島美術研究』年報第32号別冊 (公益財団法人鹿島美術財団)	H27.11.16
15	「工芸家が夢みたアジア: <東洋>と<日本>のはざままで」「近代日本における<工芸>ジャンルの成立: 工芸家がめざしたもの」	木田拓也 (主任研究員)	『SGRA レポート No.72 第8回 SGRA チャイナフォーラム 近代日本美術史と近代中国』(渥美国際交流財団関ログローバル研究会)	H27.10.20

[学会等発表] (フィルムセンター)

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「東京国立近代美術館フィルムセンター (NFC) におけるデジタル映画保存活用調査研究事業」	MPTE 第18回勉強会 映像プロセス部会主催「待ったなし! ボーンデジタルの映画保存」	大関勝久 (特定研究員)	H27.4.22	富士フィルムホール	100

2	“Challenges of National Film Center(NFC) for Digital Cinema Preservation.”	ICAI (International Conference of Advanced Imaging) 2015 国際学会	大関勝久 (特定研究員)	H27.6.18	一ツ橋ホール	100
3	“The Restoration of <i>THE THOUSAND STITCH BELT</i> (1937): Utilizing Analog and Digital Technique to Retrieve the Colors of the Two-color System”	ジョイント・テクニカル・シンポジウム	大傍正規 (研究員)	H28.2.7	シンガポール国立博物館	150
4	“Into the Digital Woods: Archival Utopia or Pandaemonium”	東南アジア太平洋地域映像アーカイブ協会 (SEAPAVAA)	岡島尚志 (主幹)	H27.4.22	シンガポール国立図書館	150
5	“Film Archive - Past, Present and Future”	プサン国際短篇映画祭 (BISFF) =チョンブク大学校 (CBNU)	岡島尚志 (主幹)	H27.4.27	プサン・コンテンツ・コンプレックス	100
6	“Japan Speaks Out! Early Japanese Talkies”	ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 映画部	岡島尚志 (主幹)	H27.5.6,7,8	MOMAタイタス2	100
7	“A Delayed Love Letter to Moving Image”	ICAI (International Conference on Advanced Imaging)	岡島尚志 (主幹)	H27.6.17	一橋大学一橋講堂	100
8	“CHUJI TABINIKKI and the Restoration of Japanese Silent Films”	ポルデノーネ無声映画祭	岡島尚志 (主幹)	H27.10.5	サン・フランチェスコ修道院ホール	100
9	「こども映画教室シネクラブ@せたがや 2015—鑑賞ワークショップ実例報告を中心に」	こども映画教室	岡島尚志 (主幹)	H28.2.6	川崎市アートセンターアルテリオ小劇場	150
10	「Still Moving—MoMAフィルムコレクションの魅力」	コミュニティシネマセンター	岡島尚志 (主幹)	H28.2.23	アテネ・フランセ文化センター	50
11	“Kashiko Kawakita, her Life and Films”	第3回国際映画遺産フェスティバル (ミャンマー)	岡田秀則 (主任研究員)	H27.6.1	ネピドー・シネマ	20
12	「現代日本の無声映画伴奏—東京国立近代美術館フィルムセンターの試みを中心に」	早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点公募研究成果報告会「無声期の映画館と音楽」	岡田秀則 (主任研究員)	H28.1.9	早稲田大学小野記念講堂	40
13	シンポジウム「映写で映画が完成する～映写という仕事について」 ワークショップ「映写技師のための『フィルム映写ワークショップ』」	高崎映画祭	神田麻美 (客員研究員)	H28.2.14 ～2.15	高崎電気館 (群馬県・高崎市)	60
14	“Archiving National Film Heritage without Legal Deposit”	国際フィルム・アーカイブ連盟	とちぎあきら (主任研究員)	H27.4.13	オーストラリア国立海事博物館 (オーストラリア・シドニー)	100
15	“In Defense of Amateurs: Archiving the Tradition of Japanese Experimental Cinema”	オーバーハウゼン国際短篇映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H27.5.5	リヒトブルク映画劇場 (ドイツ・オーバーハウゼン)	70



16	“Harmony and Richness: Color Film in Japan”	チネマ・リトロバータ映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H27.6.30	ボローニャ大学オーディトリウム DMS (イタリア・ボローニャ)	30
17	「映画の復元とは何かー小津安二郎監督カラー作品復元を中心に」	高崎映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H27.4.3	高崎電気館 (群馬県・高崎市)	20
18	「映画フィルムとその保存から映画の歴史を知る」	金沢工芸美術大学	とちぎあきら (主任研究員)	H27.5.29	金沢工芸美術大学 (石川県・金沢市)	30
19	「記録映画の保存と活用を考える Vol.3 1945年の文化・記録映画を見る」	ゆふいん文化・記録映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H27.6.27	湯布院公民館 (大分県・由布市)	100
20	「東京国立近代美術館フィルムセンターにおける映画の保存と復元, この10年」	映画の復元と保存に関するワークショップ	とちぎあきら (主任研究員)	H27.8.22	京都国立博物館平成知新館 (京都府・京都市)	80
21	「映像遺産の保存と活用ー相模原市関連の古いニュース映画を見ながら」	相模原市立総合学習センター	とちぎあきら (主任研究員)	H27.10.9	東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館 (神奈川県・相模原市)	40
22	「『くもとちゅうりつぷ』『桃太郎 海の神兵』について」	新千歳空港国際アニメーション映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H27.11.1	新千歳国際空港コロぼっくるシアター (北海道・千歳市)	50
23	「映写で映画が完成するー映写という仕事について」	高崎映画祭	とちぎあきら (主任研究員)	H28.2.14	高崎電気館 (群馬県・高崎市)	60
24	「日本のアニメーション100周年プロジェクト」なぜ2017年が100周年なのか	日本動画協会	とちぎあきら (主任研究員)	H28.3.26	東京ビッグサイト (東京都・江東区)	100
25	「東洋現像所:奥村朗氏, 須佐見成氏にきく」	サントリー文化財団研究助成「オーラル・ヒストリーによる戦後日本映画史の再構築」研究会	富田美香 (主任研究員)	H28.3.6	国際日本文化研究センター	25
26	「『桃太郎 海の神兵』と文化映画」	国際日本文化研究センター共同研究「おたく文化と戦時下・戦後」研究会	富田美香 (主任研究員)	H28.3.6	国際日本文化研究センター	30
27	「NFC's Research Project on the Sustainability of Digital Film Materials」	メキシコ国際学会「サステナブルなデジタルアーカイブ」	松山ひとみ (特定研究員)	H27.11.11	メキシコ国立自治大学	100
28	「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業<現状>報告」	第10回 映画の復元と保存に関するワークショップ	三浦和己 (特定研究員)	H27.8.23	京都国立博物館	100
29	「DCP, 作ったその後に...~映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業より~」	山形国際ドキュメンタリーフィルムフェスティバル「デジタルシネマ時代における小規模映画の上映形式の研究」	三浦和己 (特定研究員)	H27.10.12	東北芸術工科大学	50

30	「映像記録保存媒体の特性～映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業より～」	「舞台映像の継承のために」公開研究会	三浦和己 (特定研究員)	H27.11.4	早稲田大学演劇博物館	50
31	「ボーンデジタル映像の保存に関する諸問題」	第32回 日本写真学会 画像保存セミナー	三浦和己 (特定研究員)	H27.11.13	東京工芸大学	100
32	「デジタル映像の保存と活用に関する現状と課題」	INFOPRO2015 第12回 情報プロフェッショナルシンポジウム	三浦和己 (特定研究員)	H27.12.11	情報科学技術協会	50
33	「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業の2年目」	アーキビストの会	三浦和己 (特定研究員)	H28.2.27	東京国立近代美術館フィルムセンター	50

[雑誌等論文掲載] (フィルムセンター)

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「パリのロシア人 アルバトロス社の興亡とフランスの映画美術」(天野知香(編)『西洋近代の都市と芸術 3 パリⅡ』)(共著)	岡田秀則 (主任研究員)	竹林舎	H27.12.1

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「東京国立近代美術館フィルムセンター(NFC)におけるデジタル映画保存の調査研究事業」	大関勝久 (特定研究員)	『映画テレビ技術』755号(一般社団法人 日本映画テレビ技術協会)	H27.7.1
2	“The Multiple Version of Joseph Rosenthal’s <i>Siege and Surrender of Port Arthur (1905)</i> ”	大傍正規 (研究員)	<i>Journal of Film Preservation</i> , vol.92 (FIAP)	H27.4
3	「高峰秀子出演映画一〇選解題 戦前・戦中篇」	大澤浄 (研究員)	『ユリイカ 詩と批評』2015年4月号(青土社)	H27.4
4	「なぜキューバの映画ポスターなのか」	岡田秀則 (主任研究員)	『美術の窓』2016年3月号(生活の友社)	H28.2.20
5	“In Defense of Amateurs: Archiving the Traditions of Japanese Experimental Cinema”	とちぎあきら (主任研究員)	「オーバーハウゼン国際短篇映画祭 2015」図録(オーバーハウゼン国際短篇映画祭)	H27.4

その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, Webサイト等)の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	アートダイアリー 015 「生誕100年を迎えた「呪われた天才」オーソン・ウェルズ」	大澤浄 (研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	H27.10.1
2	「赤瀬川原平の銃口」	岡田秀則 (主任研究員)	第14回山形国際ドキュメンタリー映画祭 特集「アラブをみる」図録(山形国際ドキュメンタリー映画祭)	H27.10.8
3	「インドネシアの映画保存」	岡田秀則 (主任研究員)	第14回山形国際ドキュメンタリー映画祭 特集「Double Shadows/二重の影」図録(山形国際ドキュメンタリー映画祭)	H27.10.8
4	「工藤充一《自由》を組み立てた人」	岡田秀則 (主任研究員)	第14回山形国際ドキュメンタリー映画祭 「Sputnik」(山形国際ドキュメンタリー映画祭)	H27.10.8

5	作品研究「歴史と対峙する《垂直のポエジー》」	岡田秀則 (主任研究員)	『光のノスタルジア』『真珠のボタン』プログラム(岩波ホール)	H27.10.10
6	「《セクシー》と《ノン・セクシー》—アンリ・ラングロワと現代のシネマテーク」	岡田秀則 (主任研究員)	『nobody』43号(nobody編集部)	H27.10.22
7	「《風の王子さま》—ヨリス・イヴェンスの肖像」	岡田秀則 (主任研究員)	『neoneo』6号(neoneo編集部)	H27.12.18
8	アートダイアリー 019「キューバの映画ポスター—竹尾ポスターコレクションより」	岡田秀則 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	H28.2.5
9	「映画ポスターの流儀」	岡田秀則 (主任研究員)	『読売新聞』夕刊	H28.3.8,15,22,29 (4回連載)
10	「今こそ「市川崑」を再発見するために」	とちぎあきら (主任研究員)	市川崑 Blu-ray BOX「特製ブックレット」(株式会社KADOKAWA)	H27.11.6
11	アートダイアリー 017「フィルムを運ぶ人たち」	とちぎあきら (主任研究員)	「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web)	H27.12.4

### (イ) 京都国立近代美術館

#### [学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「音楽だけじゃないっ！ 美術の都ウィーン」	[「ウィーン美術史美術館展—風景画の誕生」×『黄金のアデーレ 名画の帰還』コラボ企画アフタートーク]	池田祐子 (主任研究員)	H27.11.29	サールナートホール(静岡市)	98
2	“Katagami Collections in Germany - Vorbilder as Official Strategy” (「ドイツの型紙コレクション—政策としての収集活動」)	『International Symposium: KATAGAMI in the WEST (海外での「型紙」の姿)』, 主催: University of Zurich, Switzerland, Section for East Asian Art	池田祐子 (主任研究員)	H28.3.18-20.	チューリヒ大学	70
3	「具体研究の位置」	連続講座	平井章一 (主任研究員)	H27.6.28	西宮市大谷記念美術館	50
4	「「近代」と洋画」	第19回美術講座“美術館を楽しもう！ XIII”	平井章一 (主任研究員)	H27.12.18	神戸市立小磯記念美術館	80
5	“What's GUTAI”	Gutai Curator Talk	平井章一 (主任研究員)	H28.3.13	Ayala Museum	50
6	「「具体美術協会」関連資料の意義と今後の研究への期待」	シンポジウム「日本の戦後美術資料の収集・公開・活用を考える」	平井章一 (主任研究員)	H28.3.20	国立新美術館	100

#### [雑誌等論文掲載]

##### 学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	『ピフォーザ バウハウス—帝政期ドイツにおける建築と政治 1890-1920』(共訳)	池田祐子 (主任研究員)	三元社	H27.4

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「グロピウス：芸術と産業をめぐる華麗なる一族—ディオラマ，工芸博物館，そしてバウハウス」	池田祐子 (主任研究員)	尾関幸編『ベルリン—砂上のメトロポール（西洋近代の都市と芸術 5）』（竹林舎）	H27.6
2	“Hermann Muthesius und Japan”	池田祐子 (主任研究員)	OAG Notizen, 12/2015 (OAG Deutsche Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens, Tokyo)	H27.12
3	作家略歴	池田祐子 (主任研究員)	「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」展図録（東京国立近代美術館フィルムセンター・京都国立近代美術館）	H28.1
4	「正延正俊と「具体」」	平井章一 (主任研究員)	「没後 20 年 具体の画家—正延正俊」展図録（西宮市大谷記念美術館ほか）	H27.6
5	「生き延びるための革命」	平田剛志 (研究補佐員)	『うさぎと革命』（うさぎと革命実行委員会）	H27.10
6	レビュー「超少女まぶさび宇宙—竹中美幸・寺田就子」	平田剛志 (研究補佐員)	『REAR』36号（リア制作室）	H28.1

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，Web サイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「〈秘密〉を味わう料理教本—クレー展トリロジー」	池田祐子 (主任研究員)	『ART RAMBLE』Vol. 49 (兵庫県立美術館)	H27.12.26
2	アートダイアリー 016「琳派イメージ：近代から現代にかけての作家たちが生み出した「琳派」の広がり」	小倉実子 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ふんかる」（文化庁）(Web)	H27.11.2
3	「戦後美術の考古学 12 130 メートル鉄骨タワー 幻の史跡」	平井章一 (主任研究員)	『京都新聞』	H27.4.4
4	「「ボク」という物」	平井章一 (主任研究員)	『浮田要三の仕事』（りいぶる・とふん）	H27.7
5	「悼む 新しい芸術観生んだ 鷺見康夫さん」	平井章一 (主任研究員)	『毎日新聞』	H27.11.16
6	「関西の美術館で観る名画 Y市の橋 松本峻介」	平井啓修 (研究員)	『納税月報臨時増刊 ふれあい』（公益財団法人納税協会連合会）	H27.12.20
7	「審査員コメント」	平田剛志 (研究補佐員)	『enoco ニュースレター』07号（大阪府立江之子島文化芸術創造センター）	H27.10
8	「北大路魯山人の美 和食の天才」	牧口千夏 (主任研究員)	『炎芸術』No.122 (阿部出版)	H27.5.1
9	アートダイアリー 012「北大路魯山人の美 和食の天才」	牧口千夏 (主任研究員)	「文化庁広報誌 ふんかる」（文化庁）(Web)	H27.6.1
10	「変貌の足跡 —展覧会によせて—」	柳原正樹 (館長)	松宮喜代勝『ラ・リュージュマツミヤ・松宮の赤』パンフレット	H27.5.2.9. 10.16.17
11	巻頭エッセイ「「日本画」という言葉」	柳原正樹 (館長)	『美術京都』第 47 号 (公益財団法人 中信美術奨励基金)	H28.2.1
12	「新美術時評 —今，京都でのこと—」	柳原正樹 (館長)	『新美術新聞』No.1393 (美術年鑑社)	H27.11.21
13	「女流陶芸展総評」	柳原正樹 (館長)	「女流陶芸展」図録	H28.2.24

14	「京都工芸美術作家協会 70 周年記念展を祝して」	柳原正樹 (館長)	「琳派 400 年記念 京都工芸美術作家協会展」図録	H28.3.1
15	「瀧口修造と綾子夫人」	柳原正樹 (館長)	『とやま文学』第 34 号 特集 瀧口修造 (富山県芸術文化協会)	H28.3.10
16	「文化勲章受章記念 志村ふくみ 母衣への回帰」	柳原正樹 (館長)	『新美術新聞』No.1399 (美術年鑑社)	H28.2.11

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「高度化・グローバル化する美術作品の情報ニーズと国立西洋美術館の取り組み」	アート・ドキュメンテーション学会第 26 回年次大会 シンポジウム「美術資料情報における大規模化と高度化—グローバルなデジタル化戦略と学術的専門研究の接点を問う」	川口雅子 (主任研究員)	H27.6.6	国立西洋美術館講堂	120
2	対談「文化資料アーカイブ入門～将来の芸術文化の発展に向けて～」	文化庁シンポジウム「文化資料アーカイブ入門～将来の芸術文化の発展に向けて～」	川口雅子 (主任研究員)	H28.3.24	コクヨホール	100
3	「水俣条約による水銀規制と展示照明等への影響」	平成 27 年度保存担当学芸員フォローアップ研修	川瀬佑介 (主任研究員)	H27.7.6	東京文化財研究所セミナー室	100
4	“Cusanus and Architecture: His Legacy in the Building of the St. Nikolaus-Hospital”	International Cusanus Conference “sapientia aedificavit sibi domum”	金一 (リサーチフェロー)	H27.11.7	Institut für Philosophie der Cusanus Hochschule und der Kueser Akademie für Europäische Geistesgeschichte (ドイツ)	80
5	“Nicholas of Cusa and Vitruvius in <i>Idiota de Staticis experimentis</i> ”	International Cusanus Conference “The Theme of Wisdom in The Idiota Writings of Nicholas of Cusa”	金一 (リサーチフェロー)	H27.6.6	Universität Tübingen (ドイツ)	100
6	「美術市場と画商」特集座談会	紙面座談会・『西洋美術研究』no.19 (2016) 掲載予定	陳岡めぐみ (主任研究員)	H27.9.21	フォレスト本郷	非公開
7	対談「ドラクロワの衝撃」		陳岡めぐみ (主任研究員)	H27.9.6	青山ブックセンター	65
8	「ボルドー展 一美と陶酔の都へ」関連講演「ボルドー芸術の友協会 ボルドー美術館の作品収集計画から見た黄金期」	日仏美術学会、日仏会館フランス事務所	陳岡めぐみ (主任研究員)	H27.6.27	日仏会館	120

9	「国立西洋美術館と松方コレクション」	講座「名画鑑賞入門～国立西洋美術館のコレクションを中心に～」	陳岡めぐみ (主任研究員)	H28.3.12	埼玉県県民活動総合センター	35
10	「これからの美術館事典ナイト」		新藤淳 (研究員) 共同発表者: 榊田倫広 (東京国立近代美術館研究員)	H27.6.27	6次元	25
11	「日本の美術館のミッション～批評家と学芸員と考える美術館の現状と未来」		新藤淳 (研究員) 共同発表者: 榊田倫広 (東京国立近代美術館研究員)	H27.9.5	青山ブックセンター本店	50
12	「国立西洋美術館のワールドマスター・コレクション」	講座「名画鑑賞入門～国立西洋美術館のコレクションを中心に～」	新藤淳 (研究員)	H28.2.20	埼玉県県民活動総合センター	35
13	「エライザ法による美術作品中の蛋白質および植物ガムの同定」	文化財保存修復学会発表	高嶋美穂 (研究補佐員)	H27.6.27	京都工芸繊維大学	500
14	「ELISA法による歴史資料中の膠着材同定の試み」	筑波大学西アジア文明研究センター第13回定例研究会発表	高嶋美穂 (研究補佐員)	H27.11.6	筑波大学	60
15	「高分解能 MALDI 質量分析計を用いた膠の原料動物種の同定」	文化財保存修復学会発表	高嶋美穂 (研究補佐員)	H27.6.27	京都工芸繊維大学	500
16	「15～17世紀ネーデルラント美術史」	講座「名画鑑賞入門～国立西洋美術館のコレクションを中心に～」	中田明日佳 (研究員)	H28.2.27	埼玉県県民活動総合センター	35
17	「18世紀から19世紀末のフランス美術」	講座「名画鑑賞入門～国立西洋美術館のコレクションを中心に～」	袴田紘代 (研究員)	H28.3.5	埼玉県県民活動総合センター	35
18	「「美術館の裏側」物語」		馬淵明子 (館長)	H27.4.14	日本女子大生涯学習センター大ホール	79
19	“Katagami and Japonisme Design” (基調講演)	Japanomania in the Nordic Countries 1875-1918	馬淵明子 (館長)	H28.2.19	フィンランド国立アテネウム美術館	80
20	“Japonisme Design and Katagami in the Circle of S.Bing” (「S.ピング周辺の型紙とジャポニスム」)	International Symposium : Katagami in the West	馬淵明子 (館長)	H28.3.19	スイス チューリッヒ大学	120
21	「美術作品の保存：展覧会から災害時救援まで」	文化財保存・復元技術展特別セミナー	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	H27.7.23	東京ビッグサイト	100

[雑誌等論文掲載]

学術書籍、研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	『女性画家たちの戦争』	吉良智子 (リサーチフェロー)	平凡社新書	H27.7
2	『博物館教育論』 (共著)	寺島洋子 (主任研究員)	放送大学教育振興会	H28.3.20

3	「〈抽象=創造〉の活動とその余波」(天野知香(編)『西洋近代の都市と芸術 3 パリⅡ』)(分担執筆)	村上博哉 (副館長兼学芸課長)	竹林舎	H27.12.1
4	「肖像画における『アメリカ性』の創出—大統領の身体をめぐる」(田中正之監修, 田中正之・横山佐紀・小林剛・瀧井直子・江崎聡子執筆, 石井朗企画構成『アメリカ美術叢書Ⅰ 創られる歴史, 発見される風景—アート・国家・ミソロジー』)(分担執筆)	横山佐紀 (主任研究員)	ありな書房	H28.2.1
5	「国立西洋美術館所蔵の《牢獄》について」(長尾重武編著『ピラネージ《牢獄》論 描かれた幻想の迷宮』)(分担執筆)	渡辺晋輔 (主任研究員)	中央公論美術出版	H27.8.20

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「古典古代と〈未来〉の共鳴:「パラード」(1917年)と前衛的古典主義の時代」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『パラゴネ』第3号(青山学院大学比較芸術学会)	H28.3.31
2	“The Lives of Alberti and Cusanus and Their Shared Objective: Incessant Deciphering of the Empirical World”	金一 (リサーチフェロー)	<i>Mitteilungen und Forschungsbeiträge der Cusanus-Gesellschaft, Vol. XXXV</i> (Universität Trier, Institut für Cusanus-Forschung)	H27
3	“Picturing Venus in the Renaissance Print”	渡辺晋輔 (主任研究員)	<i>Print Quarterly</i> , vol. XXXII, n. 2 (Print Quarterly)	H27.6

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「近代の跡地 (2)」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『引込線 2015』展書籍(引込線実行委員会)	H27.11.15
2	「未来の故郷——かりそめの「美術館事典」のマージンに」	新藤淳 (研究員)	東京国立近代美術館(編)『No Museum, No Life?—これからの美術館辞典 国立美術館コレクションによる展覧会』展図録(独立行政法人国立美術館)	H27.6
3	「エライザ法による美術作品中の蛋白質および植物ガムの同定」	高嶋美穂 (研究補佐員)	文化財保存修復学会第37回大会要旨集(文化財保存修復学会)	H27.6.26
4	「高分解能 MALDI 質量分析計を用いた膠の原料動物種の同定」	高嶋美穂 (研究補佐員)	文化財保存修復学会第37回大会要旨集(文化財保存修復学会)	H27.6.26
5	「クウェンティン・マセイス《両替商とその妻》——作品解釈と注文主像——」	中田明日佳 (研究員)	『鹿島美術研究』32号別冊(鹿島美術財団)	H27.11.15
6	「19世紀末フランスにおける美術と演劇の交差:挿絵入り演劇プログラムの研究」	袴田紘代 (研究員)	『鹿島美術研究』32号別冊(鹿島美術財団)	H27.11.15
7	“The Kojirō Matsukata Collection and the National Museum of Western Art in Tokyo” (「松方幸次郎のコレクションと国立西洋美術館」)	馬淵明子 (館長)	<i>Japan's love for impressionism from Monet to Renoir</i> 展図録(ドイツ連邦共和国美術展示館)	H27.10.8
8	“Paris, a Transmitter of Japonisme, and the North as Its Receiver” (「ジャポニスムの発信地パリと受信地北欧」)	馬淵明子 (館長)	国際シンポジウム「北欧の近代美術とジャポニスム」報告書(国立西洋美術館)	H28.3.31
9	„Die Ausbildung von Museumspädagoginnen und -pädagogen – Die Notwendigkeit von grundlegenden Kriterien für die Ausbildung“	寺島洋子 (主任研究員)	“Standbein Spielbein” <i>Museumspädagogik Aktuell</i> (ドイツ連邦博物館教育連盟)	H28.3

その他（研究志向の薄い機関紙、美術雑誌、新聞、Web サイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「子どもやわからなくて、通れるってことにする、鏡」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『ユリイカ』7月臨時増刊号「金子國義の世界」(青土社)	H27.6.25
2	「鳥とプロペラ「シンプルなかたち」展」	阿部真弓 (リサーチフェロー)	『美術手帖』vol.67/NO.1023 (美術出版社)	H27.7.1
3	「黄金伝説展」	飯塚隆 (研究員)	『うえの』678号(上野のれん会)	H27.10
4	「黄金、不変の輝き—黄金伝説展—」	飯塚隆 (研究員)	『小原流插花』780号(小原流)	H27.11
5	「黄金伝説展」	飯塚隆 (研究員)	『暮らすめいと』第84号(中日新聞東京本社)	H27.10
6	「黄金伝説展」	飯塚隆 (研究員)	『東京新聞』夕刊	H27.11.2
7	「輝く古代ジュエリー」㊤㊦㊧	飯塚隆 (研究員)	『東京新聞』夕刊	H27.12.16, 17,18
8	アートダイアリー 014「黄金伝説展 古代地中海世界の秘宝」	飯塚隆 (研究員)	「文化庁広報誌 ふんかる」 (文化庁) (Web)	H27.9.1
9	「カラヴァッジョ展」	川瀬佑介 (研究員)	『うえの』682号(上野のれん会)	H28.2.1
10	「カラヴァッジョ展」	川瀬佑介 (研究員)	『美術の窓』389号(生活の友社)	H28.2.20
11	「カラヴァッジョとその時代」	川瀬佑介 (研究員)	『東京・春・音楽祭公式プログラム』(東京・春・音楽祭実行委員会)	H28.3.23
12	「法悦のマグダラのマリア」	川瀬佑介 (研究員)	『読売新聞』夕刊	H28.3.23
13	「ママデモで思う」	吉良智子 (リサーチフェロー)	『東京新聞』夕刊	H27.9.9
14	「知られざる「銃後の絵画」」	吉良智子 (リサーチフェロー)	『信濃毎日新聞』	H27.9 から 連載中(第一 金曜日掲載)
15	「女性画家たちの「居場所」」	吉良智子 (リサーチフェロー)	『女性情報』2015年10月号(パド・ウィメンズ・オフィス)	H27.10
16	「ボルドー 美と陶酔の都へ」	陳岡めぐみ (絵画彫刻室長)	『うえの』(上野のれん会)	H27.6.1
17	「ボルドー 美と陶酔の都へ」	陳岡めぐみ (絵画彫刻室長)	『発見上手』(三井住友トラスト・ウェルスパートナーズ)	H27.7.23
18	「“絵”の問題, “絵画”の問題」	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2015年5月号(美術出版社)	H27.4
19	「「慈善事業」としての贋作」	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2015年11月号(美術出版社)	H27.10
20	「鏡とアザと花粉と——梅津庸一と美術史の亡霊たち」	新藤淳 (研究員)	梅津庸一(編)『ラムからマトン』(アートダイバー)	H27.11
21	翻訳:クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動——ポストモダニズムの理論に向けて 第1部(前)」	新藤淳 (研究員)	『ゲンロン1』(genron)	H27.12
22	「訳者解題」(クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動——ポストモダニズムの理論に向けて」)	新藤淳 (研究員)	『ゲンロン1』(genron)	H27.12
23	「クラーナハ展」	新藤淳 (研究員)	『美術の窓』2016年2月号(生活の友社)	H27.1
24	「オリバー・ラリック 別の何ものかが変わりうるということ」	新藤淳 (研究員)	『美術手帖』2016年3月号(美術出版社)	H28.2



25	翻訳:クレイグ・オーウェンス「アレゴリー的衝動——ポストモダニズムの理論に向けて 第1部(後)」	新藤淳 (研究員)	『ゲンロン2』(genron)	H28.3
26	「アートでわかる more Tokyo 第25回:国立西洋美術館」	袴田紘代 (研究員)	「Go Tokyo」(Web)	H27.5.25
27	トピックス「講演会『ミュージアムのジレンマ—収集, 展示, マスメディア』」	横山佐紀 (主任研究員)	表象文化論学会ニューズレター『REPRE』26(リプレ編集部)	H28.2
28	「美術に関する国際交流援助」研究報告:「紙からカンヴァスへ—グエルチーノの創作プロセスを追う」「署名の殺人者—カラヴァッジョと血の詩学」	渡辺晋輔 (主任研究員)	『鹿島美術研究』年報第32号別冊(公益財団法人鹿島美術財団)	H27.11.15
29	「ツウの一見 美術館を手玉にとった男」	渡辺晋輔 (主任研究員)	『週刊朝日』12月4日増大号(朝日新聞出版,)	H27.12.4

## (エ) 国立国際美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「美術館との連携—子どもたちの学びが生まれる連携とは」	美術による学び研究会	藤吉祐子 (主任研究員)	H27.9.22	国立オリンピックセンター	280
2	「展覧会のための映像インスタレーション作品を収蔵する—泉太郎の場合」	研究会「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」(科研費 基盤C 研究代表者:松井茂,平成26年~平成28年)	中西博之 (主任研究員) 共同発表者: 伊村靖子 (国立新美術館アソシエイトフェロー)	H27.7.18	情報科学芸術大学院大学	35

[雑誌等論文掲載]

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「Space by Arcs and Diagonals, or Gravity」	中西博之 (主任研究員)	「Jiro Takamatsu」展カタログ(Stephen Friedman Gallery)	H27.10.13
2	「坂本夏子の絵画」	中井康之 (学芸課長)	『美術フォーラム21』32号(一般財団法人 美術フォーラム21)	H27.11.30
3	「エバーハルト・オルトラント「ジョン・ケージにおける精神性と生の芸術」」	福元崇志 (任期付研究員)	『美学研究』Vol.9(大阪大学)	H28.1
4	「メディア・アートの呪文」	植松由佳 (主任研究員)	「平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭 受賞作品集」(文化庁メディア芸術祭実行委員会)	H28.2.2
5	「谷原菜摘子」	中井康之 (学芸課長)	「VOCA展2016 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」図録(上野の森美術館)	H28.3.11

その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, Webサイト等)の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	学芸員レポート「伊東宣明《アート》」「てくてく現代美術世界一周」「京都市立芸術大学作品展」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」(Web)	H27.4.15

2	「「展覧会」と「演奏会」のあいだに 亡き師と亡き友に」	中井康之 (学芸課長)	『芸術批評誌 [リア]』No.34 (リア制作室)	H27.5.11
3	「関西美術探訪 問い残された問い、掬い上げるオブジェ：岡崎和郎展「御物補遺」」	福元崇志 (任期付研究員)	『大阪日日新聞』	H27.5.26
4	学芸員レポート「月が水面にゆれるとき」「もの派」「エンリコ・カステラーニと李禹煥」「ルチオ・フォンタナへのオマージュ展」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」 (Web)	H27.7.15
5	学芸員レポート「THE BOX OF MEMORY: Yukio Fujimoto」, 寺田真由美「見る眼差し×見る眼差し」「他人の時間: TIME OF OTHERS」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」 (Web)	H27.10.15
6	学芸員レポート「法貴信也 個展」「館勝生 展」	中井康之 (学芸課長)	「artscape」 (Web)	H28.1.15
7	「関西美術探訪 玉虫色の, 土の芸術: 展覧会「前衛陶芸の貌」」	福元崇志 (任期付研究員)	『大阪日日新聞』	H28.1.26

### (オ) 国立新美術館

[学会等発表]

	タイトル	学会等名	発表者氏名 (職名)	日付	場所	聴講者数 (人)
1	「子ハンス・ホルバイン作《ホワイトホール・パレスの壁画》におけるヘンリー八世の足を広げて立つポーズに関する一考察」	第 68 回美術史学会 全国大会	西美弥子 (研究補佐員)	H27.5.24	岡山大学	100
2	「汎用技術と表現—60年代美術とデザインの接地面」	研究会「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」(科研費 基盤 C 研究代表者: 松井茂, 平成 26 年～平成 28 年)	伊村靖子 (アソシエイトフェロー) 共同発表者: 中西博之 (国立国際美術館主任研究員)	H27.7.19	情報科学芸術大学院大学	33

学術書籍, 研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「作品解説」(『日本美術全集 18 戦争と美術』)	谷口英理 (特定研究員)	小学館	H27.4.29

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「洞窟という鑑賞装置—フレデリック・キースラーの《ブケパロス》」	瀧上華 (アソシエイトフェロー)	『表象 10』(表象文化論学会)	H28.3

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
1	「小堀安子, 木面の煌き」	長谷川珠緒 (研究補佐員)	「小堀安子 象嵌の世界」展図録(ギャラリー壽庵/伊勢屋美術)	H27.6

2	「아라키 유우 (荒木悠) 《ROAD MOVIE》」	日比野民蓉 (研究補佐員)	「2015 영은미술관 개관 15주년 기념특별전 2015 한국·일본 작가교류展 함께하는 발자취」 (영은미술관)	H27.9
3	「カンディンスキーの幾何学的抽象絵画—その芸術的理念からの考察—」	長屋光枝 (主任研究員)	『鹿島美術研究 年報第32号別冊』(公益財団法人鹿島美術財団)	H27.11.15
4	「ミュージアムにおける服飾作品展示の可能性—ICOM-COSTUME 2015年次大会(トロント)報告」	本橋弥生 (主任研究員)	『博物館研究』平成28年4月号(日本博物館協会)	H28.3
5	「大山エンリコイサム」	米田尚輝 (研究員)	「VOCA展2016 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」図録(上野の森美術館)	H28.3.11
6	「国内参考文献」, 「海外参考文献」, 「国内展覧会歴」, 「海外展覧会歴」	長名大地 (研究補佐員)	「アルフレッド・シスレー展 印象派, 空と水辺の風景画家 練馬区立美術館開館30周年記念」展図録(練馬区立美術館)	H27.9
7	「和田賢一と〈後期の仕事(スタイル)〉」	南雄介 (副館長・学芸課長)	「和田賢一遺作展I」図録(M画廊, 足利市)	H27.9
8	「河原温《浴室》シリーズについて」	南雄介 (副館長・学芸課長)	『慶應義塾大学アートセンター/Booklet』(24 美術と批評)	H28.3

その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, Web サイト等)の発表

	タイトル	執筆者氏名 (職名)	掲載誌名(発行者)	発行年月日
1	「ニキ・ド・サンファル—その多様な作品の世界」	山田由佳子 (研究員)	『装苑』(文化出版局)	H27.8
2	「1335 マビニ」「98B コラボレトリ—」「フィリピン文化センター(CCP)」	米田尚輝 (研究員)	「SEA プロジェクト: 東南アジアの現代美術—1980年代から現在まで」(国立新美術館, 森美術館, 国際交流基金アジアセンター)(Web)	H28.2.4
3	「デザインの未来への招待状」	本橋弥生 (主任研究員)	『美術の窓』第35巻第2号通巻409号(生活の友社)	H28.2.20
4	「フランス近代絵画の巨匠, ルノワールの代表作が一堂に会する!」	横山由季子 (アソシエイトフェロー)	『美術の窓』第35巻第2号通巻409号(生活の友社)	H28.2.20
5	「選りすぐりのアカデミア美術館コレクション—約60点が集まる」	宮島綾子 (主任研究員)	『美術の窓』第35巻第2号通巻409号(生活の友社)	H28.2.20
6	フォーカス「美術館活動の原点を問い直す—鎌倉からはじまった。1951-2016展(パート1~パート3)レビュー」	伊村靖子 (アソシエイトフェロー)	「artscape」(Web)	H27.11.15
7	「物の時代と芸術—20世紀美術をどう見るか—」(講演採録)	南雄介 (副館長・学芸課長)	『鳥城』第49号(通巻109号)(鳥取県立鳥取西高等学校)	H28.2

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

- ・『研究紀要』の収録論文をホームページ上で掲載した。
- ・フィルムセンターでは, フィルムセンター所蔵の映画関連資料を公開する「NFC デジタル展示室」において, 「戦前期日本の映画館写真」シリーズ第8回(最終回), 「無声日本映画のスチル写真」シリーズ第1~2回を公開した。

(イ) 国立西洋美術館

- ・ホームページ上の収蔵作品データベースを通じて, 収蔵作品に関する歴史情報を公開した(来歴・展覧会歴・文献歴)。

- ・国立西洋美術館ニュース『ZEPHYROS』をホームページに掲載した。
- ・平成 28 年 1 月 22 日、「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を公開し、『国立西洋美術館研究紀要』等の調査研究成果を発信する環境を整備した。博物館の機関リポジトリとしては国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館に次ぐもので、美術館としては国内初の試みである。国立国会図書館の情報ポータルサイト「カレントアウェアネス」で報じられ、インターネットや SNS でも話題になった。国立情報学研究所の共用リポジトリサービスに拠るもので、公開 3 か月でアクセス数は 48,000 を超えた。

(ウ) 国立新美術館

- ・『国立新美術館活動報告』及び『国立新美術館ニュース』を、ホームページにおいて公開した。
- ・「ニッポンのマンガ\*アニメ\*ゲーム」と「MIYAKE ISSEY 展：三宅一生の仕事」の鑑賞ガイドブック、及び施設ガイド『てくてくマップ』をホームページにおいて公開した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

(本館)

セミナー・シンポジウム名	国立美術館を活用した鑑賞教育研修	開催年月日	平成 27 年 7 月 27 日
場所	東京国立近代美術館 講堂・所蔵品ギャラリー	聴講者数(人)	教員 100 人, 中学生 173 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	進行：一條彰子(主任研究員), 講演：寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員), ファシリテーター：今井陽子(主任研究員) 他		
内容	休館日を使用しての, 中学校美術教員向けの 1 日研修。グループワークで鑑賞ファシリテーションを学んだ後, 午後には実際の中学生に向けてトークラリーを行った。東京都中学校美術教育研究会(都中美)との連携研修。		

セミナー・シンポジウム名	灼熱のシンポジウム	開催年月日	平成 27 年 8 月 1 日
場所	東京国立近代美術館	聴講者数(人)	120
講師・パネリスト等の氏名(職名)	建畠哲(多摩美術大学学長/埼玉県立近代美術館館長), 馬淵明子(独立行政法人国立美術館理事長/国立西洋美術館館長), 田口かおり(日本学術振興会特別研究員/東北芸術工科大学保存修復研究センター), 中村史子(愛知県美術館学芸員), 鷹野隆大(写真家), 蔵屋美香(美術課長), 梶田倫広(研究員), 新藤淳(国立西洋美術館研究員)		
内容	「No Museum, No Life?—これからの美術館辞典 国立美術館コレクションによる展覧会」(東京国立近代美術館)に合わせた「美術館」を主題とするシンポジウム。		

セミナー・シンポジウム名	美術館と学校 鑑賞教育のこれまでとこれから	開催年月日	平成 27 年 8 月 2 日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	145
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会・報告：一條彰子(主任研究員) 講演：逢坂恵理子(横浜美術館館長) 過去の受講者による成果発表：佐藤一幸(弘前市立城西小学校教諭), 亀井愛(三井記念美術館教育普及員), 長尾菊絵(西東京市立ひばりが丘中学校主任教諭), 平田朝一(岡山県総合教育センター指導主事), 木村典之(大分県立美術館主幹) 討議司会：東良雅人(文部科学省教科調査官) パネリスト：逢坂恵理子(横浜美術館館長), 奥村高明(聖徳大学教授), 長田謙一(名古屋芸術大学教授), 三澤一実(武蔵野美術大学教授)		
内容	平成 18 年度にスタートした「指導者研修」の 10 年間を検証するとともに, 鑑賞教育を取り巻く現状を確認し, 今後の美術館・学校連携の目標と課題について考えた。全記録を, 過去の受講者へのアンケート結果とともにインターネット上に公開。 ( <a href="http://www2.artmuseums.go.jp/sdk10th/index.html">http://www2.artmuseums.go.jp/sdk10th/index.html</a> )		

## (工芸館)

セミナー・シンポジウム名	国立美術館を活用した鑑賞教育研修	開催年月日	平成 27 年 7 月 27 日
場所	東京国立近代美術館 講堂・所蔵品ギャラリー	聴講者数(人)	教員 100 名, 中学生 173 名
講師・パネリスト等の氏名(職名)	進行: 一條彰子(主任研究員), 講演: 寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員), ファシリテーター: 今井陽子(主任研究員) 他		
内容	休館日を使用しての, 中学校美術教員向けの 1 日研修。グループワークで鑑賞ファシリテーションを学んだ後, 午後には実際の中学生に向けてトークラリーを行った。東京都中学校美術教育研究会(都中美)との連携研修。		

セミナー・シンポジウム名	国立美術館を活用した鑑賞教育研修 グループワーク「だれかと一緒に『自分八景』」	開催年月日	平成 27 年 8 月 3 日
場所	東京国立近代美術館 所蔵品ギャラリー	聴講者数(人)	10
講師・パネリスト等の氏名(職名)	ファシリテーター: 今井陽子(主任研究員) サブファシリテーター: 吉井有紀(東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館 教育普及担当)		
内容	ジュリアン・オピー《日本八景》(2007 年)を題材に作品研究及び鑑賞教育授業を作成。		

セミナー・シンポジウム名	「いいね, みんなの美術・感〜きみならどうおもう?」	開催年月日	平成 28 年 1 月 28 日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	60
講師・パネリスト等の氏名(職名)	進行: 寺島洋子(国立西洋美術館主任研究員) パネリスト: 今井陽子(主任研究員), 伊藤貴光(葛飾区西小菅小学校教員), 南明日香(台東区台東育英小学校教員)		
内容	1 月 22 日, 28 日に実施した東京国立近代美術館工芸館と葛飾区西小菅小学校による連携授業の検証と児童を対象とする鑑賞授業のあり方を検証。		

セミナー・シンポジウム名	「芹沢銈介の造形」	開催年月日	平成 28 年 3 月 14 日
場所	東京国立近代美術館工芸館	聴講者数(人)	80
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会・進行: 慶野憲司(NPO 法人日本染織文化振興会代表) 講師: 今井陽子(主任研究員) ファシリテーター: 今井陽子(主任研究員), 工芸館ガイドスタッフ		
内容	「芹沢銈介のいろは—金子量重コレクション」出品作をとおして芹沢銈介の主要な主題を検証, また染織作品の鑑賞の方法についてのワークショップを行った。休館日を使用して実施。		

## (フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「ホームムービーの日」in 京橋 アマチュア小型映画のこれまでとこれから	開催年月日	平成 27 年 10 月 17 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	106
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会: 大澤浄(研究員) 報告者: 石原香絵, 竹森朝子(映画保存協会 HMD 日本事務局) 「国際的な記念日「ホームムービーの日」誕生のひみつ」 報告者: 水川繁雄(元富士写真光機 工業デザイン担当), 聞き手: 石川亮(技術職員) 「フジカシングル 8—その誕生と発展」 報告者: 浅利浩之(荻野茂二研究者), 石川亮, とちぎあきら(主任研究員) 「フィルムセンターにおける小型映画保存の取り組みとデジタル化」		
内容	ホームムービーやアマチュア映画普及の原動力ともいえる「シングル 8」の誕生と発展を主にした講演を中心に, 「ホームムービーの日」の活動, フィルムセンターにおける小型映画保存のとりくみを報告した。		

セミナー・シンポジウム名	中央区民カレッジ「シニアコース総合学習 後期クラス」	開催年月日	平成 27 年 10 月 27 日
場所	フィルムセンター 小ホール	聴講者数(人)	60
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師：大澤浄(研究員)		
内容	「わがまちを知る」と題し、参加者に関東大震災関連記録映画3本(『大正十二年九月一日 帝都大震災大火災 大惨状』『大正十二年九月 実寫 関東地方大震災』『航空船にて復興の帝都へ』)を鑑賞してもらい、作品の解説を行うとともに、災害映像をアーカイビングすることの歴史資料的な意義を解説した。		

## イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	Parasophia Conversations 07: 森口邦彦× 樂吉左衛門「継承と伝達Ⅱ」	開催年月日	平成 27 年 6 月 26 日
場所	京都国立近代美術館 1階ロビー	聴講者数(人)	81
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師：森口邦彦氏(染織家)，十五代樂吉左衛門(陶芸家)		
内容	京都国際現代芸術祭組織委員会，一般社団法人京都経済同友会，京都府，京都市が主催する国際展「Parasophia 京都国際現代芸術祭 2015」の関連イベントとして，所蔵作品の作家である森口邦彦氏及び十五代樂吉左衛門氏によるシンポジウムが実施され，京都国立近代美術館もこれに協力した。		

セミナー・シンポジウム名	キュレトリアル・スタディズ 10 関連シンポ ジウム：写真の複数の〈原点〉—複写・複 製・写し	開催年月日	平成 28 年 3 月 5 日
場所	京都国立近代美術館 1階 講堂	聴講者数(人)	105
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	司会：佐藤守弘(京都精華大学教授) 講師：マイケル・グレイ(元フォックス・トルボット・ミュージアム館長) パネリスト：畠山直哉(写真家)，青山勝(大阪成蹊大学准教授)		
内容	「キュレトリアル・スタディズ 10: 写真の〈原点〉再考—ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から」のコレクションギャラリーでの展示に合わせて，19世紀の写真集『自然の鉛筆』を出発点として，写真の原点を考察するシンポジウムを実施した。		

## ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	灼熱のシンポジウム	開催年月日	平成 27 年 8 月 1 日
場所	東京国立近代美術館	聴講者数(人)	120
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	建畠哲(多摩美術大学学長/埼玉県立近代美術館館長)，馬淵明子(館長)，田口かおり(日本学術振興会特別研究員/東北芸術工科大学保存修復研究センター)，中村史子(愛知県美術館学芸員)，鷹野隆大(写真家)，藏屋美香(東京国立近代美術館美術課長)，榊田倫広(東京国立近代美術館研究員)，新藤淳(研究員)		
内容	「No Museum, No Life?—これからの美術館辞典 国立美術館コレクションによる展覧会」(東京国立近代美術館)に合わせた「美術館」を主題とするシンポジウム。		

セミナー・シンポジウム名	「ミュージアムのジレンマ—収集，展示， マスメディア」	開催年月日	平成 27 年 10 月 28 日
場所	国立西洋美術館 講堂	聴講者数(人)	52
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	エドモンド・ウォーレン・ペリー・Jr.(ペリー演劇図書館館長，元スミソニアン協会ナショナル・ポートレート・ギャラリー研究員)，シャノン・ケネディ・ペリー(テネシー大学附属マクラング自然史博物館，コレクション・マネージャー)「寄贈のジレンマ，化石，銃器—收拾のつかない収集について」		
内容	テネシー大学附属マクラング自然史博物館の寄贈をめぐる問題と，スミソニアン協会における南北戦争展示の問題を中心に提起，アメリカのミュージアムが抱えるジレンマについて議論した。横山佐紀(主任研究員)が企画し，モデレーターを務めた。		

セミナー・シンポジウム名	「20世紀絵画と美術蒐集家」	開催年月日	平成28年3月19日
場所	国立西洋美術館	聴講者数(人)	35
講師・パネリスト等の氏名(職名)	袴田紘代(研究員)		
内容	講座「名画鑑賞入門～国立西洋美術館のコレクションを中心に～」の最終回。国立西洋美術館の所蔵作品をもとに、19世紀後半から20世紀半ばまでのフランス及びアメリカ美術の流れと、国立西洋美術館への近代美術の主な寄贈者について講義。加えて、講座内容を踏まえながら常設展示室を案内。		

## エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「過去の現在の未来—アーティスト、学芸員、研究者が考える現代美術の保存と修復」	開催年月日	平成27年12月5日
場所	国立国際美術館 講堂	聴講者数(人)	125
講師・パネリスト等の氏名(職名)	石原友明(京都市立芸術大学芸術資源研究センター所長) 植松由佳(主任研究員) 金井直(信州大学人文学部准教授) マルティ・ルイツ(サウンド・アーティスト, バルセロナ大学美術学部研究員)		
内容	平成27年度メディア芸術連携促進事業 連携共同事業「タイムベースト・メディアを用いた美術作品の修復/保存に関するモデル事業」の関連としてシンポジウムを開催。植松由佳は所蔵作品の高谷史郎《optical falt / fiber optic type》(2000年)の保存修復のケーススタディを報告した。		

## (2) 国内外の美術館等との連携

### ① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

#### ア 東京国立近代美術館 (本館)

セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「日本の戦後美術資料の収集・公開・活用を考える—大阪新美術館建設準備室所蔵『具体美術協会』関係資料を中心に—」	開催年月日	平成28年3月20日
場所	国立新美術館 3階 講堂	聴講者数(人)	101
講師・パネリスト等の氏名(職名)	発表: 鈴木勝雄(主任研究員), 高柳有紀子(大阪新美術館建設準備室学芸員), 平井章一(京都国立近代美術館主任研究員), 谷口英理(国立新美術館学芸課特定研究員) パネルディスカッション: 鈴木勝雄, 高柳有紀子, 平井章一, 谷口英理, 平野到(埼玉県立近代美術館主任学芸員), 河崎晃一(甲南女子大学文学部メディア表現学科教授)		
内容	「具体美術協会」関係資料(大阪新美術館建設準備室所蔵)をはじめとする戦後美術資料のアーカイブを整備して国内外に発信し, 有効活用するためには, 現状の課題がどこにあり, これからどのような方向をめざすべきなのか考察したシンポジウム。大阪新美術館建設準備室, 文化庁との共同開催。		

セミナー・シンポジウム名	JAL2015「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」主催公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅱ」	開催年月日	平成 27 年 11 月 27 日
場所	東京国立近代美術館 講堂	聴講者数(人)	60
講師・パネリスト等の氏名（職名）	ヤナ・リンドヴァー（プラハ国立美術館）、ジョン・ウッド（ロンドン大学 SOAS 図書館）、ヴィーベッケ・オセッ・グスタヴセン（オスロ大学図書館）、メアリー・レッドファーン（チェスター・ビーティー・ライブラリ）、ケビン・マクドウェル（オレゴン大学図書館）、キャロリン・ジェーン・ワグナー（ピッツバーグ大学）、コルデウラ・トライマ（ベルリン国立アジア美術館図書館）、文貞姫（韓国美術研究所）、李世泳（韓国国立近代美術館デジタルアーカイブ）、マグウェイ山田久仁子（ハーバード大学燕京図書館）、小出いづみ（渋沢栄一記念財団）、水谷長志（主任研究員）		
内容	関係機関と実行委員会を組織し、文化庁補助金により実施した。JAL2015 の招へい者による「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言Ⅱ」をめぐって、国内外の関係者が日本の美術資料の情報発信の課題について討議した。		

### （工芸館）

セミナー・シンポジウム名	「石黒宗麿のすべて」展記念シンポジウム	開催年月日	平成 28 年 1 月 10 日
場所	渋谷区立松濤美術館	聴講者数(人)	45
講師・パネリスト等の氏名（職名）	金子賢治（茨城県陶芸美術館館長）、野積正吉（射水市新湊博物館館長代理・主任学芸員）、小野公久（陶芸ジャーナリスト）、唐澤昌宏（工芸課長）		
内容	渋谷区立松濤美術館で開催された展覧会「石黒宗麿のすべて」及び基調講演「歴史の中の石黒宗麿」、さらに 3 つの研究発表をとおして浮かび上がる陶芸家・石黒宗麿の業績と今後の陶芸界における影響について考察した。また、今後再見するに相応しい陶芸家とその理由や影響等について議論した。没後数年が経った工芸家の回顧展があらためて開催される事の意義と今後の工芸界に及ぼす影響について考える機会となった。		

### （フィルムセンター）

セミナー・シンポジウム名	未知のウェルズ	開催年月日	平成 27 年 10 月 31 日、11 月 1 日、11 月 3 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	436
講師・パネリスト等の氏名（職名）	シュテファン・ドレスラー（ミュンヘン映画博物館ディレクター）		
内容	ミュンヘン映画博物館の特別協力を得てフィルムセンター大ホールにて開催した「生誕 100 年 オーソン・ウェルズ——天才の発見」（10 月 23 日～11 月 8 日）において、ミュンヘン映画博物館ディレクターのシュテファン・ドレスラー氏による 2 時間強の特別講演会を 5 回開催し、ウェルズの未完成作品の素材映像をとおして作家の試みを探った。		

セミナー・シンポジウム名	日韓外交正常化 50 周年 韓国映画 1934-1959 創造と開花	開催年月日	平成 27 年 11 月 22 日、28 日、29 日、12 月 5 日、6 日、13 日、17 日
場所	フィルムセンター 大ホール	聴講者数(人)	804
講師・パネリスト等の氏名（職名）	呉聖智氏（韓国映像資料院キュレーター）、鄭琮樺氏（韓国映像資料院主任研究員）、梁仁實氏（岩手大学人文社会科学部准教授）、水野直樹氏（京都大学人文科学研究所教授）、富田美香（主任研究員）		
内容	韓国映像資料院の所蔵作品を中心に 1930 年代から 1950 年代の作品を紹介する「日韓外交正常化 50 周年 韓国映画 1934-1959 創造と開花」において、韓国映像資料院のキュレーター、研究員をはじめとする韓国映画についての講演を開催した。		



### イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	エマ・ラヴィーニュ氏 レクチャー 「時 限発火装置としてのアートセンター」	開催年月日	平成 27 年 8 月 7 日
場所	京都国立近代美術館 1 階 講堂	聴講者数(人)	29
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	講師：エマ・ラヴィーニュ (ポンピドゥー・センター・メス館長)		
内容	ポンピドゥー・センター・メス館長で、2015 年度ヴェネツィア・ビエンナーレフランス館のコミッショナーを務めるエマ・ラヴィーニュ氏を招き、アンスティチュ・フランセ日本一関西との共催でレクチャーを実施した。		

### ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「北欧の近代美術とジャポニスム」	開催年月日	平成 27 年 10 月 31 日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数(人)	121 人
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	<p>【講演者・パネリスト】</p> <p>馬淵明子 (主催・館長)</p> <p>佐藤直樹 (東京藝術大学美術学部芸術学科 准教授)</p> <p>萬屋健司 (山口県立美術館 専門学芸員)</p> <p>荒屋鋪透 (ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館 学芸部長)</p> <p>スサンナ・ペッテルソン (フィンランド国立アテネウム美術館 館長)</p> <p>アンナ＝マリア・フォン・ボンズドルフ (フィンランド国立アテネウム美術館 主任学芸員)</p> <p>ヴィーダール・ハレーン (オスロ国立建築デザイン美術館 館長)</p> <p>ヴィーベケ・ヴォラン・ハンセン (オスロ国立建築デザイン美術館 学芸員)</p> <p>ピーダ・ナアアゴ＝ラースン (コペンハーゲン国立美術館 コレクション・研究部長)</p> <p>【司会】</p> <p>宮崎克己 (昭和音楽大学教授 ジャポニスム学会)</p> <p>陳岡めぐみ (主任研究員)</p> <p>杉山菜穂子 (三菱一号館美術館 学芸員)</p>		
内容	本シンポジウムは、2016-2017 年フィンランド、ノルウェー、デンマークで巡回される「ジャポノマニア展」に先立ち、開催された。パリとロンドンで始まったジャポニスムが北欧に伝播し、消化されていった経緯や、北欧諸国におけるジャポニスムの独自性等について、北欧並びに日本の西洋美術・ジャポニスム研究者が発表・討論を行い、交流を図る貴重な機会となった。		

### エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	市民美術大学 2015	開催年月日	平成 27 年 6 月 6 日
場所	CCA 北九州 (北九州市)	聴講者数(人)	70
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	植松由佳 (主任研究員)		
内容	現代美術センター CCA 北九州が開催する「市民美術大学 美術講座」は国内の美術関係者を講師に招き、今日の美術館をはじめとするアートに関連する活動の可能性を考えていく、一年(前期・後期)を通じた講座。そこで国際美術館の所蔵作家でもある東芋の作家性並びに特徴的な作品を紹介した。		

セミナー・シンポジウム名	「他人の時間」展 トーク・イベント 「ENSEMBLES ASIA / Asian Sounds Research 報告会」	開催年月日	平成 27 年 8 月 9 日
場所	国立国際美術館講堂	聴講者数(人)	83
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	Sachiko M (音楽家, Asian Sounds Research プロジェクト・ディレクター) 米子匡司 (音楽家) 水内義人 (現代美術家) 橋本梓 (主任研究員)		
内容	6月にマレーシア・ペナン島で開催された展覧会「OPEN GATE」(主催:国際交流基金アジアセンター)の報告会。「動き続けた」展覧会の様子, 終了までの過程を記録映像とともに振り返った。		

セミナー・シンポジウム名	International Symposium: Collecting and Exhibiting New Media Arts	開催年月日	平成 27 年 11 月 7 日, 8 日
場所	国立台湾美術館 オーディトリウム (台湾, 台中市)	聴講者数(人)	200
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	Lauren Shadford (アメリカ, Voices in Contemporary Art) Ivo van Stiphout (オランダ, LIMA media art platform) 植松由佳 (国立国際美術館主任研究員) 陳永賢 (台湾, 国立藝術大学教授) Jon Ippolit (アメリカ, Digital Curation, University of Main) Fenna Yola Tykwer (オーストリア, Universalmuseum Joanneum) Eun-Jin Kim (韓国, 国立近代現代美術館) 平諭一郎 (東京藝大) 胡朝聖 (台湾, キュレーター)		
内容	メディアアートを中心とした保存修復, 展示に関するシンポジウム。台湾では現代美術の保存修復をテーマとしたシンポジウムとしては初の開催であり, 欧米の有識者を含めて, 各国の機関, 美術館が抱える問題点やケーススタディの報告などが行われた。		

セミナー・シンポジウム名	「第2回東南アジア・キュレーターワーク ショップ」	開催年月日	平成 27 年 12 月 8 日, 9 日
場所	国際交流基金日本ベトナム文化センター	聴講者数(人)	11 名 (うち, 参加者 4 名)
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	シニア・キュレーター: チャン・ルオン (作家, キュレーター) 林寿美 (インディペンデント・キュレーター, 国立国際美術館/客員研究員) ジュニア・キュレーター: レー・トゥアン・ウエン (ニャーサン・コレクティブ/アシスタント・キュレーター) ホアン・チャン・バオ・クエン (サンアート/エディター) トラン・チュアン (作家)		
内容	ベトナム人の若手キュレーター育成のためのワークショップ。最後にシニア・キュレーターが1名を選出し, 調査を経て自らが企画する展覧会を実施させる。		

セミナー・シンポジウム名	平成 27 年度第 3 回横浜美術館美術系専門職員研修	開催年月日	平成 27 年 12 月 14 日
場所	横浜美術館 円形フォーラム	聴講者数(人)	30
講師・パネリスト 等の氏名(職名)	植松由佳 (国立国際美術館 主任研究員)		
内容	「タイムベースド・メディアの保存について」をテーマに, 現代美術作品を多数収蔵する横浜美術館並びに同財団職員に対して, タイムベースド・メディア作品の保存修復, 展示についてのレクチャーを実施。		

オ 国立新美術館

セミナー・シンポジウム名	戦後美術史における女性作家の活動	開催年月日	平成 27 年 9 月 18 日
場所	国立新美術館講堂	聴講者数(人)	65
講師・パネリスト等の氏名(職名)	カミーユ・モリノー(フランス文化財保存監督官/エヴァ・アート・ディレクター/本展監修者), 小勝禮子(栃木県立美術館学芸課長), 香川檀(武蔵大学教授), 中嶋泉(広島市立大学准教授) モデレーター: 山田由佳子(研究員, 本展監修者)		
内容	主催: 国立新美術館, 日仏美術学会 本シンポジウムは, 「オルセー美術館展 印象派の誕生 一描くことの自由」の関連イベントとして, 1860 年代におけるフランス絵画をめぐる諸相について, 絵画作品そのものの分析だけでなく, 美術制度や芸術家の交流の変遷をたどりながら, 議論することを目的として企画されたものである。展覧会に出品されていない画家も含めてこれまであまり分析の対象とならなかった 1860 年代を俯瞰的に捉え, 第 1 回印象派展の開催に先立つ時代に, 新しい絵画の誕生の兆しと新たな展示スタイルの模索が交錯したことを示す, 実りある場となった。		

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「メディアと芸術のあいだーヤシャ・ライハートの 60 年代の「展覧会」を読み解く 【第 1 部】 Five and a Half Exhibitions at the ICA」	開催年月日	平成 27 年 10 月 23 日
場所	国立新美術館講堂	聴講者数(人)	80
講師・パネリスト等の氏名(職名)	出演: ヤシャ・ライハート(キュレーター, 批評家), 杉浦康平(グラフィック・デザイナー) 聞き手: 伊村靖子(国立新美術館学芸課アソシエイトフェロー), 馬定延(東京藝術大学・国立新美術館客員研究員) 通訳: 木幡和枝(東京藝術大学美術学部先端芸術表現科 同大学院研究科 名誉教授)		
内容	国際的に活躍するキュレーター, 批評家のヤシャ・ライハート氏を招へいした国際シンポジウムの第 1 部。「蛍光菊」展(1968 年, ICA 他巡回) 他, ライハート氏が ICA で企画した展覧会について同氏に語っていただき, また, 「蛍光菊」展の展示デザインを担当した杉浦康平氏にも当時のデザインの活動を振り返っていただいた。東京藝術大学との共同開催。		

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「メディアと芸術のあいだーヤシャ・ライハートの 60 年代の「展覧会」を読み解く 【第 2 部】 Cybernetic Serendipity」	開催年月日	平成 27 年 10 月 25 日
場所	東京藝術大学大学院映像研究科・馬車道校舎 3 階 大視聴覚室	聴講者数(人)	68
講師・パネリスト等の氏名(職名)	出演: ヤシャ・ライハート(キュレーター, 批評家), ドミニク・チェン(情報学研究者/IT 起業家) 聞き手: 伊村靖子(国立新美術館 アソシエイトフェロー), 馬定延(東京藝術大学・国立新美術館客員研究員) 通訳: 木幡和枝(東京藝術大学美術学部先端芸術表現科 同大学院研究科 名誉教授)		
内容	国際的に活躍するキュレーター, 批評家のヤシャ・ライハート氏を招へいした国際シンポジウムの第 2 部。メディア・アートの原点のひとつとして記憶される Cybernetic Serendipity 展(1968, ICA 他)の現代的意義について, 展覧会を企画したライハート氏とゲストのドミニク・チェン氏に語っていただいた。東京藝術大学との共同開催。		

セミナー・シンポジウム名	日本は東南アジアの現代美術にいかに関わってきたのか？	開催年月日	平成 28 年 2 月 27 日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数(人)	220
講師・パネリスト等の氏名(職名)	司会進行：米田尚輝(国立新美術館研究員) プロジェクト・イントロダクション：南雄介(国立新美術館副館長兼学芸課長) プレゼンテーション1：後小路雅弘(九州大学人文科学研究院哲学部門教授) プレゼンテーション2：古市保子(国際交流基金アジアセンター美術コーディネーター) プレゼンテーション3：霜田誠二(NIPAF：日本国際パフォーマンスアートフェスティバル代表) モデレーター：片岡真実(森美術館チーフキュレーター) 閉会のごあいさつ：南條史生(森美術館館長)		
内容	国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンターは2017年、東南アジアの現代美術の発展を80年代から現代まで再読する展覧会を共同開催する予定である。本シンポジウムでは、1980年代以降、日本がいかに東南アジアの現代美術を研究・紹介し、どのような議論を展開してきたのか、また日本のパフォーマンス・アートが東南アジアでどのような役割を果たしてきたのかを改めて検証した。		

セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「日本の戦後美術資料の収集・公開・活用を考える～大阪新美術館建設準備室所蔵『具体美術協会』関係資料を中心に～」	開催年月日	平成 28 年 3 月 20 日
場所	国立新美術館講堂	聴講者数(人)	101
講師・パネリスト等の氏名(職名)	発表：鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)、高柳有紀子(大阪新美術館建設準備室学芸員)、平井章一(京都国立近代美術館主任研究員)、谷口英理(国立新美術館学芸課特定研究員) パネルディスカッション：鈴木勝雄、高柳有紀子、平井章一、谷口英理、平野到(埼玉県立近代美術館主任学芸員)、河崎晃一(甲南女子大学文学部メディア表現学科教授)		
内容	「具体美術協会」関係資料(大阪新美術館建設準備室所蔵)をはじめとする戦後美術資料のアーカイブを整備して国内外に発信し、有効活用するためには、現状の課題がどこにあり、これからどのような方向をめざすべきなのか考察したシンポジウム。大阪新美術館建設準備室、文化庁との共同開催。		

## ② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

### ア 東京国立近代美術館

フィルムセンターでは、ニューヨーク近代美術館(FIAF加盟機関)との共催による上映企画「日本が声を上げる！日本の初期トーキー映画特集」において、衣笠貞之助、小津安二郎、五所平之助、成瀬巳喜男ら、すでに知名度の高い監督たちによる作品を、初期トーキーの試みという新しい観点から提示するとともに、木村荘十二等これまで海外での紹介の少なかった監督への関心と呼ぶことができた。

また、フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ(FIAF加盟機関)との共催による第29回チネマ・リトロバート映画祭特集企画「豊穰と調和—日本の初期カラー映画特集」では、『ふるさとの歌』(溝口健二監督、1925年)の染調色復元、『地獄門』(衣笠貞之助監督、1953年)のデジタル復元や近年の館内企画で紹介した初期カラー作品の英語字幕付プリント等をおして、日本映画における色再現への多様な取組について理解を促進することに貢献した。

### イ 京都国立近代美術館

楽美術館、国際交流基金、開催各館が主催し、ロサンゼルス・カウンティ美術館、エルミタージュ美術館、プーシキン美術館で開催された「楽—茶碗の中の宇宙展」に企画協力し、松原龍一学芸課長が展覧会キュレーターを務めた。ウ 国立新美術館

平成 29 年度に香港文化博物館にて「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」を開催する方向で検討を重ねており、平成 28 年 3 月には担当研究員が香港へ協議のため赴いた。また、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」では、韓国国立現代美術館と 2 年にもわたる共同調査を行い、両国の現代美術の現況を紹介することができた。

### ③ その他海外の美術館との連携・協力

国立美術館本部では、第 71 回 FIAF 会議、ICOM 年次総会、CIMAM 年次大会等の国際会議へ出席した。

日豪美術館学芸員交流では、横山佐紀（国立西洋美術館主任研究員）が渡豪し、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館（シドニー）、ヴィクトリア国立美術館（メルボルン）、オーストラリア国立美術館（キャンベラ）、クイーンズランド州立美術館 | 現代美術館（ブリズベン）等を訪問した。

## （3）国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

### ア 東京国立近代美術館

#### （工芸館）

平成 26 年度に引き続き、金工の鈴木長吉《十二の鷹》（1893 年）の構造や保存状態等を東京藝術大学大学院美術研究科及び同大学美術館と協同して調査研究し、その成果を踏まえて同美術学部の彫金の専門家による 10 羽の現状保存修復を実施した。

#### （フィルムセンター）

ゴスフィルムフォンド、アカデミー・フィルム・アーカイブ、英国映画協会、スウェーデン映画協会、ユーゴスロベンスカ・キノテカ（以上 FIAF 加盟機関）、神戸映画資料館、記録映画保存センター、映画製作配給各社、現像所、個人等より、映画フィルムに関する新たな所在情報を得た。

ゴスフィルムフォンド、フィルムアルヒーフ・オーストリア（以上 FIAF 加盟機関）、映画製作配給各社、現像所、映画関連機器メーカー等との間で、映画フィルムの保存・修復に関する調査や情報交換を行った。また、研究員が FIAF テクニカル・トレーニング、オランダ視聴覚研究所冬季研修、英国映画協会「アーカイブの未来」、ジョイント・テクニカル・シンポジウム、「映画の復元と保存に関するワークショップ」等で開かれたシンポジウムやワークショップに参加することで、参加者との情報交換に努めた。

シネマテーク・フランセーズとの間で、映画ポスターの分類法について情報交換を行った。

鎌倉市川喜多映画記念館、神戸映画資料館、松永文庫など全国の映画資料館に対して寄贈資料重複分の分配を行った。

### イ 国立西洋美術館

全国美術館会議の保存研究部会に参加するなどして、国内他館と情報交換を行った。また、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所からの文化財虫菌害に係る指導を仰ぎ、虫菌害対策に努めている。さらに、一般財団法人日本建築学会 熱環境運営委員会 湿気小委員会文化財の保存と活用のための環境制御ワーキンググループの施設見学を総務課専門職員とともに受入れ、保存環境制御に係る情報交換を行った。

### ウ 国立国際美術館

International Symposium: Collecting and Exhibiting New Media Arts, 平成 27 年度第 3 回横浜美術館美術系専門職員研修において、Tate（イギリス）、ZKM（ドイツ）、国立台湾美術館（台湾）、韓国国立近代現代美術館（韓国）、京都市立芸術大学、ダムタイプオフィス、Voice of Contemporary Art（アメリカ）、LIMA media art platform（オランダ）、Digital Curation, University of Main（アメリカ）、Universalmuseum Joanneum（オーストリア）、

国立台湾芸術大学（台湾），横浜美術館等と現代美術，中でもタイムベースド・メディアの作品の収集・保存・修復についての調査及び情報交換を実施した。

#### (4) 所蔵作品の貸与等

##### ① 作品の貸与

館名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	本館	59	206	147	376
	工芸館	31	230	23	45
京都国立近代美術館		58	371	82	151
国立西洋美術館		13	36	46	81
国立国際美術館		17	52	14	25
計		178	895	312	678

東京国立近代美術館本館では，特別購入予算により購入したセザンヌ作品を「セザンヌ—近代絵画の父になるまで」（ポーラ美術館）に貸与した。また戦後70年を記念する企画展が相次いだ平成27年度，「画家たちと戦争：彼らはいかにして生き抜いたのか」（名古屋市美術館）及び「戦後70年 もうひとつの1940年代美術」（栃木県立美術館）に各5点を，「戦後70年記念 20世紀日本美術再見 1940年代」（三重県立美術館）に4点を，「広島・長崎被爆70周年記念—戦争と平和」（広島県立美術館，長崎県美術館）に2点を，それぞれ貸与し，美術館界の大きな動向を支えることに貢献した。個展では「第30回国民文化祭開催記念 梅原龍三郎展」（鹿児島市立美術館）に7点を，開館記念展協力では「新居浜—日本」（新居浜市総合文化施設）に5点を，それぞれ貸与した。海外への貸出実績としては，「The Artistic Journey of Yasuo Kuniyoshi」（スミソニアン・アメリカ美術館）に3点を貸与した。

東京国立近代美術館工芸館からは，文化庁が毎年開催している「日本のわざと美—重要無形文化財を保持する人々」展への大量貸出をはじめ，工芸館企画展「青磁のいま」が巡回した兵庫県陶芸美術館ほか各館，渋谷区立松濤美術館・茨城県陶芸美術館ほかを巡回した「最初の人間国宝 石黒宗磨のすべて」展等への貸出を行った。また工芸館所蔵名品展を5回シリーズで隔年開催している那須野が原博物館の第4回展「工芸ってすごい！」に大量貸出を行った。

京都国立近代美術館では，金沢21世紀美術館で開催された展覧会「生誕百年記念 井上有一」に，まとまったコレクションから39点を貸与した。

国立西洋美術館では，国内では，ふくやま美術館に対するピカソ《男と女》（1969年）の貸与をはじめ，重要所蔵作品を地方美術館に積極的に貸出し，地方都市において優れた美術品の鑑賞機会を増やすことに貢献した。国外では，学術的意義の高いパリとロンドンの「デュラン・リュエル」展（平成26年10月から平成27年9月にかけて，リュクサンブール美術館：パリ（この会場には貸出せず），ナショナル・ギャラリー：ロンドン，フィラデルフィア美術館：フィラデルフィアを巡回）に対するモネ作品の貸与や，日本国内の主要な印象派コレクションが一堂に会する機会となった「日本が愛した印象派 モネからルノワールへ」展（ドイツ連邦共和国美術展示館：ボン）に対する多数の作品の貸与を通じて，国内外に収蔵作品の意義を広く知らしめつつ，近代美術の調査研究の進展に貢献した。

国立国際美術館では，「日本が愛した印象派 モネからルノワールへ」展に対しセザンヌの作品1点を，「リュック・タイマンス」展（カタール美術館：カタール）に対しリュック・タイマンスの作品2点を貸与した。また，作品貸出にあたっての入出庫管理及び収蔵庫内保全を専門とするレジストラを1名配置した。

## ② 映画フィルム等の貸与

### ● 映画フィルム

館名		貸出		特別映写観覧		複製利用	
		件数	本数	件数	本数	件数	本数
東京国立近代美術館	フィルムセンター	102	231	102	365	48	94

### ● 映画関連資料

館名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	フィルムセンター	5	127	36	2,991

平成 26 年度に引き続き、海外での共催事業への提供や貸与が多かった。アマチュア映画を含む文化・記録映画への特別映写観覧が顕著だったことに加え、複製利用については、展覧会における展示映像としての使用を目的とした利用等が目立った。

映画フィルムの貸与では、フィルモテカ・デ・カタルーニヤ（FIAF 加盟機関）主催の第一回バルセロナ・アニメ・フェスティバルに対し、戦前日本アニメーション映画 10 本、南米を代表する映画祭、マル・デル・プラータ国際映画祭における伊藤大輔監督特集に対し、『忠次旅日記』[デジタル復元版]（1927 年）等 8 本の貸与を行った。

国内では、高崎映画祭、カナザワ映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭、新千歳国際アニメーション映画祭等の映画祭並びに神保町シアター、新文芸坐、ラピュタ阿佐ヶ谷、シネマヴェーラ渋谷等の名画座における特集上映に対して、番組に欠くことのできない作品について、所蔵プリントの貸与を行った。

特別映写観覧については、大学等教育研究機関、映画関連団体、映画及びテレビ番組製作会社、映画・映像に係る非営利法人等による調査・研究・研修等に、所蔵プリントの試写をとおして寄与した。また、複製利用については、著作権者等による運用、映像作品や番組における資料として提供したほか、神奈川近代文学館や博物館明治村を初め美術館・博物館等における展示作品の充実に貢献した。

映画関連資料については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出を行った。また資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じた。

## (5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

### ① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

10 年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、より多くの方々と研修成果を共有するため、従来冊子として発行してきた研修記録を平成 23 年度からウェブサイトで公開しているが、平成 27 年度も引き続き公開した。また、本研修において「教員免許状更新講習」を実施した。

- ・参加人数：98 名（小中学校教諭 27 名，中学校教諭 35 名，指導主事 12 名，学芸員 24 名）
- ・会期：平成 27 年 8 月 3 日，4 日（2 日間）
- ・会場：東京国立近代美術館（8 月 3 日），国立新美術館（8 月 4 日）
- ・教員免許状更新講習：受講者 17 名（全員に履修証明書を授与）

また、本研修開始10年目を記念し「10周年記念シンポジウム」を開催した。

- ・会期：平成27年8月2日
- ・会場：東京国立近代美術館 講堂

東京国立近代美術館工芸館では、東京都図画工作研究会との連携により、2日間にわたる研究授業を実施した。第1回目は1月22日に葛飾区立西小菅小学校において、6年生を対象に工芸鑑賞のワークショップを行った。第2回目は東京国立近代美術館工芸館において、1回目のワークショップでの経験を元に、6年生がファシリテーターとなって4年生に作品を鑑賞させる試みを行った。自身がファシリテーターになるという意識から、6年生については一般的な鑑賞プログラムの参加する以上のより能動的な取組の姿勢が確認できた。また、上級生のファシリテーターによるプログラムに参加したことから、4年生の中にも鑑賞の結果を「伝えたい」という意欲が目覚め、自由見学中に同級生同士で作品を紹介し合う様子が観察できた。

京都国立近代美術館では、京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会との共催で、小学校教員を対象に鑑賞教育の指導力向上に向けた講座を開催した。講演会、展覧会鑑賞、グループワーク等を実施し、53名の参加者があった。

国立西洋美術館では、東京都図画工作研究会、東京都中学校美術研究会、及び東京国立近代美術館、東京都美術館、東京都現代美術館、と連携して研修会を企画・実施した。

国立国際美術館では、大阪市教育センター、大阪市小学校教育研究会図画工作部等と連携して、大阪市内小・中学校の図画工作・美術教員を対象に研修会を8回実施し、計143名の参加者があった。

国立新美術館では、港区立小学校図工部会と港区ミュージアムネットワークの連携による研究会・交流会への参加したほか、「MIYAKE ISSEY展：三宅一生の仕事」において、先生のための解説会を実施した。

## ② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

### ア 国立美術館全体としての取組

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について、引き続き、各館から学校への貸出を行うほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介した。

### イ 京都国立近代美術館

「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」に関連し、市内小学校と連携し、6年生児童を対象に「和食の盛りつけを学び、おもてなしの工夫をしよう」という授業を実施した。京都ゆかりの芸術家・魯山人への理解を深めることだけにとどまらず、自ら調理した食材を地元の陶芸家から提供された器に盛り付けることで、和食におけるおもてなしの精神を体験してもらった。作品鑑賞活動とは別の軸で展開する学習支援活動の可能性が示唆されたとともに、学校との強固な連携により取組の幅が広がる可能性も示された。

### ウ 国立国際美術館

スクールプログラムで来館した児童生徒が、開催されている展覧会を問わず、鑑賞補助教材として作品鑑賞時に常時使用できる『アクティビティ・シート』を発行し、教職員が展覧会鑑賞とグループワークをとおして児童生徒の発達段階と学習目標に応じた学習指導案の検討を研鑽する「鑑賞学習を通した学びを考える会」を実施した。



(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		インターンシップ受入人数	博物館実習受入人数
東京国立近代美術館	本館	7	—
	工芸館	2	0
	フィルムセンター	1	15
京都国立近代美術館		2	—
国立西洋美術館		11	—
国立国際美術館		8	—
国立新美術館		9	—
計		40	15

(7) 全国的美術館等との連携・人的ネットワークの構築

① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	2	3
	工芸館	1	2
	フィルムセンター	5	5
京都国立近代美術館		3	6
国立西洋美術館		1	3
国立国際美術館		1	3
国立新美術館		6	7
計		19	29

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

ア 東京国立近代美術館

（本館）

「生誕 110 年 片岡球子展」について、地元作家として片岡球子の作品を多数所蔵し、また研究や情報の蓄積が進んでいる北海道立近代美術館の協力により、作品の大量借用、長らく行方不明とされてきた作品の発掘、スケッチ等資料類の調査が実現した。調査は北海道立近代美術館、展覧会の巡回先である愛知県美術館の学芸員、東京国立近代美術館の展覧会担当者によって行われ、その成果を反映するものとして、展示構成、展覧会担当者による図録テキスト等以外にも北海道立近代美術館学芸員の論考を展覧会図録に収録した。スケッチブックの調査は、展覧会開催後も同氏により、平成 27 年度の公益財団法人ポーラ美術振興財団による「美術館職員の調査研究助成」を受けて継続して行われ、展覧会担当者も調査協力者として調査に参加した。

（フィルムセンター）

例年どおり、「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films 2015」（京都国立近代美術館との共催）及び「第 10 回中之島映像劇場」（国立国際美術館との共催）を、各館と協議しながら作品の選定、提供を行った。関西における所蔵フィルムの定期的な上映拠点として、より堅固な地盤を築くことができた。また、若手美術監督等の育成及び映画美術の研究に活用することを目的とし、映画美術資料の調査及び整理とその画像のデジタル化を行う「日本映画美術遺産プロジェクト」を協同組合日本映画・テレビ美術監督協会と引き続き共同で行った。

## イ 国立新美術館

「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」では、韓国国立現代美術館と2年に亘る共同調査を行い、両国の現代美術の現況を紹介することができた。

## ② キュレーター研修

館名	受入人数	
東京国立近代美術館	本館	2
	工芸館	2
京都国立近代美術館		1
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		1
国立新美術館		1
計		7

## (8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

### ① 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動

ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 映画部門 (FIAF 加盟機関) の特別協力を得て「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」を開催した。

フィルムアルヒーフ・オーストリア (FIAF 加盟機関) の特別協力を得て「シネマの冒険 闇と音楽 2015 フィルムアルヒーフ・オーストリアの無声映画コレクション」を開催した。

福岡市総合図書館 (FIAF 加盟機関) との共同主催により「現代アジア映画の作家たち 福岡市総合図書館コレクションより」を開催した。

### ② 日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。フィルムセンターとしては平成27年度も公開データベースへの接続に関する協力を行っている。

### ③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成27年度中に日本劇映画の作品情報419件を新たに公開し、公開件数は累計7,140件となった。

### ④ 映画関係団体等との連携

- ・国内団体との連携は、共催巡回事業を通じて、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの連携及び実施会場となった高崎映画祭、札幌映画サークル、一般社団法人名古屋シネマテーク、特定非営利活動法人コミュニティシネマ大阪、川崎市市民ミュージアム、アテネ・フランセ文化事業株式会社等への協力を行った。また、映画フィルムの貸与を通じて、特定非営利活動法人映画美学校、PFF事務局、有限会社独立プロ名画保存会、日本大学芸術学部、東京藝術大学大学院等、特別映写観覧を通じては、日本映画撮影監督協会、日本映像学会、東京藝術大学、新潟大学、早稲田大学、立教大学、明治学院大学等への協力を行った。
- ・海外団体との連携は、共催事業を通じて、ニューヨーク近代美術館 (アメリカ)、フォンダツォオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ (イタリア)、チネテカ・デル・フリウリ (イタリア)。以上 FIAF 加盟機関)、オーバーハウゼン国際短篇映画祭 (ドイツ) への協力を行った。また、映画フィルムの貸与を通じて、韓国映像資料院、ドイツ映画博物館、ミュンヘン映画博物館 (ドイツ)、フィルモテカ・デ・カタルーニャ (スペイン)、クイーン

ズランド・アート・ギャラリー（オーストラリア）、アイ・フィルム・インスティテュート（オランダ）、ドミニカ共和国シネマテーク（以上 FIAF 加盟機関）、パリ日本文化会館（フランス）、イフラヴァ国際ドキュメンタリー映画祭（チェコ）、マル・デル・プラータ国際映画祭（アルゼンチン）等、特別映写観覧ではロンドン大学（イギリス）、イェール大学（アメリカ）等への協力を行った。

- ・日本映画・テレビ美術監督協会と連携して「日本映画美術遺産プロジェクト」を行い、映画美術資料を調査及び整理するとともに、映画美術資料のデジタル化と保存を進めてきたが、6年目となる平成 27 年度で終了した。また、シナリオ作家協会との協議により、必要に応じて同協会会員の旧蔵シナリオのフィルムセンター寄贈が検討されることとなっている。
- ・映画関連資料を収集・保存・公開している全国の施設・団体に対し、2010 年の第 1 回に続いてアンケート調査を実施し、その成果を「全国映画資料館録 2015」として発行した。

#### ⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討

平成 27 年度も館の内外で独立のための検討を行ったが、必要な人員が確保できなかったため、独立には至らなかった。しかし、今後の独立に向け篤志団体から寄附を受けることができた。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務の効率化のための取組

#### (1) 各美術館の共通的な事務の一元化

引き続き、理事長の指示による事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行した。また、法人内で採用している VPN (Virtual Private Network : 暗号化された通信網) を用いたグループウェア及びテレビ会議システム、特にテレビ会議システムについては、定期的な会議等に積極的に活用している。

#### (2) 使用資源の削減

##### ① 省エネルギー（5年計画中に5%の削減）

##### ● 使用量、使用料金の削減割合（対平成22年度比）

館名		使用量			使用料金		
		電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館	本館	81.8%	92.2%	85.6%	94.7%	111.0%	100.1%
	工芸館	83.3%	—	83.3%	101.9%	—	101.9%
	フィルムセンター	86.2%	—	86.2%	108.8%	—	108.8%
	フィルムセンター相模原分館	107.4%	—	107.4%	305.4%	—	305.4%
京都国立近代美術館		71.8%	35.8%	59.5%	98.9%	49.5%	84.2%
国立西洋美術館		81.8%	86.4%	83.4%	115.2%	103.9%	111.2%
国立国際美術館		82.9%	—	82.9%	128.1%	—	128.1%
国立新美術館		94.0%	96.0%	94.6%	124.6%	111.3%	120.9%
計		90.2%	85.2%	88.9%	126.0%	105.1%	120.6%

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量の合計は、電気は一般電気事業者からの昼間買電を 9.97GJ/千 kWh、夜間買電を 9.28GJ/千 kWh、特定規模電気事業者からの買電を 9.76GJ/千 kWh、都市ガスを 45GJ/千 kWh に換算し得た熱量に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値(原単位)を基礎とする(エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく)。

#### 特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季 28℃、冬季 19℃）、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類のこまめな停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者の元で、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS (Building and Energy Management System) により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

さらに、平成 26 年度に引き続いて「2015 年度夏季の電力需給対策について（27 文科施第 109 号）」及び「2015 年度冬季の電力需給対策について（27 文科施第 372 号）」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

##### (1) 設備・機器等の使用抑制

##### ① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応

- ・設定温度夏期 28℃，冬期 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏期は直射日光を遮光，冬期は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃
- ② 照明に係る節電
  - ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
  - ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
  - ・昼休みの消灯を徹底
  - ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）
- ③ エレベータ，エスカレータ
  - ・必要最小限度の運転，階段利用の促進
- ④ 衛生設備に係る節電
  - ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
  - ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
  - ・暖房便座，温水洗浄の停止
  - ・便所温風器（手乾かし器）の停止
- ⑤ OA 機器等
  - ・一定期間使用しない場合の電源の切断
  - ・節電モードでの使用を徹底
  - ・プリンタ，コピー機等の使用制限
- ⑥ その他
  - ・ノー残業デーの推進
  - ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
  - ・冬期のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
  - ・各テナントへの節電の協力要請
  - ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定
- (2) 夏期休暇等の確実な取得
 

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

  - ・夏期休暇の完全取得，夏期における年次休暇の計画的長期取得
- (3) その他
  - ・超過勤務の一層の縮減
  - ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
  - ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の電気使用量の増加は，平成 23 年 3 月に収蔵庫増築工事が竣工したこと及び平成 26 年 3 月に重要文化財映画フィルム保存庫が竣工したためである。

京都国立近代美術館のガス使用量及び使用料金の減少は，平成 23 年度末に空調機をガスを用いるものから電気を用いるものに更新したためである。

なお，法人全体ではエネルギー使用量は 11.1%の削減を達成しているが，使用料金は供給各社の値上げ等の影響により 20.6%の増加となっている。

## ② 廃棄物減量化

### ● 排出量，廃棄料金の削減割合（対平成 22 年度比）

館名		排出量			廃棄料金	
		一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館	本館	68.1%	71.1%	69.3%	70.0%	83.7%
	工芸館	50.3%	75.0%	53.8%	51.7%	86.3%
	フィルムセンター	92.0%	293.2%	181.1%	132.3%	772.6%
京都国立近代美術館		76.5%	307.6%	132.2%	102.9%	18.5%
国立西洋美術館		114.7%	43.4%	84.4%	83.5%	48.5%
国立国際美術館		58.4%	—%	84.5%	72.0%	1471.9%
国立新美術館		92.9%	89.4%	92.2%	117.6%	100.5%
計		91.0%	104.5%	94.8%	103.4%	121.2%

※東京国立近代美術館フィルムセンターには，東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館を含む。

#### 特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては，開館日数や入館者数の増減による影響など，業務の性質上，廃棄物の計画的な削減が難しいものの，引き続き，事務・研究部門における電子メール，グループウェアの活用による通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化，両面印刷の促進等による用紙の節減に努めるとともに，古紙の分別回収による再資源化を進めることにより，廃棄物の削減を図った。一般廃棄物の排出量は減少しているが，排出料金が増加している要因は，排出料金の単価が変動しているためである。産業廃棄物の排出量及び廃棄料金の増加は，展覧会に使用した部材の廃棄に伴う増加といった一時的な要因によるものが主である。

東京国立近代美術館フィルムセンター（相模原分館を含む）の産業廃棄物の排出量の増加は，平成 23 年 3 月に収蔵庫増築工事が竣工したこと及び平成 26 年 3 月に重要文化財映画フィルム保存庫が竣工したためである。

京都国立近代美術館の産業廃棄物については，基準値である平成 22 年度と算出方法が異なるため，排出量及び廃棄料金が大幅に変動している。

国立国際美術館の産業廃棄物の排出量は，基準値である平成 22 年度と測定単位が異なるため，比較することが出来ない。

国立国際美術館の産業廃棄物の廃棄料金は，平成 27 年度に館内整理を行ったことにより一時的に増加したものである。また，基準となる平成 22 年度の廃棄料金が著しく少なかったため，相対的に大幅な増加となっている。

## ③ リサイクルの推進

平成 26 年度に引き続き，古紙含有率 100%のコピー用紙の利用，廃棄物の分別，OA 機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行い，リサイクルの推進に努めた。

### (3) 美術館施設の利用推進

#### ● 外部への施設の貸出

各館の貸出施設名			貸出日数
東京国立近代美術館	本館	講堂	20
	フィルムセンター	小ホール	1
		会議室	2
京都国立近代美術館		講堂	9
		会議室	3
国立西洋美術館		講堂	28
		会議室	10
国立国際美術館		講堂	3
		会議室	0
国立新美術館		講堂	122
		研修室A	119
		研修室B	101
		研修室C	66
計			484

#### 特記事項

当該施設については、展覧会事業にあわせた講演会やシンポジウム等に使用するものであるが、事業に差し支えない範囲で貸出を行った。

### (4) 民間委託の推進

#### ① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 会場管理業務, (イ) 設備管理業務, (ウ) 清掃業務,
- (エ) 保安警備業務, (オ) 機械警備業務, (カ) 収入金等集配業務,
- (キ) レストラン運營業務, (ク) アートライブラリ運營業務,
- (ケ) ミュージアムショップ運營業務, (コ) 美術情報システム等運営支援業務,
- (サ) ホームページサーバ運用管理業務, (シ) 電話交換業務,
- (ス) 展覧会アンケート実施業務, (セ) 省エネルギー対策支援業務,
- (ソ) 展覧会情報収集業務

「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行った東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運營業務（展示事業の企画等を除く。以下同じ。）並びに東京国立近代美術館フィルムセンターの管理運營業務、国立新美術館の管理運營業務は、契約事務の軽減、統括管理業務導入による事務と委託業務の効率化、民間事業者の相互連携の推進による適確な業務の実施とともに、それぞれの業務の専門的知識を活かした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

また、東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運營業務については、平成 27 年度より「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則った民間競争入札は終了したが、引き続き民間競争入札を行っている。

## ② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務, (イ) 広報物等発送業務, (ウ) 交通広告等掲載,
- (エ) ホームページ改訂・更新業務, (オ) インターネット検索サイト,
- (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務,
- (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務, (ク) 画像貸出業務

## (5) 競争入札の推進

### 一般競争入札の実績

ア 契約件数及び契約金額（少額随契を除く） 229 件, 10,717,289,788 円

イ 契約種別毎の年間契約数

① 競争性のある契約 99 件 (43.2%), 3,490,044,748 円 (32.6%)

#### 【内訳】

- ・一般競争入札 84 件, 3,354,499,699 円
- ・企画競争, 公募 12 件, 122,803,013 円
- ・不落随契 3 件, 12,742,036 円

② 競争性のない随意契約 130 件 (56.8%), 7,227,245,040 円 (67.4%)

#### 【内訳】

- ・同一所管公益法人等の契約 2 件, 3,141,783,540 円
- ・同一所管公益法人等以外の法人等 128 件, 4,085,461,500 円  
(うち美術作品の購入に関する随意契約 78 件, 3,381,292,952 円)

ウ 公益調達適正化（財計第 2017 号）等に即した実施状況

別紙 1 を参照

### 特記事項

平成 27 年度において、競争性のない随意契約の占める割合は、件数では全体の 56.8%、金額では全体の 67.4%となっている。このうち、同一所管公益法人等の契約（2 件, 3,141,783,540 円）は、国立新美術館の土地購入及び土地借料である。また、同一所管公益法人等以外の法人等の契約（128 件, 4,085,461,500 円）の中には、国立美術館特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約（78 件, 3,381,292,952 円）が含まれている。これらの特殊な事由を除く比率で比較すると、競争性のない随意契約の割合は件数で全体の 33.6%、金額は全体の 16.8%となる。

少額随契又は真にやむを得ない場合を除き、一般競争入札や公募、企画競争等の実施により競争性の確保に努めている。

## 2 事業評価及び職員の研修等

### ① 外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を 2 回（平成 27 年 7 月 31 日及び平成 28 年 3 月 8 日）開催し、平成 26 年度事業実績並びに、平成 27 年度事業の実施状況及び平成 28 年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を 2 回（平成 27 年 5 月 12 日及び 6 月 18 日）開催し、平成 26 年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。



#### イ 東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を2回（平成27年7月28日及び平成28年2月19日）、評議員会（映画部会）を2回（平成27年6月24日及び平成28年2月18日）開催し、平成26年度事業実績、平成27年度事業の実施状況及び平成28年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回（平成27年7月29日）開催し、平成26年度事業実績、平成27年度年度計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### エ 国立西洋美術館

評議員会を1回（平成27年12月14日）開催し、平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### オ 国立国際美術館

評議員会を1回（平成28年3月1日）開催し、平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

#### カ 国立新美術館

評議員会を2回（平成27年7月30日、平成28年3月18日）開催し、平成26年度事業報告及び平成27年度事業計画（案）等について説明聴取の上、今後の運営について意見交換を行った。

顧問会を1回（平成28年3月23日）開催し、広い見知から現代の美術及び美術館に関する意見をいただいた。

### 3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、個人情報の流出防止のため、「独立行政法人国立美術館保有個人情報等管理規則」の改正を行うとともに、国立美術館全職員を対象として「情報セキュリティ研修」を実施するなど、職員の意識向上に努めた。また、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格に書類管理を行った。さらに、ウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

### 4 人件費の抑制、給与体系の見直し

#### ① 人件費決算

決算額 946,837千円（対平成26年度比較 102.1%）

・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

#### ② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。また、平成27年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、人事院勧告を踏まえた給与体系の見直し及び俸給・諸手当にかかる給与改定を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成26年度）」平成27年9月30日総務省公表資料を参照。）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国との比較〉平成26年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	43.5歳	40.3歳
学歴（大学卒の割合）	54.7%	80%
調整手当支給率 ※1	42.5%	100%

※1 1級地、2級地及び5級地の支給地の割合（国家公務員全体）

〈他の独立行政法人との比較〉平成26年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	6,627千円	6,134千円
平均年齢	43.6歳	40.3歳
ラスパイレス指数 ※2	101.9	98.5

※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国との比較〉平成26年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	45.4歳	47.7歳
学歴（大学卒の割合）	97.9%	100%
調整手当支給率 ※3	42.5%	100%

※3 1級地、2級地及び5級地の支給地の割合（国家公務員全体）

〈他の独立行政法人との比較〉平成26年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	8,875千円	8,987千円
平均年齢	44.6歳	47.7歳
ラスパイレス指数 ※4	98.4	95.5

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

平成26年度実績

項目	国立美術館
法人の長	19,062千円
理事	15,999千円

※「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成26年度）」（総務省公表資料）では常勤役員にかかる平均報酬額が公表されていないため当法人の実績のみ記載。

③ 平成27年度の役職員の報酬・給与等について

別紙2「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

### Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

#### 1 予算

（単位：百万円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,471	7,471	0
展示事業等収入 【注1】	1,106	1,267	161
受託収入 【注2】	—	43	43
寄附金収入 【注3】	—	702	702
施設整備費補助金 【注4】	3,505	4,118	614
文化芸術振興費補助金 【注5】	—	220	220
計	12,082	13,822	1,740
支出			
運営事業費	8,577	9,172	△596
管理部門経費	1,305	1,404	△99
うち人件費 【注6】	301	322	△21
うち一般管理費 【注7】	1,004	1,082	△78
事業部門経費	7,272	7,769	△497
うち人件費 【注6】	801	842	△41
うち展覧事業費 【注8】	5,292	5,701	△409
うち調査研究事業費 【注9】	178	197	△20
うち教育普及事業費 【注10】	1,001	1,028	△27
受託事業費 【注2】	—	43	△43
施設整備費 【注4】	3,505	4,118	△614
文化芸術振興費 【注5】	—	220	△220
計	12,082	13,554	△1,473
収支差引	—	268	268

主な増減理由

【注1】 入場料収入等の増加による。

【注2】 文化庁からの受託事業による。

【注3】 国立美術館が行う事業に対する寄附の受入れによる。

【注4】 前年度予算に係る工事の完了による。

【注5】 文化庁による美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業及び地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業、Osaka Free Wi-Fi 設置促進補助金による。

【注6】 予定外の退職手当の支出及び社会保険料の事業主負担率の増加による。

【注7】 目的積立金の取崩し及び寄附金を財源とした経費の増加等による。

【注8】 寄附金を財源とした経費及び入館者数の増加に伴う経費の増加による。

【注9】 寄附金を財源とした経費の増加及び目的積立金の取崩しによる。

【注10】 寄附金を財源とした経費の増加による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

#### 特記事項

一般管理費、展覧事業費、調査研究事業費及び教育普及事業費を合わせた物件費は、寄附金及び目的積立金を財源とした経費の増加、ならびに美術作品購入費の運営費交付金債務の前期繰越額の支出、入館者数の増加に伴う経費の増加等により、予算に比べ534百万円の支出増となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことから、予算に比べ 161 百万円の収入増となった。

施設整備費補助金は、平成 25 年度補正予算及び平成 26 年度補正予算による工事が当期へ繰越になったこと等により、計画額より 614 百万円支出増となった。

寄附金については、702 百万円を獲得した。うち 7 百万円を平成 27 年度の収益とし、残りの 695 百万円を平成 28 年度以降に繰り越して執行する予定である。

## 2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	5,327	5,958	△631
管理部門経費	1,281	1,639	△358
うち人件費 【注1】	301	471	△170
うち一般管理費 【注2】	980	1,168	△188
事業部門経費	3,883	4,104	△221
うち人件費 【注3】	801	693	108
うち展示事業費 【注4】	1,925	2,063	△138
うち調査研究事業費 【注5】	176	329	△153
うち教育普及事業費 【注6】	981	1,019	△38
受託事業費 【注7】	—	43	△43
減価償却費	163	171	△8
収益の部			
経常収益	5,327	6,147	820
運営費交付金収益 【注8】	4,058	4,010	△48
展示事業等の収入 【注9】	1,106	1,267	161
資産見返運営費交付金戻入	148	156	8
資産見返寄附金戻入	3	2	△1
資産見返物品受贈額戻入	12	9	△3
資産見返補助金等戻入	—	6	6
受託収入 【注7】	—	43	43
補助金等収益 【注10】	—	153	153
寄附金収益 【注11】	—	354	354
施設費収益 【注12】	—	147	147
経常利益		190	
臨時損失		2	
臨時利益		0	
当期純利益		187	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		34	
当期総利益		221	

主な増減理由

【注 1】 支出経費の見直しによる。

【注 2】 目的積立金の取崩し及び寄附金を財源とした経費の増加等による。

【注 3】 支出経費の見直しによる。

【注 4】 寄附金を財源とした経費及び入館者数の増加に伴う経費の増加による。

- 【注 5】 補助金による経費及び寄附金を財源とした経費の増加による。  
 【注 6】 補助金による経費及び寄附金を財源とした経費の増加による。  
 【注 7】 文化庁からの受託事業による。  
 【注 8】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より多かったことによる。  
 【注 9】 入館者数の増加による。  
 【注 10】 補助金による支出による。  
 【注 11】 寄附金による支出による。  
 【注 12】 施設整備費補助金による支出による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

### 3 資金計画

(単位：百万円)

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	12,082	12,969	△887
業務活動による支出 【注1】	8,444	9,270	△826
投資活動による支出 【注2】	3,638	3,699	△61
財務活動による支出	—	—	—
資金収入	12,082	13,379	1,297
業務活動による収入	8,577	9,662	1,085
運営費交付金による収入	7,471	7,471	0
展示事業等による収入 【注3】	1,106	2,191	1,085
投資活動による収入	3,505	3,716	211
施設整備補助金による収入 【注4】	3,505	3,716	211
資金増減額		410	
資金期首残高		1,697	
資金期末残高		2,107	

主な増減理由

- 【注 1】 運営費交付金の前期繰越額による美術品・収蔵品の購入及び寄附金による支出による。  
 【注 2】 平成 25 年度補正予算及び平成 26 年度補正予算による工事の完了による。  
 【注 3】 入場料収入及び寄附金収入、補助金収入等の増加による。  
 【注 4】 平成 26 年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成 27 年度の収入となったこと及び平成 27 年度施設整備費補助金の精算に伴い、一部が平成 28 年度の収入になることによる。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

#### 4 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	3,301	I 流動負債	2,934
II 固定資産		II 固定負債	831
1. 有形固定資産	182,887		
2. 無形固定資産	33	負債合計	3,765
固定資産合計	182,920		
		純資産の部	
		I 資本金	81,019
		II 資本剰余金	100,705
		III 利益剰余金	733
		純資産合計	182,456
資産の部 合計	186,222	負債及び純資産の部 合計	186,222

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

#### 5 短期借入金

実績なし

#### 6 重要な財産の処分等

実績なし

#### 7 剰余金

##### (1) 当期末処分利益の処分計画

(単位：円)

区分	金額
I 当期末処分利益	221,418,926
当期総利益	221,418,926
II 積立金振替額	375,840,066
前中期目標期間繰越積立金	375,840,066
III 利益処分類	
積立金	597,258,992

平成 27 年度未処分利益については、中期計画の剰余金の用途において定めた施設・整備の充実、教育普及事業の充実、調査研究事業の充実、入館者サービスの充実及び資料の収集事業の充実等に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第 44 条第 3 項に定める目的積立金として申請する。

##### (2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

##### 特記事項

国立新美術館で開催した「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」の平成 27 年度中の目標入館者数が 165,000 人に対して入館者数 447,142 人であったこと及び「マグリット展」の平成 27 年度中の目標入館者数が 158,000 人に対して入館者数が

317,084人であったことなどにより、予算額を上回る自己収入を得ることができた。また、入館者数が増加したことにより、国立新美術館のレストラン及びミュージアムショップの賃貸料が増加したことも自己収入の増加の要因となった。

### (3) 目的積立金の使用状況

今中期目標期間における目的積立金について、平成27年度は以下のとおり使用した。

区 分	金額 (円)	使用内容
施設設備積立金	24,076,224	施設の整備に係る経費による
	34,696,481	固定資産の取得による
教育普及事業積立金	4,000,000	教育普及事業に係る経費による
調査研究事業積立金	4,285,595	調査研究事業に係る経費による
資料収集事業積立金	1,598,240	資料の収集に係る経費による
	1,481,760	固定資産の取得による
計	70,138,300	

### (4) 積立金（通則法第44条第1項）の状況

(単位：円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
前中期目標期間繰越積立金	376,142,466	-	302,400	375,840,066
施設設備積立金	31,951,800	26,820,905	58,772,705	-
教育普及事業積立金	-	4,000,000	4,000,000	-
調査研究事業積立金	4,285,595	-	4,285,595	-
資料収集事業積立金	-	3,080,000	3,080,000	-
積立金	133,765,041	1,611,780	-	135,376,821

平成27年度未処分利益については、中期計画の剰余金の使途において定めた施設・整備の充実、教育普及事業の充実、調査研究事業の充実、入館者サービスの充実及び資料の収集事業の充実等に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第44条第3項に定める目的積立金として申請する。また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリースによる減価償却費相当額である。

## 8 人事に関する計画

### 職種別人員の増減状況（過去5年分）

(単位：人)

職種	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
定年制研究系職員	57	54	50	50	49
定年制事務系職員	51	45	49	47	49
定年制技能・労務系職員	3	3	2	2	2
指定職相当職員	2	1	2	2	2

- ① 「公務員の給与改定に関する取扱について（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

## ② 人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

## ③ 職員の研修等

### ア 東京国立近代美術館

- ・国立美術館「平成 27 年度メンタルヘルス研修」(19名)
- ・国立美術館「平成 27 年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」(16名)
- ・国立美術館「平成 27 年度ハラスメント研修」(16名)
- ・国立美術館「平成 27 年度ビジネス文書研修」(17名)
- ・国立美術館「情報セキュリティ研修」(全職員)
- ・東京大学主催「平成 27 年度東京大学係長級研修初任者」(1名)
- ・国立公文書館主催「平成 27 年度公文書管理研修 I」(3名)
- ・文部科学省主催「平成 27 年度学芸員等在外派遣研修」(1名)
- ・放送大学「修士科目性」(3名)
- ・放送大学「科目履修生」(6名)
- ・財務省会計センター主催「第 44 回会計事務職員契約管理研修」(1名)
- ・平成 27 年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修(1名)
- ・避難誘導訓練(本館：平成 27 年 10 月 22 日，工芸館：平成 28 年 3 月 17 日)
- ・フィルムセンター消防訓練(京橋：平成 27 年 9 月 3 日・平成 28 年 3 月 23 日，相模原分館：平成 27 年 5 月 26 日・平成 27 年 12 月 2 日)

### イ 京都国立近代美術館

- ・文部科学省大臣官房文教施設企画部「公共工事入札契約適正化等に関する講習会」(1名)
- ・文部科学省生涯学習政策局「平成 27 年度学芸員等在外派遣研修」(1名)
- ・総務省近畿管区行政評価局「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」(1名)
- ・総務省近畿管区行政評価局「平成 27 年度近畿地区行政管理・評価セミナー」(2名)
- ・大阪大学「平成 27 年度大阪大学係長研修(新任)」(1名)
- ・東京文化財研究所「平成 27 年度保存担当学芸員研修」(1名)
- ・国立美術館「平成 27 年度メンタルヘルス研修」(1名)
- ・国立美術館「平成 27 年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」(1名)
- ・国立美術館「平成 27 年度ハラスメント研修」(3名)
- ・国立美術館「平成 27 年度ビジネス文書研修」(2名)
- ・国立美術館「情報セキュリティ研修」(全職員)
- ・自衛消防訓練(平成 28 年 1 月 22 日)

### ウ 国立西洋美術館

- ・国立美術館「平成 27 年度新任職員接遇・クレーム・仕事の進め方研修」(3名)
- ・国立美術館「平成 27 年度メンタルヘルス研修」(4名)
- ・国立美術館「平成 27 年度ハラスメント研修」(5名)
- ・国立美術館「平成 27 年度ビジネス文書研修」(4名)
- ・国立美術館「情報セキュリティ研修」(全職員)
- ・総務省「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修」(1名)
- ・国立情報学研究所「平成 27 年度 JAIRO Cloud 講習会及び機関リポジトリ新任担当者研修」(1名)
- ・上野警察署「多数集客施設におけるテロ対処訓練(会場：東京国立博物館)」(7名)
- ・上野警察署「多数集客施設におけるテロ対処訓練(会場：東京都美術館)」(2名)



## エ 国立国際美術館

- ・厚生労働省大阪労働局「公正採用選考人権啓発セミナー」（1名）
- ・国立美術館「平成27年度メンタルヘルス研修」（1名）
- ・国立美術館「平成27年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」（2名）
- ・国立美術館「平成27年度ハラスメント研修」（1名）
- ・国立美術館「平成27年度ビジネス文書研修」（2名）
- ・国立美術館「情報セキュリティ研修」（全職員）
- ・人事院主催「第74回近畿地区中堅係員研修」（1名）
- ・人事院主催「第38回近畿地区課長研修」（1名）
- ・九州国立博物館主催「平成27年度ミュージアムIPM研修（基礎編）」（2名）
- ・国立公文書館主催「平成27年度公文書管理研修Ⅰ（第5回）」（1名）
- ・奈良先端科学技術大学院大学「タイムマネジメント研修」（1名）
- ・奈良先端科学技術大学院大学「業務改善研修」（1名）
- ・公益財団法人文化財虫菌害研究所「第37回文化財虫菌害防除作業に関する講習会」（1名）
- ・総務省近畿管区行政評価局主催「平成27年度近畿地区行政管理・評価セミナー」（2名）
- ・中之島まちみらい協議会「2015年度『第2回中之島エリアの防災ワークショップ』」（2名）
- ・津波警報避難訓練（大阪市立科学館合同実施：平成27年6月4日）

## オ 国立新美術館

- ・平成27年度アーカイブズ・カレッジ（1名）
- ・国立公文書館主催「平成27年度公文書管理研修Ⅰ」（1名）
- ・国立美術館「平成27年度メンタルヘルス研修」（4名）
- ・国立美術館「平成27年度接遇・クレーム・仕事の進め方研修」（11名）
- ・国立美術館「平成27年度ビジネス文書研修」（7名）
- ・国立美術館「情報セキュリティ研修」（全職員）
- ・平成27年度知的財産研修（初級）（1名）
- ・平成27年度図書館等職員著作権実務講習会（1名）
- ・自衛消防・防災訓練（平成27年9月8日，平成28年3月22日）
- ・放送大学「科目履修生」（1名）

## 9 施設整備に関する計画

東京国立近代美術館自動制御機器一式更新工事，東京国立近代美術館自家用発電機設備改修工事，東京国立近代美術館ハロン消火設備他改修工事，東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館直流電源装置更新工事，京都国立近代美術館館内鑑賞改善工事，国立西洋美術館建物改修工事，国立西洋美術館監視カメラ装置等更新工事，国立西洋美術館本館熱源機器設備等改修工事及び国立新美術館還水配管更新工事について平成27年度に竣工した。さらに，平成19年度からの継続事業として国立新美術館の土地購入を行った。

## 10 関連公益法人

該当なし。

「公共調達適正化について」（財計第 2017 号）等に即した独立行政  
法人における実施状況調書  
（独立行政法人名 国立美術館）

1. 公共調達の適正化についての実施状況

(1) 再委託の適正化を図るための措置

措置済み      ・一部未措置（      ）      ・未措置（      ）

(2) 契約に係る情報の公表

措置済み      ・一部未措置（      ）      ・未措置（      ）

○各支店・支社等で公表を行っている場合に、法人のメインの公表  
ページへの直接リンクを行っているか

措置済み      ・未措置（      ）      ・支店等がない

(3) 公共調達に関する問合せの総合窓口の設置

措置済み      ・未措置（      ）

○措置済みと回答した場合

・連絡先等（本部事務局財務担当係）

・URL（<http://www.artmuseums.go.jp>）

(4) 内部監査の実施

(イ) 監査計画等に随意契約の重点的監査を記載

措置済み      ・未措置（      ）

(ロ) 監査マニュアル等の整備

措置済み      ・未措置（      ）

(ハ) 内部監査の実施状況をデータベース化している。

措置済み      ・未措置（      ）

(5) 決裁体制の強化

措置済み      ・未措置（      ）

・具体的な措置内容（複数の係による監査を行っている）

2. 随意契約の適正化の一層の推進についての実施状況

(1) 随意契約見直し計画の厳正な実施の徹底

措置済み      ・一部未措置（      ）      ・未措置（      ）

(2) 監事の入札・契約の適正な実施についての徹底的なチェック

措置済み      ・未措置（      ）

(3) 府省の独立行政法人評価委員会による、入札・契約事務の適正執行についての厳正な評価

措置済み      ・未措置 (      )

3. 平成 26 年度各独立行政法人が行う随意契約の見直し状況フォローアップについての公表状況

公表済み      ・未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

4. 平成 27 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

公表済み      ・未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 2・四半期分】

公表済み      ・未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 3・四半期分】

公表済み      ・未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 4・四半期分】

公表済み      ・未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

5. 平成 27 年度に締結した「競争性のない随意契約」に係る契約情報の公表状況

【第 1・四半期分】

公表済み      ・未措置 (      )

公表済みと回答した場合

・URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第 2・四半期分】

公表済み      ・未措置 (      )

- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第3・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【第4・四半期分】

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

6. 「1者応札・1者応募」に係る改善方策の公表状況
----------------------------

- 公表済み ・ 未措置 ( )
- 公表済みと回答した場合
  - ・ URL (<http://www.artmuseums.go.jp/06/0601.html>)

【記載要領】

- ・ いずれかを○で囲むこと
- ・ 一部未措置又は未措置である場合は、実施予定時期を記載すること

## I 役員報酬等について

## 1 役員報酬についての基本方針に関する事項

## ① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。

以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

## ② 平成27年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。平成27年度においては、平成26年度の評価結果を基に検討の結果、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

## ③ 役員報酬基準の内容及び平成27年度における改定内容

## 法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(984,000円)及び地域手当(俸給月額の18.5%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合には100分の147.5、12月に支給する場合には100分の167.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

なお、平成27年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、①地域手当支給率の引き上げ(東京都特別区18%→18.5%)、②期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

## 理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(761,000円から912,000円)及び地域手当(東京都特別区18.5%、大阪市15.5%京都市10%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合には100分の147.5、12月に支給する場合には100分の167.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

なお、平成27年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、①地域手当支給率の引き上げ(東京都特別区18%→18.5%、大阪市15%→15.5%)、②期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

## 監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額80,000円としている。なお、平成27年度においては改定は行っていない。

2 役員の報酬等の支給状況

役名	平成27年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)		就任	退任	
法人の長	千円 19,222	千円 11,808	千円 5,183	千円 2,184 (地域手当) 47 (通勤手当)			
A理事	千円 17,161	千円 10,944	千円 4,510	千円 1,094 (地域手当) 145 (通勤手当) 468 (単身赴任手当)			
B理事	千円 17,423	千円 10,944	千円 4,700	千円 1,696 (地域手当) 83 (通勤手当)			
C理事	千円 5,701	千円 3,164	千円 1,914	千円 585 (地域手当) 38 (通勤手当)		H27.8.3	◇
D理事	千円 9,329	千円 6,029	千円 2,131	千円 1,115 (地域手当) 52 (通勤手当)	H27.8.4		◇
A監事 (非常勤)	千円 960	千円 960	千円 0	千円 0 ( )			
B監事 (非常勤)	千円 960	千円 960	千円 0	千円 0 ( )			

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

### 3 役員の報酬水準の妥当性について

#### 【法人の検証結果】

##### 法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,249万円)と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(1,800万円超)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

##### 理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(1,500万円超)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

##### 監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

#### 【主務大臣の検証結果】

専門性の観点及び同等分野の法人との比較において報酬水準は妥当であるとする。また、国及び民間との比較においても報酬水準は下回っていること等から報酬額は適正であるとする。引き続き適正な報酬額の維持に勤めていただきたい。

4 役員の退職手当の支給状況(平成27年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

区分	支給額(総額)	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
	千円	年	月			
法人の長	該当なし					
理事	該当なし					
監事 (非常勤)	該当なし					

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。  
退職公務員「\*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「\*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当なし
理事	該当なし
監事 (非常勤)	該当なし

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。



## II 職員給与について

### 1 職員給与についての基本方針に関する事項

#### ① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

#### ② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

#### [能率、勤務成績が反映される給与の内容]

給与種目	制度の内容
俸給月額 (昇格)	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額 (昇給)	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与:勤勉手当 (査定分)	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。

#### ③ 給与制度の内容及び平成27年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。  
期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に6月に支給する場合においては100分の122.5、12月に支給する場合においては100分の137.5を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。  
勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。  
また、平成27年度においては国家公務員の給与改定に準拠し、①平成26年度の人事院勧告による国の給与制度総合見直しを踏まえ、俸給水準を平均2%引き下げ、②平成27年度の人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均0.4%引き上げ(成28年2月期において平成27年4月に遡及して引き上げを実施)③単身赴任手当の基礎額を3,000円の引上げ、交通距離加算額の改定(支給月額を最大3,000円増額、2区分増設に伴う支給月額の上限引上げ)、④地域手当支給率の引き上げ(東京都特別区18%→18.5%、相模原市10%→10.5%、大阪市15%→15.5%)⑤勤勉手当支給率の引き上げ(年間0.1ヶ月分)を実施した。

## 2 職員給与の支給状況

### ① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	平成27年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
	人	歳	千円	千円	千円	千円
常勤職員	84	44.5	7,761	5,821	163	1,940
事務・技術	35	40.3	6,134	4,595	161	1,539
研究職種	48	47.7	8,987	6,744	163	2,243
技能・労務職種	1	-	-	-	-	-
任期付職員	2	-	-	-	-	-
指定職種	2	-	-	-	-	-
非常勤職員	13	40.3	5,663	5,478	185	176
事務・技術	5	40.7	4,429	3,971	184	458
研究職種	8	40.1	6,434	6,434	186	0

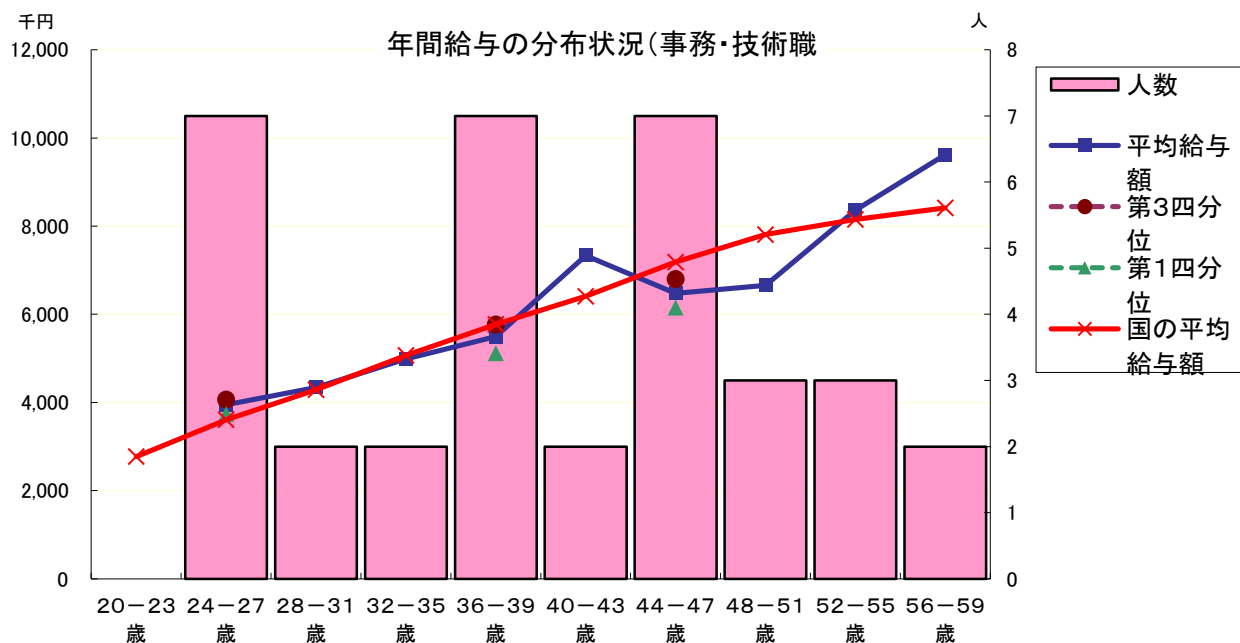
注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種、指定職種、非常勤職員の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

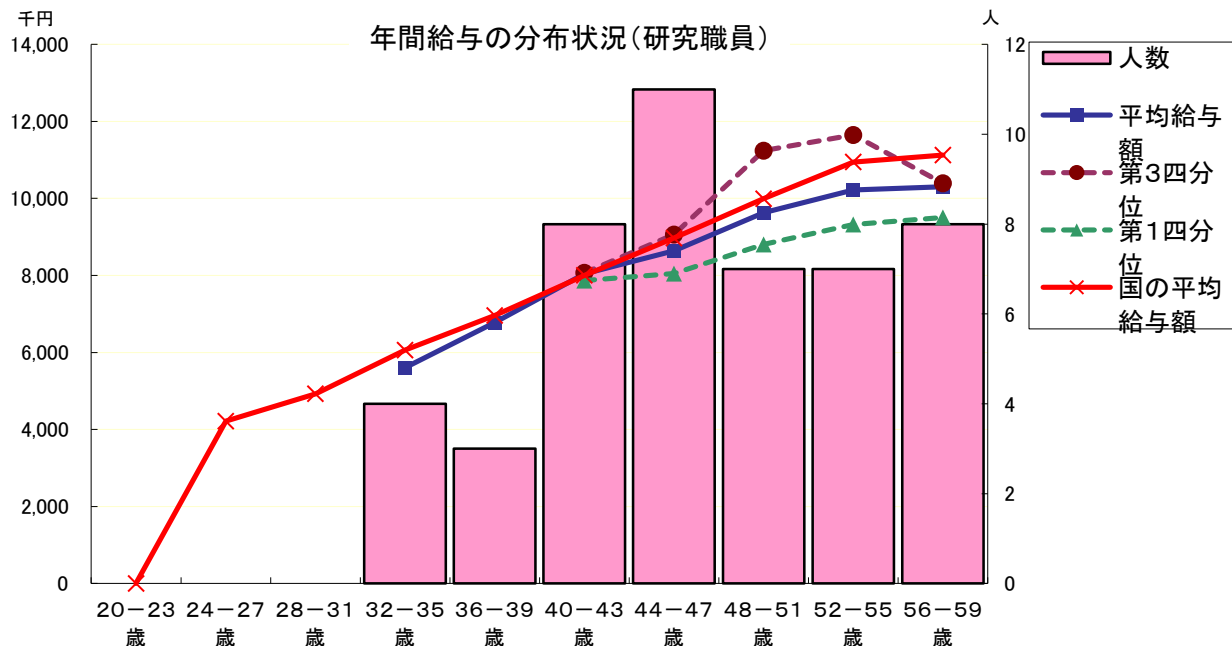
注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2: 年齢28-31歳、32-35歳、40-43歳、48-51歳、52-55歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3四分位を表示していない。



注1: 年齢32-35歳、36-39歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1・第3四分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部課長	2	-	-	-	-
本部係長	4	46.3	6,712	-	-
本部係員	4	28.0	4,105	-	-
地方課長	2	-	-	-	-
地方室長	2	-	-	-	-
地方係長	12	41.8	5,972	7,633	5,073
地方主任	4	39.3	5,377	-	-
地方係員	5	27.3	3,976	4,157	3,653

注1: 本部係長、本部係員、地方主任 の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 本部課長、地方課長、地方室長の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

(研究職員)

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	3	55.5	12,069	-	-
学芸課長	6	53.7	10,610	11,879	8,993
本部主任研究員	1	-	-	-	-
主任研究員	34	47.7	8,675	10,393	6,744
研究員	5	35.3	5,743	6,307	5,210

注1: 副館長の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 本部主任研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

④ 賞与(平成27年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	%	%	%
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	%	%	%
	最高～最低	～	～	～
一般職員	一律支給分(期末相当)	61.8	61.4	61.6
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	38.2	38.6	38.4
	最高～最低	43.2～35.1	43.5～35.9	42～35.9

注:事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

区分		夏季(6月)	冬季(12月)	計
管理職員	一律支給分(期末相当)	56.5	56	56.2
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	43.5	44	43.8
	最高～最低	47.1～36	46.2～39.6	46.6～38
一般職員	一律支給分(期末相当)	61.8	61.7	61.7
	査定支給分(勤勉相当) (平均)	38.2	38.3	38.3
	最高～最低	43.2～35.5	43.5～35.9	40.6～35.8

### 3 給与水準の妥当性の検証等

#### ○事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 98.5</li> <li>・年齢・地域勘案 89.2</li> <li>・年齢・学歴勘案 96.8</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 88.7</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当無し
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 98.1% (国からの財政支出額 11,853百万円、支出予算の総額 12,082百万円：平成27年度予算) 累積欠損額 0円(平成26年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.0% (支出総額(平成27年度決算ベース) 13,551,856千円、給与・報酬等支出総額 946,837千円) 管理職の割合 0%(常勤職員数35名中0名) 大卒以上の割合 80%(常勤職員数35名中28名)</p> <p>(法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を1.5ポイント下回っており、平成27年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果) 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未滿となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準の維持に努める。

○研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢勘案 95.5</li> <li>・年齢・地域勘案 94.2</li> <li>・年齢・学歴勘案 95.1</li> <li>・年齢・地域・学歴勘案 93.9</li> </ul>
国に比べて給与水準が 高くなっている理由	該当無し
給与水準の妥当性の 検証	<p>【国からの財政支出について】            支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 98.1%            (国からの財政支出額 11,853百万円、支出予算の総額 12,082百万円：平成27年度予算)            累積欠損額 0円(平成26年度決算)            支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.0%            (支出総額(平成27年度決算ベース) 13,551,856千円、給与・報酬等支出総額 946,837千円)            管理職の割合 6.3%(常勤職員数48名中3名)            大卒以上の割合 100%(常勤職員数48名中48名)</p> <p>(法人の検証結果)            俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を4.5ポイント下回っており、平成27年度の研究職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)            給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考え。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p>
講ずる措置	引き続き適正な給与水準の維持に努める。

#### 4 モデル給与

- 22歳(大卒初任給、独身)  
月額 176,700円 年間給与 2,605,000円
- 35歳(本部主任、配偶者・子1人)  
月額 338,500円 年間給与 5,492,000円
- 45歳(本部係長、配偶者・子2人)  
月額 433,400円 年間給与 7,025,000円

#### 5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

### III 総人件費について

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 912,147	千円 809,789	千円 840,361	千円 926,999	千円 946,837
退職手当支給額 (B)	千円 56,702	千円 80,676	千円 28,349	千円 23,527	千円 84,167
非常勤役員等給与 (C)	千円 302,530	千円 324,790	千円 286,251	千円 319,000	千円 390,619
福利厚生費 (D)	千円 152,372	千円 148,191	千円 149,801	千円 163,113	千円 184,941
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 1,423,751	千円 1,363,446	千円 1,304,762	千円 1,432,639	千円 1,606,564

注: 中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

#### 総人件費について参考となる事項

- ①「給与、報酬等支給総額」は対前年度比で2.1%増となった。平成27年度人事院勧告を受けた給与改定(俸給表の引き上げ、地域手当支給率の引き上げ、勤勉手当支給率の引き上げ)による影響が最も大きい。
- ②「最広義人件費」は対前年度比で12.1%増となった。増額の主な要因としては、上記①の理由及び退職手当支給額の増加、非常勤職員等給与の増加の影響が大きい。

#### IV その他

特になし。